J.LEAGUE
J.LEAGUE
J STATS REPORT 2024

ファン・サポーターやサッカーに関係する多くの方々にとって
データがより身近に、親しみやすいものになるように

またデータによる新しいサッカーの楽しみ方の提供や
日本サッカーの強化・育成・普及への貢献を目指して創刊したのが

この『J STATS REPORT』です。

本レポートでは、2024シーズンのJリーグ総括、
各局面における分析結果、欧州5大リーグとの比較、
全60クラブのチームスタッツをまとめました。

J STATS REPORTをきっかけとして
自由にフットボール談義をするためにご活用ください。

※「J STATS」とは、Jリーグが認める、試合に関わる様々な競技データの総称です。メンバー表や得点者、警告／退場といった試合記録に関わるものから、選手ごとのパスやドリブル、ボール保持率といったプレーに関するデータ、試合中の走行距離や選手のポジショニングなどの位置情報（トラッキングデータ）など、競技記録系データからパフォーマンス系データまでを含みます。

OVERVIEW

06 Jリーグ全体総括
07 コラム：アナリスト勉強会レポート
08 J1リーグ総括
10 J1優勝チーム
12 J1優勝チームインタビュー
14 最優秀選手賞・ベストイレブン
16 データで選ぶベストイレブン
18 J2リーグ総括
20 J2優勝チーム
22 J3リーグ総括
24 J3優勝チーム

ANALYSIS

28 結果
29 アクチュアルプレーイングタイム
32 ゴール／シュート
34 セットプレー
36 アタッキングサード＆ペナルティーエリア進入
37 クロス
38 ドリブル
39 パス／ポゼッション
40 守備
42 ゴールキーピング
44 フィットネス
46 欧州5大リーグとの比較

TEAM STATS

50 J1チームスタッツ
72 J2チームスタッツ
78 J3チームスタッツ

84 用語集

概 要

OVERVIEW

Ｊリーグ全体総括

OVERVIEW OF THE J.LEAGUE

2024シーズンの明治安田Ｊリーグでは、シーズン終了の瞬間まで熱い戦いが繰り広げられた。最終節で３チームに優勝の可能性があったＪ１リーグでは、ヴィッセル神戸が見事に連覇を果たした。Ｊ２リーグでは最終節で横浜ＦＣがＪ１昇格を決めた。Ｊ１昇格プレーオフ圏内となる４～６位が最終節で全て入れ替わって突入した同プレーオフでは、ファジアーノ岡山が初のＪ１昇格を勝ち取った。Ｊ３リーグでは今シーズンから新たに創設されたＪ２昇格プレーオフで、決勝の後半アディショナルタイムにカターレ富山が値千金のゴールを決めて昇格を果たした。

こうした盛り上がりも影響して、2024シーズンのＪリーグ公式試合における年間総入場者数は、過去最多となる12,540,265人を記録。中でもＪ１昇格組のFC町田ゼルビアと東京ヴェルディは平均入場者数が前シーズンの2倍以上となった。2024年に新スタジアムが完成したサンフレッチェ広島、V・ファーレン長崎、ツエーゲン金沢も平均入場者数を伸ばしている。

また、新しい大会方式となったＪリーグYBCルヴァンカップでは、異なるカテゴリー間での対戦が数多く行われた。特にＪ３のカターレ富山は、Ｊ２王者となる清水エスパルスとＪ１王者のヴィッセル神戸を破ってプレーオフラウンドに進出する快進撃を見せた。史上最多の62,517人が詰め掛けた決勝では、名古屋グランパスがPK戦に及ぶ激闘を制して３年ぶり２度目の栄冠に輝いた。初の決勝進出となったアルビレックス新潟は惜しくも準優勝となった。

今回の『J STATS REPORT 2024』では、前回に引き続き欧州５大リーグとの比較を行っているほか、チームスタッツにＪ２とＪ３のクラブを追加するなど、リーグ間やカテゴリー間の差を意識した内容を盛り込んだ。Ｊクラブのスタッフだけでなく、多くのファン・サポーターの皆さまにとって有益な情報となることを願っている。

● Ｊリーグ歴代優勝チーム

	J1リーグ	J2リーグ	J3リーグ
1993	ヴェルディ川崎		
1994	ヴェルディ川崎		
1995	横浜マリノス		
1996	鹿島アントラーズ		
1997	ジュビロ磐田		
1998	鹿島アントラーズ		
1999	ジュビロ磐田	川崎フロンターレ	
2000	鹿島アントラーズ	コンサドーレ札幌	
2001	鹿島アントラーズ	京都パープルサンガ	
2002	ジュビロ磐田	大分トリニータ	
2003	横浜Ｆ・マリノス	アルビレックス新潟	
2004	横浜Ｆ・マリノス	川崎フロンターレ	
2005	ガンバ大阪	京都パープルサンガ	
2006	浦和レッズ	横浜ＦＣ	
2007	鹿島アントラーズ	コンサドーレ札幌	
2008	鹿島アントラーズ	サンフレッチェ広島	
2009	鹿島アントラーズ	ベガルタ仙台	
2010	名古屋グランパス	柏レイソル	
2011	柏レイソル	ＦＣ東京	
2012	サンフレッチェ広島	ヴァンフォーレ甲府	
2013	サンフレッチェ広島	ガンバ大阪	
2014	ガンバ大阪	湘南ベルマーレ	ツエーゲン金沢
2015	サンフレッチェ広島	大宮アルディージャ	レノファ山口ＦＣ
2016	鹿島アントラーズ	北海道コンサドーレ札幌	大分トリニータ
2017	川崎フロンターレ	湘南ベルマーレ	ブラウブリッツ秋田
2018	川崎フロンターレ	松本山雅ＦＣ	ＦＣ琉球
2019	横浜Ｆ・マリノス	柏レイソル	ギラヴァンツ北九州
2020	川崎フロンターレ	徳島ヴォルティス	ブラウブリッツ秋田
2021	川崎フロンターレ	ジュビロ磐田	ロアッソ熊本
2022	横浜Ｆ・マリノス	アルビレックス新潟	いわきＦＣ
2023	ヴィッセル神戸	ＦＣ町田ゼルビア	愛媛ＦＣ
2024	ヴィッセル神戸	清水エスパルス	大宮アルディージャ

コラム：アナリスト勉強会レポート

Ｊクラブのアナリストたちが集結 学びを共有するコミュニティへ

2024年12月12日、日本サッカー協会（JFA）が発信する新たなサッカー体験施設「blue-ing！（ブルーイング）」で、JFAとＪリーグの共催によるＪクラブ向けのアナリスト勉強会を行った。もともとはアナリストがプライベートで集まる場だったが、重要性を増すアナリストの養成や情報共有のために2021年から現在の形で開催されるようになった。

プログラムの内容はJFAとＪリーグが話し合って決められるが、JFAテクニカルハウスの代表活動報告、海外や他競技の最新事例紹介、参加者のディスカッションなどが定番メニューとなっている。

JFAのテクニカルハウスは日本代表のサポートはもちろん、実験的なルールや新たなトレンドの発信源になるアンダーカテゴリーの国際大会で貴重な情報をキャッチアップしている。この勉強会はJFAの分析チームが得た現場での貴重な知見をＪクラブのアナリストたちに共有する場としても機能している。今回はAFCアジアカップ2023を例に、分析チームの体制やミーティングなどのスケジュール、東京大学や筑波大学の大学生によるサポートチーム運用方法まで含めて詳細に伝えられた。

海外セッションは「シーズン中は多忙のためインプットの機会をつくりづらいＪクラブのアナリストのために最新事例を提供する時間にしたい」という目的で組まれている。2024年7月には、Ｊリーグインターナショナルシリーズのため来日していたニューカッスル ユナイテッド（イングランド）のトップチームパフォーマンスアナリストがパフォーマンス分析について講義を行った。今回はボルシア・メンヘングラートバッハ（ドイツ）のヘッド・オブ・アナリストがクラブにデータ部門を設立するまでの経緯を解説。その他にも、データスタジアム社のFootball BOXや海外のトラッキングデータ分析サービスなどの新たなテクノロジーツールの紹介も実施された。

ディスカッション・パートでは、グループに分かれて「アナリストの課題」「分析の体制・役割分担」「Ｊリーグへの要望」などの共通テーマで議論。「シーズン中は問題点を含めて他クラブのアナリストと意見交換できる機会がないので、有意義な時間になった」というのはもちろん、「アナリスト同士の横のつながりができる」というコミュニティ化の価値を評価する声が多かった。ランチセッションや懇親会など今回から始まった取り組みも、それを後押しする意図だ。

コロナ禍での開催となった2021年にはオンラインのみで50人ほどだった参加者数が、今回はオンライン・オフライン合わせると倍以上に増加。各クラブのアナリストだけでなく強化部からの参加者もおり、この分野への関心の高まりも感じられる。

データの活用、試合分析が勝敗に及ぼす影響が年々大きくなっていく中でアナリストの発掘や育成、そして地位向上はサッカー界全体で取り組んでいくべき課題といえる。「われわれができるのはあくまでサポートや場をつくること。オフシーズン以外でもクラブ間を横断した情報共有の機会をつくっていきたい」というのがＪリーグ側の願いだ。

サッカー界で徐々に存在感を高めているアナリストたちが集う場で、何より印象的だったのは参加者の若さとエネルギーだ。午前11時に始まったイベントは、懇親会も含めて20時過ぎまで熱気に包まれていた。

（文：footballista 浅野 賀一）

J1リーグ総括

2024明治安田Ｊ１リーグは、10シーズンぶりに最終節で３チームに優勝の可能性が残される混戦のシーズンとなった。その三つどもえを制したのはヴィッセル神戸。大半を首位で過ごした2023シーズンとは一転して追う立場となる展開が続いたが、第35節にトップの座を奪還し、その後は譲ることなく戴冠。史上６クラブ目となるＪ１リーグ連覇、さらには天皇杯 JFA第104回全日本サッカー選手権大会との２冠を達成した。

頂点にはあと一歩届かなかったが、最後まで優勝争いを繰り広げたのはサンフレッチェ広島とFC町田ゼルビア。前者は攻撃面で、後者は守備面で秀でたスタッツを残した。３シーズン連続となるトップ３入りを果たしたサンフレッチェ広島は、昨シーズンの42得点を大きく上回るリーグ最多の72得点を記録。無得点試合数は３とリーグで最も少なく、複数得点試合数は20でリーグ最多タイと、シーズンを通して安定した高い得点力が目立った。史上初のＪ１初挑戦で優勝という大偉業に挑んだFC町田ゼルビアは、Ｊ１昇格組で初めてとなるリーグ最少失点の達成を筆頭に、Ｊ１歴代４位のクリーンシート率47.4%、歴代２位タイのクリーンシート数18と、堅牢な守備が際立った。

2024シーズンは優勝争い以外でも勝点差の少ない１年だった。４試合を残して初のＪ２降格が決まってしまったサガン鳥栖が獲得した勝点の１試合平均は0.92で、最下位チームの１試合平均勝点としては、延長戦が廃止された2003シーズン以降で最高の数字となっている。また、リーグ戦中盤にパリオリンピックの開催に伴って設けられた中断期間を経て、８月以降に成績を大きく好転させたチームがあったことも今シーズンの特徴といえる。７月までの前半と８月以降の後半に分けて順位を見ると、京都サンガF.C.は前半17位に対して後半は4位タイ、北海道コンサドーレ札幌は前半20位から後半７位、湘南ベルマーレは前半16位から後半10位と、前半戦で下位に沈んでいたチームの復調が目立った。

得点王に輝いたのは24得点を挙げた横浜F・マリノスのアンデルソン ロペス。終盤までセレッソ大阪のレオ セアラにリードされていたが、残り４試合でハットトリックを含む５得点を奪って逆転。史上４人目の２年連続受賞もさることながら、Ｊ１で10人目となる２年連続での20得点以上という偉業も成し遂げた。レオ セアラは自身初のタイトルは惜しくも逃したものの、６試合連続ゴールを筆頭に21得点を記録。Ｊリーグ復帰４シーズン目で20得点以上の大台に乗せた。

● 順位表

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	ヴィッセル神戸	72	21	9	8	61	36	25
2	サンフレッチェ広島	68	19	11	8	72	43	29
3	FC町田ゼルビア	66	19	9	10	54	34	20
4	ガンバ大阪	66	18	12	8	49	35	14
5	鹿島アントラーズ	65	18	11	9	60	41	19
6	東京ヴェルディ	56	14	14	10	51	51	0
7	FC東京	54	15	9	14	53	51	2
8	川崎フロンターレ	52	13	13	12	66	57	9
9	横浜F・マリノス	52	15	7	16	61	62	-1
10	セレッソ大阪	52	13	13	12	43	48	-5
11	名古屋グランパス	50	15	5	18	44	47	-3
12	アビスパ福岡	50	12	14	12	33	38	-5
13	浦和レッズ	48	12	12	14	49	45	4
14	京都サンガF.C.	47	12	11	15	43	55	-12
15	湘南ベルマーレ	45	12	9	17	53	58	-5
16	アルビレックス新潟	42	10	12	16	44	59	-15
17	柏レイソル	41	9	14	15	39	51	-12
18	ジュビロ磐田	38	10	8	20	47	68	-21
19	北海道コンサドーレ札幌	37	9	10	19	43	66	-23
20	サガン鳥栖	35	10	5	23	48	68	-20

● 得点ランキング

順位	選手	チーム	得点
1	アンデルソン ロペス	横浜FM	24
2	レオ セアラ	C大阪	21
3	山田 新	川崎F	19
3	ジャーメイン 良	磐田	19
5	鈴木 優磨	鹿島	15

● アシストランキング

順位	選手	チーム	アシスト
1	ルーカス フェルナンデス	C大阪	10
2	名古 新太郎	鹿島	9
2	大迫 勇也	神戸	9
4	鈴木 優磨	鹿島	8
4	ヤン マテウス	横浜FM	8
4	宇佐美 貴史	G大阪	8
4	東 俊希	広島	8

OVERVIEW

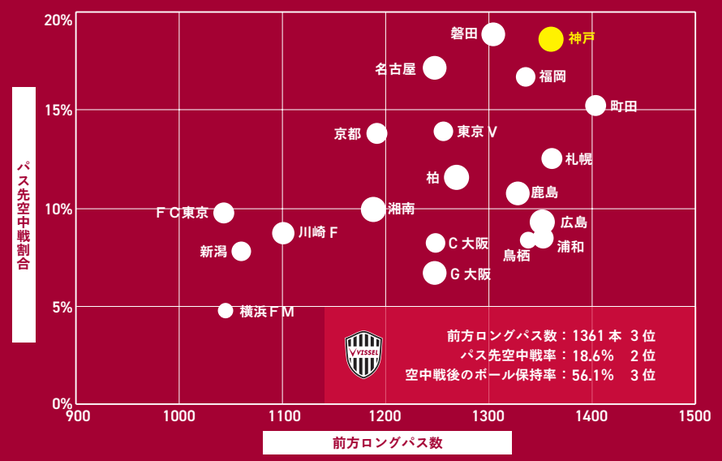
▸J１優勝チーム：ヴィッセル神戸

Ｊ１リーグ連覇を果たしたヴィッセル神戸だが、数字を振り返ると2024シーズンは苦戦を強いられたシーズンとなった。今シーズンから20チーム制となり、試合数は４試合増えているが、勝点（2023:勝点71、2024:勝点72）と得点数（2023:得点60、2024:得点61）は昨シーズンとほぼ同数、失点数（2023:失点29、2024:失点36）はやや増加している。順位でも、大半の期間を首位で過ごした昨シーズンと比べ、首位に立っていた回数は各節の終了時点で６回しかない。しかし、優勝を争ったサンフレッチェ広島とFC町田ゼルビアが残り10試合で４敗を喫した一方、ヴィッセル神戸は１敗のみ。初めて体験する「王者包囲網」に苦しみながらも、最後の最後で地力を見せつけて栄冠を勝ち取った。

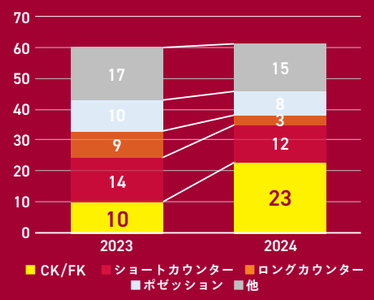
ヴィッセル神戸は昨シーズンに続いてロングパスを多用するチームで、前方へのロングパス数はリーグ３位となっている。その受け手としてターゲットになったのが得点源でもある武藤 嘉紀と大迫 勇也で、前者はリーグ２位、後者は同４位の前方ロングパス受け数を記録した。前方ロングパスが多いチームの中で、パス先で空中戦となる割合が高く、競らせないボールやスペースへのボールが多いサンフレッチェ広島や浦和レッズとはロングパスの使い方が違うことが読み取れる。さらに、空中戦後のボール回収が重要となるが、そのボール保持率でもリーグ３位の56.1%、保持数は142回で同１位を誇る。空中戦の勝敗にかかわらずセカンドボールを多く拾えており、意図的なロングボールと適切な選手配置で攻撃を組み立てていたことがわかる。

得点パターンの内訳を昨シーズンと比較すると、2023シーズン１位だったカウンターアタック（ショートカウンター＋ロングカウンター）での得点数が23点から15点へと減少している。代わりに増えたパターンがコーナーキックとフリーキックからの得点で、倍以上に増加した。セットプレーからのクロス成功率では、初瀬 亮がリーグ２位、扇原 貴宏が同３位にランクインしており、流れの中から得点が取れなくても、セットプレーで効率よく得点を奪っていた。特に、キャリアハイの３得点をマークした山川 哲史は、いずれもコーナーキックからの得点であった。

● 前方ロングパス数とパス先の空中戦割合 ※●のサイズは空中戦後のボール保持率の高さを表す



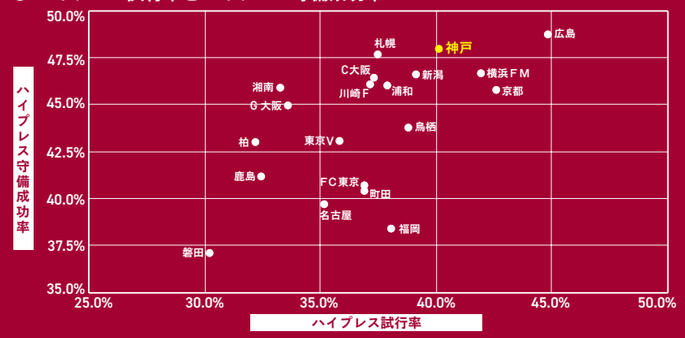
● 得点パターンの昨シーズン比較



● セットプレーからのクロス成功率 ※クロス50本以上の選手が対象

順位	選手	チーム	成功率	クロス成功	クロス	出場	出場時間（分）
1	名古 新太郎	鹿島	45.3%	43	95	36	2400
2	初瀬 亮	神戸	44.3%	66	149	35	2311
3	扇原 貴宏	神戸	43.3%	39	90	35	2906
4	鈴木 準弥	町田	37.2%	29	78	24	1434
5	ルーカス フェルナンデス	C大阪	37.1%	62	167	35	2787

● ハイプレス試行率とハイプレス守備成功率



● 相手陣でのボールゲイン数 ※()内は全選手中の順位

順位	選手	チーム	ボールゲイン	相手陣でのタックルまたはインターセプトによるボールゲイン	相手陣での5秒未満でのリゲイン	出場	出場時間（分）
1	扇原 貴宏	神戸	121	26（2）	45（1）	35	2906
2	田中 駿汰	C大阪	98	14（12）	44（2）	37	3287
3	塩谷 司	広島	97	11（39）	39（4）	37	3118
4	橋田 健人	川崎F	92	28（1）	44（2）	35	2961
5	知念 慶	鹿島	87	17（7）	36（6）	33	2882

● 相手陣PA内中央へのスプリント

順位	選手	チーム	スプリント	90分平均	出場	出場時間（分）
1	山田 新	川崎F	56	2.51	38	2006
2	アンデルソン ロペス	横浜FM	54	1.54	37	3153
3	オ セフン	町田	52	2.09	33	2241
4	宮代 大聖	神戸	48	2.07	32	2085
5	細谷 真大	柏	44	1.56	32	2546

● PA内シュート成功率 ※PKを除く ※PA内シュート数20本以上の選手が対象

順位	選手	チーム	シュート成功率	ゴール	シュート	出場	出場時間（分）
1	宮代 大聖	神戸	39.3%	11	28	32	2085
2	ジャーメイン 良	磐田	38.5%	15	39	32	2812
3	濃野 公人	鹿島	36.4%	8	22	31	2713
4	福田 翔生	湘南	36.0%	9	25	34	1897
5	山田 新	川崎F	32.6%	15	46	38	2006

● 先発時１試合平均ハイインテンシティ走行距離

順位	選手	チーム	走行距離（km）	先発
1	井手口 陽介	神戸	1.29	20
2	平河 悠	町田	1.26	17
3	福田 心之助	京都	1.22	33
4	岩崎 悠人	福岡	1.18	31
5	畑 大雅	湘南	1.18	20

守備面は昨シーズンと変わらず、前線からボールを奪いに行く戦術を生命線としていた。ハイプレス試行率とハイプレス守備成功率を見ると、共に高い右上に位置している。この守備戦術において今シーズンのキーマンとなったのが扇原 貴宏で、相手陣でのボールゲイン数は２位の選手を大きく引き離してリーグ１位を記録。高い位置での対人でのボール奪取、パスカット、即時奪回など、相手ゴールにより近い位置でボールを回収して攻撃につながるケースが多かったことが読み取れる。扇原 貴宏は、昨シーズンから所属する選手の中で、最も出場時間を伸ばした（2023:694分、2024:2906分）。

また、ベストイレブンに選出されたマテウス トゥーレルも昨シーズンから出場時間を大きく伸ばし（2023:1669分、2024:3194分）、リーグ２位のクリア数178や同４位タイのトップスピード35.3km/hを記録するなど、彼らによるチーム力の底上げも連覇に大きく貢献した。

続いて、新戦力の活躍にもスポットライトを当てたい。宮代 大聖は武藤 嘉紀に次ぐチーム２位タイの11得点を挙げた。攻撃面ではペナルティーエリア内中央へのスプリント回数が56回でリーグ４位、ペナルティーエリア内シュート成功率は39.3%でリーグ１位。守備面ではプレス数が1036回でチーム１位を記録。インサイドハーフで起用されることも多かった中で、チームスタイルに合わせつつ、自らの長所を存分に発揮した。

また28試合に出場した井手口 陽介は、先発時の１試合平均ハイインテンシティ走行距離が1.29kmでリーグ１位を記録し、中盤のダイナモとして攻守に走り回った。

OVERVIEW

▶ ヴィッセル神戸 データプラットフォーム部インタビュー

トップチームのデータに関わる全領域を支える専門家集団が実践する「データをワークさせる仕組み」

■データプラットフォーム部のユニークな立ち位置

2024明治安田Ｊ１リーグを制したヴィッセル神戸は、ピッチ上の結果だけでなくデータ活用に関しても先進的な取り組みを行っている。

「データプラットフォーム部が設立されたきっかけは、三木谷浩史会長の声掛けでした。人の入れ替わりが激しいプロの世界では、成功が属人的になってしまうことがあります。そうではなく、ビジネスの世界と同じように科学的アプローチを増やして組織として積み上げていく仕組みをつくり、トップチーム全体が継続的に成長していくサポートをすることが目的になります」

そう語ってくれたのは、データプラットフォーム部の部長を務める饗場 雄太氏。楽天でECサイトの広告システム開発・分析を担当していた饗場氏は、2019年にこの部署が創設されたタイミングでサッカー界に籍を移したビジネス分野のデータ畑出身者である。同部の担当領域はデータに関わる全て、スカウティングなど強化部の仕事から現場での分析まで多岐にわたる。立ち上げ5年間で数名のスタッフが所属しているが、ユニークなのはそれぞれが複数セクションの業務を兼任していること。

「もしかしたら海外クラブのデータ部門とは異なるやり方かもしれませんが、神戸では現場での業務の流れや課題をより深く理解し、データを活用した運用サイクルを構築していくために、それぞれのスタッフが各現場を兼任しています。例えば、私はパフォーマンスメディカル、松本は現場のアナリストの一員として分析業務を担ってもらっています」（饗場氏）

この部署の立ち上げメンバーでもある松本 大地氏は、一般的なアナリストと同じように現場で監督を支えるテクニカルスタッフの一員として名を連ねている。

「イメージとしては、データプラットフォーム部と現場の半々に籍を置いている形です。そのおかげで監督やコーチたちが今抱えている課題や空気感を部署全体で共有できています」（松本氏）

■データはコミュニケーションツール

データが持つメリットの一つとして饗場氏や松本氏が挙げてくれたのがコミュニケーションツールとしての機能だ。

「それぞれの監督にはやりたいサッカーがあるので、その実現度を測るための指標を設定しています。それを強化部と共有することで、今現場で何が起こっているのかを理解できる一助になりますし、現場と強化の目線がそろい同じ言葉で話せるようになる効果もあります」（饗場氏）

「試合の振り返りとして、僕らが『朝刊』と呼んでいる試合明けの練習日の朝に監督が気にしているポイントとなるスタッツ、試合のチーム・個人のパフォーマンスデータを一目で見やすく一覧できるものを渡しています。それを見てコミュニケーションが生まれ、現場で議論に発展することもあります」（松本氏）

同時に松本氏が意識しているのは、本質的なデータの見極めや見せ方だ。膨大なデータの中から本当に伝えて意味のある情報のみに絞り、イラスト加工なども用いて直感的に理解できるように工夫しているという。貴重なデータも伝わらなければ宝の持ち腐れとなるからだ。

「誤解されたくないのが、われわれは今現在、完全なるデータドリブンな世界を目指しているわけではありません。複雑性が高いサッカーという競技で数字をうのみにする危険性は理解していますし、プロフェッショナルの経験や知識をリスペクトしています。彼らの定性的な評価と定量的な評価を合わせて意思決定のクオリティを上げていく助けになればと考えています」（饗場氏）

データは敵ではなく味方――というスタンスを徹底してきたことで、神戸の監督･コーチ･スタッフの信頼度も増してきたという。「特に自分の感覚が裏付けられるデータがあると、『データっていいね』と感じてくれるみたいです」と松本氏は笑う。

■データを見る「目」が増える利点

フィジカルデータを取り扱う饗場氏は「データを解釈するのはスペシャリストであるフィジカルコーチの仕事」と強調しつつ、データを見る「目」が増える利点を教えてくれた。

「2023年も2024年も吉田監督の志向しているサッカーは変わっていないのですが、トラッキングレポートを通年で見ると試合のインテンシティの傾向は異なります。プレシーズンにおける調整の違い、試合数の違い、気温などの外的要因によってインテンシティのピークや変動に変化が生まれています。例えば11月の試合日の平均気温は2023年と比べてプラス８度ほど2024年の方が高いんです」（饗場氏）

こうした一歩引いた角度からの統計的な分析は、週末の試合に向けた毎日のトレーニング、対戦相手の分析や選手のコンディション管理に神経を集中している監督・コーチ陣には持ちにくい視点だろう。

シーズン終了後、あるいはサマーブレーク中には各セクションの現場に出ていたスタッフたちがデータプラットフォーム部に戻り、自分たちの戦術的なポイントを振り返る総括を行う。それぞれの現場での気付きを各スタッフが持ち寄り、一つ一つ積み上げていくさまざまなデータが、クラブのナレッジとして同部にアーカイブされていくわけだ。

■結果に一喜一憂せず、未来につなげる仕事

リーグ戦2連覇の快挙を達成した神戸だが、データプラットフォーム部の目線はすでに未来に向いている。

「われわれとしては優勝したことを喜ぶよりも、勝てた理由をブレークダウンしてクラブの学びとして未来につなげていきたいです。川崎フロンターレや横浜F・マリノスを見ても、勝ち続けることの難しさは理解しているつもりです。サッカーは人がやるスポーツ。すべてがうまくいくことはないですし、いい時も悪い時もその原因をしっかり分析していくことが大事だと考えています」（饗場氏）

「２連覇は監督・コーチ・選手たちの頑張りから生まれた成果で、僕らがそこに一喜一憂することはないです。データの価値の一つは、数字として自分たちの成長を可視化できること。右肩上がりの成長を続けること、常に前年の自分たちを超えるという意識を持つことが、今後は求められていくと思います」（松本氏）

来シーズンの展望として饗場氏が挙げてくれた視点もユニークだった。

「AFCチャンピオンズリーグを戦った今シーズン序盤の横浜F・マリノスは、かなりの過密日程を強いられていました。来シーズンはうちがその状況に陥るので、当時の横浜F・マリノスのデータから見えてきた傾向は現場にも伝えられればと考えています」

最後に、データプラットフォーム部としての今後の目標を饗場氏に聞いてみた。

「ここまでの５年間でトップチームの各領域にデータが根付いてきたので、それをアカデミーにまで広げていくことが、中・長期的な目標になります。トップ選手の試合スタッツやフィジカルデータは若手のベンチマークになりますし、アカデミーの選手たちの成長の過程をアーカイブしておくこともクラブの財産になります。いずれにしても、結果を冷静に受け止め、分析して、クラブの血肉にしていくサイクルを地道に続けていきたいです。まずは来シーズンに待ち構えている過密日程に立ち向かっていけるように、現場をサポートできる材料をそろえていきたいです」

（文：footballista 浅野 賀一）

PLAYER OF THE YEAR

武藤嘉紀
YOSHINORI MUTO

FW | ヴィッセル神戸

出場試合	出場時間（分）	ゴール	シュート	シュート成功率	アシスト
37	3088	13	88	14.8%	7

▶ KEY STATS

13
得点数
（自己最多タイ）

72
オープンプレーの
PA内シュート数
（リーグ1位）

21
ドリブルでのPA内進入数
（リーグ8位）

138
裏抜けから5秒未満のプレー数
（リーグ1位）

660
スプリント回数
（リーグ4位）

▶ COMMENT

2024シーズンはＪ１リーグ37試合に出場し、自己最多タイとなる13ゴールと7アシストを記録。オープンプレーのペナルティーエリア内シュート数がリーグ1位であるだけでなく、ドリブルでのペナルティーエリア内進入数を昨シーズンの8回から21回と大きく増やしており、今シーズンはよりゴールに近いエリアでのプレーが増え、多くの得点機会を生み出した。また、得点を挙げた試合では11戦9勝と勝負強さを発揮した。特に、第37節の柏レイソル戦では終了間際に同点ゴールを決め、最終節の湘南ベルマーレ戦ではチーム2点目を決める活躍で、ヴィッセル神戸のリーグ連覇に大きく貢献した。

▶ 試合別成績

日付	対戦相手	結果	出場時間（分）	ゴール	シュート	アシスト
2/24	磐田	勝 2-0	-	-	-	-
3/2	柏	負 0-1	39	0	1	0
3/9	FC東京	勝 2-1	89	0	2	0
3/16	広島	分 0-0	90	0	3	0
3/30	札幌	勝 6-1	90	2	4	0
4/3	鳥栖	分 0-0	90	0	3	0
4/7	横浜FM	負 1-2	79	0	0	0
4/13	町田	勝 2-1	90	1	5	0
4/20	湘南	勝 1-0	90	1	3	0
4/27	京都	負 0-1	90	0	7	0
5/3	名古屋	勝 2-0	88	0	2	0
5/6	新潟	勝 3-2	30	0	1	0
5/11	C大阪	勝 4-1	90	0	2	2
5/15	福岡	勝 1-0	90	0	2	0
5/19	鹿島	負 0-1	90	0	4	0
5/26	東京V	負 0-1	90	0	3	0
6/1	浦和	分 1-1	90	0	1	0
6/16	川崎F	勝 1-0	80	1	2	0
6/22	G大阪	負 1-2	90	1	3	0
6/26	町田	分 0-0	90	0	1	0
6/30	鹿島	勝 3-1	90	1	3	0
7/5	広島	勝 3-1	90	0	1	2
7/13	札幌	分 1-1	90	0	1	0
7/20	名古屋	分 3-3	90	0	2	0
8/7	川崎F	負 0-3	68	0	1	0
8/11	横浜FM	勝 2-1	90	2	7	0
8/17	G大阪	分 2-2	18	0	0	0
8/25	鳥栖	勝 2-0	78	0	0	2
9/1	福岡	勝 2-0	90	0	1	1
9/13	C大阪	勝 2-1	90	0	2	0
9/22	新潟	勝 3-2	90	1	2	0
9/28	浦和	勝 1-0	90	1	3	0
10/6	京都	勝 3-2	90	0	2	0
10/18	FC東京	負 0-2	90	0	3	0
11/1	磐田	勝 2-0	89	0	4	0
11/10	東京V	分 1-1	90	0	2	0
11/30	柏	分 1-1	90	1	1	1
12/8	湘南	勝 3-0	90	1	4	0

BEST ELEVEN PLAYERS

大迫 敬介 KEISUKE OSAKO
GK | サンフレッチェ広島
出場試合38 / クリーンシート12
初受賞
1.1
1試合平均失点数
リーグ4位タイ

濃野 公人 KIMITO NONO
DF | 鹿島アントラーズ
出場試合 31 / ゴール9
初受賞
9
得点数
リーグ1位（DF登録選手）

中谷 進之介 SHINNOSUKE NAKATANI
DF | ガンバ大阪
出場試合 38 / ゴール 4
初受賞
35
シュートブロック数
リーグ2位

マテウス トゥーレル MATHEUS THULER
DF | ヴィッセル神戸
出場試合 36 / ゴール 2
初受賞
102
自陣空中戦勝利数
リーグ1位タイ

佐々木 翔 SHO SASAKI
DF | サンフレッチェ広島
出場試合 36 / ゴール 3
初受賞
344
ボールゲイン数
リーグ2位（DF登録選手）

マテウス サヴィオ MATHEUS SAVIO
MF | 柏レイソル
出場試合 38 / ゴール 9
初受賞
155
チャンスクリエイト数
リーグ1位

知念 慶 KEI CHINEN
FW | 鹿島アントラーズ
出場試合 33 / ゴール 3
初受賞
138
デュエル勝利数
リーグ1位

アンデルソン ロペス ANDERSON LOPES
FW | 横浜F・マリノス
出場試合 37 / ゴール 24
2回目
24
得点数
リーグ1位

宇佐美 貴史 TAKASHI USAMI
FW | ガンバ大阪
出場試合 35 / ゴール 12
3回目
41
枠内シュート数
リーグ3位

大迫 勇也 YUYA OSAKO
FW | ヴィッセル神戸
出場試合 36 / ゴール 11
3回目
185
相手陣PA内プレー数
リーグ1位

※各スタッツ順位はＪ１リーグ出場数が19試合以上の選手が対象

データで選ぶベストイレブン

本章では、J STATSを基に選出したベストイレブンを紹介する。ポジションごとに複数の評価テーマと関連するスタッツを定めてスコアを算出し、評価テーマごとの重要度を掛け合わせたトータルスコアの高い順に選出している。対象選手は各ポジションで総試合数の半分にあたる19試合以上に先発出場した選手とする。

なお、このスコアはあくまで対象選手内の傑出度を測るためであり、選手の優劣をつけたり、異なるポジションの選手と比較したりするものではない。

GK

谷 晃生
FC町田ゼルビア
トータルスコア 587

ゴールキーパーは谷 晃生（FC町田ゼルビア）が587点でトップとなった。クロス対応で1位、攻撃への関与で2位、カバー範囲で3位、セーブ力で4位と、全ての評価テーマで上位に入る活躍ぶりで、リーグ最少失点のチームを支えた。特にクロス対応ではリーグトップのクロスキャッチ88回を記録。ピンチの芽を摘むだけでなく、守備から攻撃への切り替えでも貢献した。

CB

岡村 大八
北海道コンサドーレ札幌
トータルスコア 552

中谷 進之介
ガンバ大阪
トータルスコア 551

センターバックの候補選手45人から選ばれたのは岡村 大八（北海道コンサドーレ札幌）と中谷 進之介（ガンバ大阪）。

ボール奪取で1位となった岡村 大八は、ディフェンシブサードでのタックル奪取数が58回（タックル奪取率は72.5%）と、2位のリカルド グラッサ（ジュビロ磐田）の33回（タックル奪取率は61.1%）を圧倒的に引き離すスタッツを記録。アグレッシブにボールを奪い切ることのできる対人の強さが見て取れる。

中谷 進之介は危機回避で1位、攻撃への関与で3位、得点への関与で5位と、3つの評価テーマで5位以内にランクイン。自陣ペナルティーエリア内クリア数が134回でリーグトップとなったことに加えて4ゴールを挙げるなど、両ゴール前での強さが光った。

SB/WB

鈴木 雄斗
湘南ベルマーレ
トータルスコア 536

藤原 奏哉
アルビレックス新潟
トータルスコア 518

サイドバックおよびウイングバックでは、候補選手30人の中から鈴木 雄斗（湘南ベルマーレ）と藤原 奏哉（アルビレックス新潟）が選出された。

鈴木 雄斗は攻撃への関与と守備への関与で共に2位。総走行距離388.4kmがリーグ8位、スルーパスを受けた回数は44回で同7位、ディフェンシブサードでのタックル数は55回で同3位と、走攻守そろった総合力の高さを発揮した。

藤原 奏哉は守備への関与で1位。クロスブロック数31回はリーグトップ。他にも同9位のタックル奪取数57回、同5位の総走行距離400.6kmを記録するなど、球際の強さと豊富な運動量を見せた。

※サイドバックとウイングバックは同ポジションとして扱う

MF

マテウス サヴィオ
柏レイソル
トータルスコア 648

武藤 嘉紀
ヴィッセル神戸
トータルスコア 576

ルーカスフェルナンデス
セレッソ大阪
トータルスコア 564

MF

渡邊 凌磨
浦和レッズ
トータルスコア 549

稲垣 祥
名古屋グランパス
トータルスコア 531

ミッドフィルダーの候補選手45人から選ばれたのは、マテウス サヴィオ（柏レイソル）、武藤 嘉紀（ヴィッセル神戸）、ルーカス フェルナンデス（セレッソ大阪）、渡邊 凌磨（浦和レッズ）、稲垣 祥（名古屋グランパス）の5人。

マテウス サヴィオはチャンスメークで1位、得点への関与と運動量で2位となった。特にスルーパス成功数107本が2011シーズン以降のＪ１最多記録を更新するなど、チャンスメークでは他選手の追随を許さない驚異的なスコアを記録した。

今シーズンのＪ１の最優秀選手賞に選ばれた武藤 嘉紀は、13ゴール7アシストを記録し得点への関与で1位。スプリント回数でもリーグ4位の660回を記録し、常に相手ゴール前で脅威となっていた。

ルーカス フェルナンデスはチャンスメークで2位。コーナーキックとフリーキックからのラストパス数がリーグ最多の35本と、セットプレーのキッカーとしての存在感も高かった。

渡邊 凌磨は運動量で1位。リーグトップの総走行距離442.5kmを記録し、2位に約40kmの大差をつけたほか、スプリント回数でも564回で同8位となり、強度の高さを見せた。

稲垣 祥はデュエルで2位、守備への関与で4位と、主に守備面での活躍が目立った。特にデュエル勝率は75.0%、デュエル勝利数は105回で共にリーグ3位であった。

※ウイングの選手はミッドフィルダーに含める

CF

ジャーメイン 良
ジュビロ磐田
トータルスコア 536

最後にセンターフォワードの候補選手21人からは、ジャーメイン 良（ジュビロ磐田）が選ばれた。ゴール期待値13.4を大きく上回る19ゴールを記録し、決定力で1位となった。また、得点への関与と守備への関与でも4位に入るなど、守備機会の多かったチームの中で攻守にわたって役割を果たしていたことがわかる。

ポジション	評価テーマ	関連スタッツ	評価スコア	上位3選手
GK	セーブ力	被シュートの失点期待値 被シュートによる失点数	79.4	一森 純（G大阪）
			60.2	チョン ソンリョン（川崎F）
			60.1	早川 友基（鹿島）
	クロス対応	クロスキャッチ数 PA外からの被クロスキャッチ率	84.2	谷 晃生（町田）
			58.9	西川 周作（浦和）
			56.3	菅野 孝憲（札幌）
	攻撃への関与	ショートパス成功数 パイパス数 前方パス成功率	60.4	小島 亨介（新潟）
			58.1	谷 晃生（町田）
			58.0	ポープ ウィリアム（横浜FM）
	カバー範囲	エリア外ゲイン数 走行距離	66.8	キム ジンヒョン（C大阪）
			63.4	朴 一圭（鳥栖）
			61.0	谷 晃生（町田）
CB	危機回避	PA内クリア数、PA外クリア数 シュートブロック数、クロスブロック数	67.8	中谷 進之介（G大阪）
			65.4	リカルド グラッサ（磐田）
			64.5	山崎 浩介（鳥栖）
	空中戦	自陣空中戦勝利数 自陣PA内空中戦勝利数 自陣空中戦勝率	64.9	荒木 隼人（広島）
			64.4	植田 直通（鹿島）
			63.2	マテウス トゥーレル（神戸）
	ボール奪取	DTタックル奪取数 DTタックル奪取率	75.9	岡村 大八（札幌）
			61.3	西尾 隆矢（C大阪）
			59.3	中野 就斗（広島）
	攻撃への関与	パイパス数 キャリー数	70.2	エドゥアルド（横浜FM）
			68.5	佐々木 旭（川崎F）
			64.5	中谷 進之介（G大阪）
	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	88.2	中野 就斗（広島）
			68.2	谷口 栄斗（東京V）
			65.3	佐々木 翔（広島）
SB/WB	攻撃への関与	パイパス数 スルーパス数 スルーパス受け数	72.1	安西 幸輝（鹿島）
			64.8	鈴木 雄斗（湘南）
			60.3	初瀬 亮（神戸）
	守備への関与	タックル奪取数 シュートブロック数 クロスブロック数	73.5	藤原 奏哉（新潟）
			66.4	鈴木 雄斗（湘南）
			65.2	植村 洋斗（磐田）
	突破力、クロス	クロス数、クロスによるラストパス数 ドリブル成功数、ドリブルからのシュート数	67.5	松原 后（磐田）
			66.3	岩崎 悠人（福岡）
			63.9	近藤 友喜（札幌）
	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	78.0	濃野 公人（鹿島）
			67.5	東 俊希（広島）
			65.4	近藤 友喜（札幌）
	運動量	走行距離 スプリント回数	66.6	岩崎 悠人（福岡）
			63.7	安西 幸輝（鹿島）
			63.7	福田 心之助（京都）
MF	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	87.0	武藤 嘉紀（神戸）
			78.3	マテウス サヴィオ（柏）
			78.1	加藤 陸次樹（広島）
	守備への関与	ミドルプレス数 ミドルプレスによるコンタクト数 こぼれ球奪取数	68.7	前 寛之（福岡）
			66.4	鈴木 徳真（G大阪）
			65.5	田中 聡（湘南）
	チャンスメーク	PA内へのパス成功数 ラストパス数	99.0	マテウス サヴィオ（柏）
			83.0	ルーカス フェルナンデス（C大阪）
			69.0	ヤン マテウス（横浜FM）
	デュエル	デュエル勝利数 デュエル勝率	79.0	知念 慶（鹿島）
			69.5	稲垣 祥（名古屋）
			67.5	田中 駿汰（C大阪）
	運動量	走行距離 スプリント回数	71.9	渡邊 凌磨（浦和）
			71.9	マテウス サヴィオ（柏）
			70.6	武藤 嘉紀（神戸）
CF	得点への関与	ゴール数 アシスト数 シュート数	71.4	アンデルソン ロペス（横浜FM）
			66.8	レオ セアラ（C大阪）
			60.8	山田 新（川崎F）
	決定力	ゴール数とゴール期待値の差分	71.0	ジャーメイン 良（磐田）
			65.7	山田 新（川崎F）
			64.8	鈴木 優磨（鹿島）
	攻撃の起点	パイパス受け数 相手陣空中戦勝率	65.3	大迫 勇也（神戸）
			64.8	ウェリントン（福岡）
			61.7	オ セフン（町田）
	脅威となるアクション	裏抜け数 被ファウル数 被ファウルによるPK獲得数	71.0	レオ セアラ（C大阪）
			63.1	木村 勇大（東京V）
			61.3	大迫 勇也（神戸）
	守備への関与	プレスバック数 ATタックル数、ATブロック数 クリア数	65.1	宇佐美 貴史（G大阪）
			64.2	原 大智（京都）
			64.0	鈴木 優磨（鹿島）

※DT：ディフェンシブサード、MT：ミドルサード、AT：アタッキングサード　※PA：ペナルティーエリア

● 順位表

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	清水エスパルス	82	26	4	8	68	38	30
2	横浜FC	76	22	10	6	60	27	33
3	V・ファーレン長崎	75	21	12	5	74	39	35
4	モンテディオ山形	66	20	6	12	55	36	19
5	ファジアーノ岡山	65	17	14	7	48	29	19
6	ベガルタ仙台	64	18	10	10	50	44	6
7	ジェフユナイテッド千葉	61	19	4	15	67	48	19
8	徳島ヴォルティス	55	16	7	15	42	44	-2
9	いわきFC	54	15	9	14	53	41	12
10	ブラウブリッツ秋田	54	15	9	14	36	35	1
11	レノファ山口FC	53	15	8	15	43	44	-1
12	ロアッソ熊本	46	13	7	18	53	62	-9
13	藤枝MYFC	46	14	4	20	38	57	-19
14	ヴァンフォーレ甲府	45	12	9	17	54	57	-3
15	水戸ホーリーホック	44	11	11	16	39	51	-12
16	大分トリニータ	43	10	13	15	33	47	-14
17	愛媛FC	40	10	10	18	41	69	-28
18	栃木SC	34	7	13	18	33	57	-24
19	鹿児島ユナイテッドFC	30	7	9	22	35	59	-24
20	ザスパ群馬	18	3	9	26	24	62	-38

● 得点ランキング

順位	選手	チーム	得点
1	小森 飛絢	千葉	23
2	谷村 海那	いわき	18
2	マテウス ジェズス	長崎	18
4	矢村 健	藤枝	16
5	エジガル ジュニオ	長崎	15

● アシストランキング

順位	選手	チーム	アシスト
1	福森 晃斗	横浜FC	14
2	山下 優人	いわき	9
2	田中 和樹	千葉	9
4	新保 海鈴	山口	8
4	マルコス ギリェルメ	長崎	8

OVERVIEW

J2リーグ総括

13シーズンぶりに20チーム制で行われた2024明治安田Ｊ２リーグは、清水エスパルスがクラブ初となるＪ２優勝を果たして幕を閉じた。ホームのIAIスタジアム日本平での成績は15勝2分1敗、勝率83.3%、40得点、10失点と圧倒的な強さを誇った。加えて、最終順位が11～20位のチームとの勝率が85.0%と、昨シーズンの54.5%から大きく改善。ボトムハーフからの取りこぼしが減ったことも優勝を勝ち取れた一つの要因だろう。

もう一つの自動昇格枠は横浜FCがつかみ、1年でのＪ１復帰を果たした。守備からチームをつくり上げ、失点数27と被シュート数273はリーグ最少。またＪ２歴代4位となる20試合連続負けなしを記録するなど、着実に勝点を積み重ねた。全試合に先発出場した福森 晃斗は、14アシストでリーグ最多。そのうち11アシストがセットプレーからと、プレースキッカーとして何度もゴールを演出した。

Ｊ１昇格プレーオフは準決勝でどちらも下剋上が起き、2012シーズン以来となる5位と6位の決勝となった。その運命の一戦を勝ち抜いたのはファジアーノ岡山。リーグ最多のクリーンシート20試合を誇る堅固なディフェンスを持ち味に、プレーオフでも2試合ともに無失点勝利を収め、クラブ史上初となるＪ１の舞台へ歩みを進めた。

V・ファーレン長崎は第3節から24試合連続無敗というＪ２歴代2位の記録を打ち立てた。ミッドフィルダーながらリーグ2位の18得点を挙げたマテウス ジェズスを筆頭に、外国籍選手4人が二桁ゴールを達成し、チームはリーグ最多となる74得点を記録したが、Ｊ１昇格プレーオフ準決勝でベガルタ仙台に敗れ、惜しくも昇格を逃した。

モンテディオ山形は前半戦で9敗を喫し、一時は16位まで沈んでいたが、シーズン途中に加入した土居 聖真やディサロ 燦シルヴァーノなどの活躍もあり、最後の9試合でクラブ新記録の9連勝を達成して4位でフィニッシュ。3シーズン連続となるプレーオフ出場圏内に滑り込んだ。

6位のベガルタ仙台は、第35節で20試合連続負けなしだった横浜FCに3-0で勝利を収めるなど、最終順位が6位以内のチームとの対戦で5勝を挙げた。これはリーグトップの勝利数となっている。昨シーズンの16位からの躍進は、今シーズンのＪ２を戦ったチームの中で最大の上げ幅となった。

Ｊ２得点王に輝いたのはジェフユナイテッド千葉の小森 飛絢。23得点で最優秀選手賞とのダブル受賞となった。利き足の右足で12得点、左足でも9得点を記録するなど、器用さが光った。18得点で続いたのは先述のマテウス ジェズスと、いわきFCの谷村 海那。谷村 海那は15得点がワンタッチで奪った得点であり、クロスとセットプレーからネットを揺らすシーンが数多く見られた。

OVERVIEW

Ｊ２優勝チーム：
▸清水エスパルス

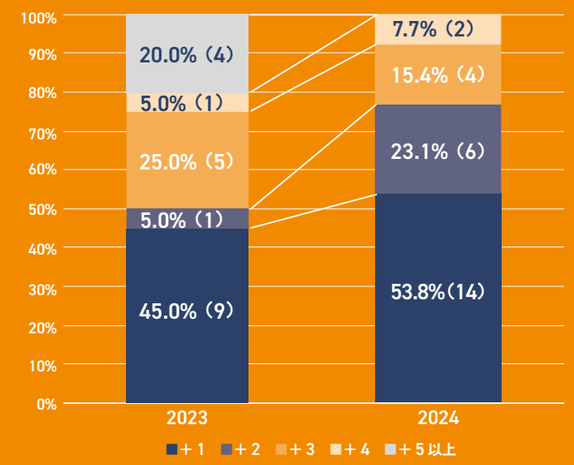
昨シーズン、Ｊ１昇格プレーオフ決勝で涙をのんだ清水エスパルス。2023シーズン途中から指揮官に就任した秋葉 忠宏監督の下、あと一歩を逃した無念を晴らすべく、2024シーズンは「勝負強さ」を追い求めた1年だった。

その成果は数字にしっかりと表れている。勝利した試合の点差を比較すると、昨シーズンは5点差以上の勝利が４試合あった一方で、今シーズンは1試合もなく、1点差や2点差で勝利した試合が増えている。1点差での勝利数14はリーグ1位タイとなるなど、競った展開でも勝点3を獲得する試合が増えたことが、優勝につながったといえる。

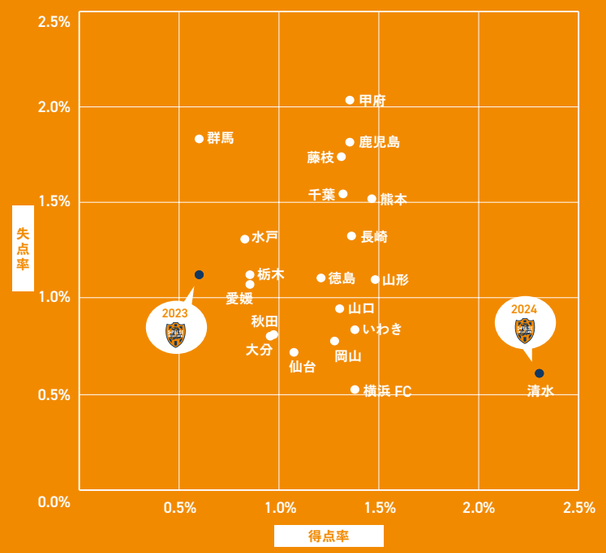
また、後半の同点時または1点リード時における、攻撃１回あたりの得点率と失点率を比べると、昨シーズンは得点率が0.61%（8得点）でリーグワースト、失点率は1.11%（11失点）でリーグ11位だったが、今シーズンは得点率が2.31%（28得点）でリーグトップ、失点率は0.60%（7失点）でリーグ2位と、劇的に改善した。

昨シーズンから1試合平均の得点数は減り、失点数は増えているが、勝率と1試合平均の勝点は上昇している。勝率は、延長戦が廃止された2002シーズン以降においてクラブ歴代最高、Ｊ２歴代でも４位となる68.4%を記録した。接戦で勝ち切れずに引き分け数14を記録した昨シーズンの課題を乗り越え、Ｊ２優勝を勝ち取った。

● 勝利試合の点差別割合　※（）内は勝利試合数



● 後半の同点時または１点リード時における攻撃１回あたりの得点率と失点率



2023清水　得点率0.61%（8得点）22位　失点率1.11%（11失点）11位
2024清水　得点率2.31%（28得点）1位　失点率0.60%（7失点）2位

● 前節からの先発変更人数

順位	チーム	平均	成績順位
1	甲府	3.35	14
2	徳島	2.95	8
3	鹿児島	2.73	19
4	愛媛	2.65	17
5	大分	2.62	16
6	清水	2.54	1
7	水戸	2.51	15
8	山口	2.49	11
9	千葉	2.24	7
10	岡山	2.14	5
10	藤枝	2.14	13
12	仙台	2.11	6
13	秋田	2.00	10
14	横浜FC	1.84	2
14	いわき	1.84	9
16	山形	1.76	4
16	栃木	1.76	18
18	群馬	1.70	20
19	長崎	1.32	3
20	熊本	1.14	12
	平均	2.19	

● 前節からの先発変更人数別の結果

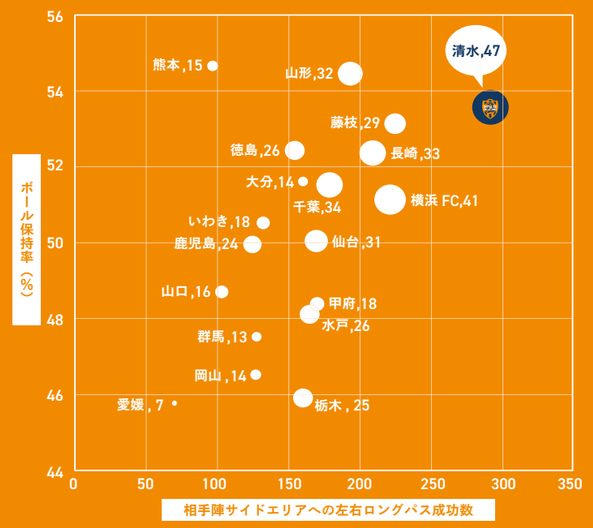
	3人以上	2人以下
試合数	16	21
勝	11	14
分	2	2
負	3	5
勝率	68.8%	66.7%
	1位	1位
勝点	35	44
	1位	4位
平均勝点	2.19	2.10
	1位	2位
J2平均勝率	33.2%	41.7%

※開幕戦を除いた37試合が対象

●乾貴士　個人スタッツの昨シーズン比較

	2023	2024
出場（先発）	32（27）	30（24）
出場時間（分）	2173	2099
ゴール	10	5
ゴール関与プレー	24	21
タックル	19	40
ブロック	23	36
こぼれ球奪取	83	92

● ボール保持率と相手陣サイドエリアへの左右ロングパス成功数



※チーム名の横の数字：相手陣サイドエリアへの左右ロングパス成功からシュートに至った回数。●のサイズは回数の大きさを表している。

さらに、多くの選手を起用して誰が出てもクオリティの落ちないチームをつくり上げたことが、安定した成績につながった。前節からの先発変更人数と試合結果のデータを見ると、清水エスパルスは1試合平均で2.54人を入れ替えており、トップ6の中で最も高い数値となっている。リーグ平均では3人以上変更した試合の方が勝率は落ちる傾向にあるが、清水エスパルスは3人以上変更して臨んだ試合で11勝2分3敗の好成績を収め、その勝率と勝点でリーグトップを記録した。

チームの特徴としては、ポゼッションを中心にゴールを狙うことがベースにあり、パス数がリーグ2位、ボール保持率がリーグ3位とスタッツにも表れている。その上で注目したいのが、ロングパスの使い方だ。相手陣サイドエリアへの左右ロングパス成功数292本は、リーグ2位の藤枝MYFCの225本を大きく引き離してリーグトップとなっており、ボール保持率が高い他のチームと比較しても違いが見られる。さらに、そこからシュートに至った数もリーグ最多であり、ピッチの幅をうまく使いながら深い位置まで攻め込み、相手の守備網を攻略するチームであることがわかる。

攻撃の中心として輝いたのが、Ｊ２ベストイレブンにも選出された乾 貴士だ。ゴール関与プレー（ゴールにつながった3プレー以内のオープンプレー数）は21回で、昨シーズンに引き続きリーグ1位を記録。さらに、攻撃だけでなく守備でも貢献度の高さが見られ、守備系のスタッツが昨シーズンと比較して軒並み上昇。攻守でチームの支えになり、優勝の立役者となった。

OVERVIEW

J3リーグ総括

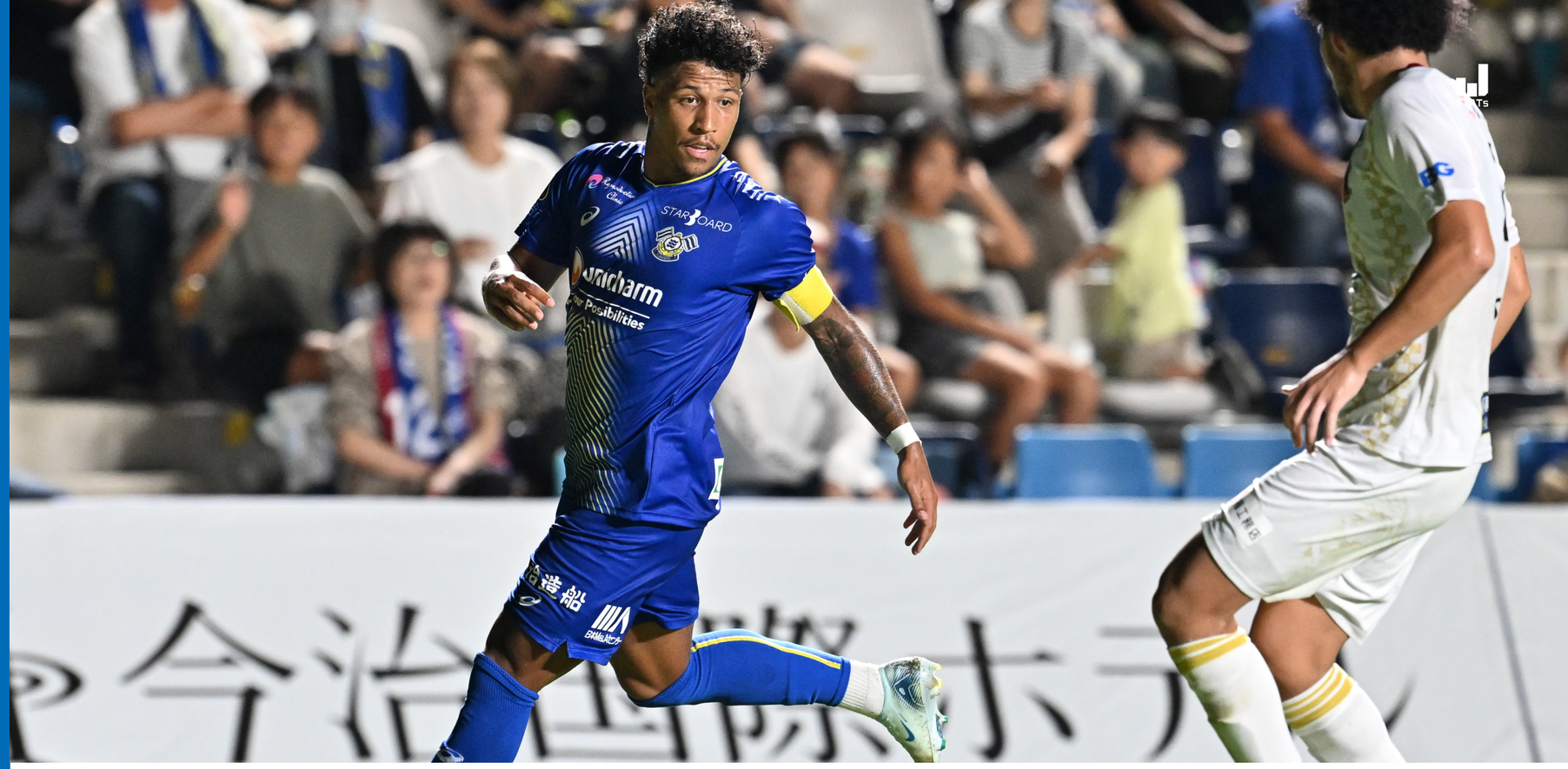
2024明治安田Ｊ３リーグを制したのは大宮アルディージャ。第8節以降一度も首位を譲らず、終わってみれば2位に勝点12差をつけて優勝した。得点数はリーグトップ、失点数もリーグ2位の少なさと、圧倒的な力を示して1年でＪ２への復帰を決めた。クラブ史上初のＪ２昇格を決めたFC今治も、3位と勝点9差で、2試合を残して悲願を達成。得点王と最優秀選手賞に輝いたマルクス ヴィニシウスがゴールまたはアシストを記録した試合でチームは全勝。22勝のうち実に16勝を占め、昇格の立役者となった。

カターレ富山は自動昇格にこそ一歩及ばなかったが、Ｊ２昇格プレーオフの末に11シーズンぶりのＪ２復帰を決めた。2023シーズンと比べて勝利数が19から16に減っているが、それ以上に負け数が14から6へと大きく減少した。また、引き分け数がリーグで2番目に多い16を記録したが、プレーオフの2試合も引き分けで勝ち抜いており、負けないチームに仕上がったことが昇格を引き寄せた。

例年以上に混戦模様を呈した要因の一つでもあるのが、今シーズンから新設されたＪ２昇格プレーオフだ。中位勢の競争にさらなる拍車をかけ、残り4試合の時点で4位アスルクラロ沼津から14位FC岐阜までの11チームが勝点6差にひしめくというし烈な争いとなった。松本山雅FCはその時点で8位だったが、ラスト4試合を全て白星でフィニッシュし、一気に4位まで順位を上げてプレーオフ出場権を勝ち取っている。

昨シーズンの途中で監督交代に踏み切ったチームが10を数えたのに対し、今シーズンは4チームと、結果に左右されずスタイルを築き上げようとする傾向がリーグ全体で見られた。大熊 裕司監督を新たに迎えたテゲバジャーロ宮崎は、開幕7試合勝ちなしとスタートダッシュに失敗し、序盤から厳しい争いを強いられたものの、8月以降は一気に開花。夏の中断明けの15試合に限定すれば9勝3分3敗で、自動昇格を果たした2チームに次ぐ好成績を収めた。

FC今治のマルクス ヴィニシウスとFC岐阜の藤岡 浩介が19得点を挙げて得点王のタイトルを受賞した。複数人が得点王になったのは、Ｊ３で初めてとなる。最多アシストは昨シーズンと同じ10回を記録した松本山雅FCの菊井 悠介が2年連続。ラストパス数63本もリーグトップとなっており、リーグ屈指のチャンスメーカーとして活躍した。



● 順位表

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	大宮アルディージャ	85	25	10	3	72	32	40
2	FC今治	73	22	7	9	62	38	24
3	カターレ富山	64	16	16	6	54	36	18
4	松本山雅FC	60	16	12	10	61	45	16
5	福島ユナイテッドFC	59	18	5	15	64	49	15
6	FC大阪	58	15	13	10	43	31	12
7	ギラヴァンツ北九州	56	15	11	12	41	39	2
8	FC岐阜	53	15	8	15	64	56	8
9	SC相模原	53	14	11	13	41	41	0
10	アスルクラロ沼津	52	15	7	16	53	46	7
11	ヴァンラーレ八戸	52	13	13	12	44	42	2
12	ツエーゲン金沢	50	13	11	14	50	52	-2
13	ガイナーレ鳥取	50	14	8	16	49	65	-16
14	FC琉球	47	12	11	15	45	54	-9
15	テゲバジャーロ宮崎	46	12	10	16	46	50	-4
16	カマタマーレ讃岐	43	10	13	15	48	52	-4
17	奈良クラブ	39	7	18	13	43	56	-13
18	AC長野パルセイロ	37	7	16	15	44	57	-13
19	Y.S.C.C.横浜	32	7	11	20	34	64	-30
20	いわてグルージャ盛岡	22	5	7	26	27	80	-53

● 得点ランキング

順位	選手	チーム	得点
1	藤岡 浩介	岐阜	19
1	マルクス ヴィニシウス	今治	19
3	塩浜 遼	福島	16
4	永井 龍	北九州	14
5	浅川 隼人	松本	13
5	浮田 健誠	長野	13
5	岡田 優希	奈良	13

● アシストランキング

順位	選手	チーム	アシスト
1	菊井 悠介	松本	10
2	橋本 啓吾	宮崎	9
3	高野 遼	相模原	8
4	森 晃太	福島	7
4	杉本 健勇	大宮	7
4	下口 稚葉	大宮	7
4	安在 達弥	沼津	7
4	石田 崚真	岐阜	7
4	下川 陽太	奈良	7

OVERVIEW

▶ Ｊ３優勝チーム：大宮アルディージャ

１年でのＪ２復帰を至上命題に掲げ、見事にそのミッションをクリアした大宮アルディージャ。第８節以降一度も首位を譲らず、リーグ戦で喫した敗戦はわずかに「3」。敗戦率は7.9%と、Ｊ３史上最も低い数字を記録した。終始混戦模様だった今シーズンのＪ３で、頭ひとつ抜け出ていた存在だった。

大宮アルディージャはリーグ最多となる72得点を挙げているが、二桁得点を挙げた選手は10得点の杉本　健勇だけと、数字面で突出した選手はいなかった。しかし、得点を挙げた選手20人、５得点以上の選手７人といった数字は、いずれもリーグトップ。特定の選手に依存せず「チーム」でゴールを重ねた。

長澤 徹監督が鍛え上げたチームは、高い位置でプレーするチームであることが大きな特徴だ。ボール保持率は49.7%、総パス数はリーグ８位とそこまで多くないが、アタッキングサードでのパス数はリーグ１位となっている。エリア別で見ていくと特に左サイドでのパスが多く、その左サイドで不動の主力として全試合に出場した泉 柊椰はＪ３ベストイレブンに選出。クロスやドリブルなど多くのスタッツでリーグ上位の数字を残している。

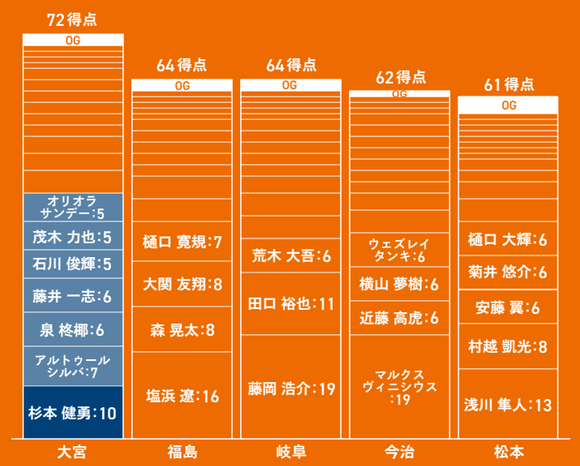
守備面では、ディフェンシブサードでのボールロスト数がリーグ最少で、同エリアでのボールロストから失点がないのは大宮アルディージャのみであった。リスクのある低い位置でのボールロストを減らすことに成功していたといえる。さらに、ピンチを迎えたシーンでもゴール前に立ちはだかったのがゴールキーパーの笠原 昂史。セーブ数はリーグ２位の多さとなる108回、セーブ率ではリーグ１位の77.1%を記録し、Ｊ３屈指の守護神として君臨し続けた。

また、守備から攻撃への切り替えでもクオリティの高さを発揮した。ボール奪取エリア別の得点数と得点率を見ると、ボール奪取エリアを問わず得点を奪えていることが読み取れる。相手に押し込まれて低い位置でのボール奪取となったとしても、効果的な攻撃を繰り出すことができていた。

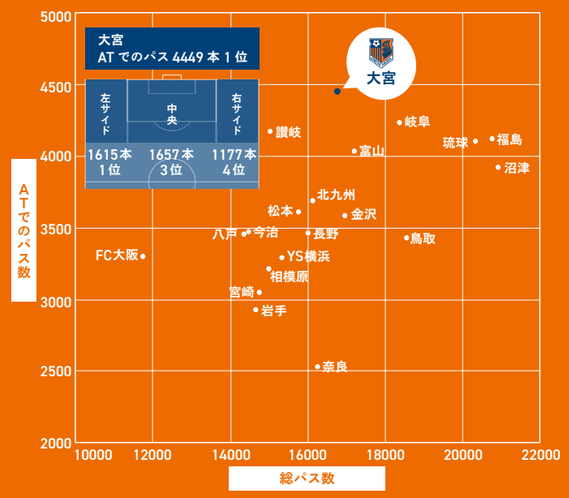
最後に紹介したいのは、アカデミー出身選手の躍動だ。今シーズン、最終ラインの主力として多くの試合に名を連ねた市原 吏音、浦上 仁騎、村上 陽介の３人はいずれも大宮アルディージャのアカデミー出身選手である。特に、市原 吏音は2028年のロサンゼルスオリンピック世代においてＪリーグ全体で２位の出場時間を記録。空中戦に強いセンターバックで今シーズンは４ゴールを挙げており、今後の成長が楽しみな逸材だ。他にも、フィールドプレーヤーでリーグ唯一の全試合フル出場を達成した小島 幹敏や、プロ４年目でキャリアハイとなる31試合に出場した大澤 朋也など、年齢、ポジションを問わず多くのアカデミー出身選手がピッチに立った。クラブのアイデンティティの結実が随所に見えたシーズンだったといえる。

● 得点数上位５チームの得点選手数

	大宮	福島	岐阜	今治	松本
得点	72	64	64	62	61
得点選手数	20	16	16	16	17
5得点以上の選手数	7	4	3	4	5



● 総パス数とATでのパス数 ※AT：アタッキングサード



● 泉 柊椰 スタッツ

データ項目	データ	リーグ順位
出場（先発）	38（35）	-
出場時間（分）	2897	
アシスト	6	10位タイ
ラストパス	49	2位
AT左サイドでのパス	518	1位
クロス	144	4位
PA内クロス	38	2位タイ
ドリブル	140	4位
PA内進入ドリブル	29	3位

●大宮 ボール奪取エリア別の得点数と得点率

AT奪取数	216	5位
得点	11	1位
得点率	5.1%	2位

※ AT：アタッキングサード

MT奪取数	949	9位
得点	19	1位
得点率	2.0%	1位

※ MT：ミドルサード

DT奪取数	1205	17位
得点	13	1位
得点率	1.1%	1位

※ DT：ディフェンシブサード

● 笠原 昂史　スタッツ

データ項目	データ	リーグ順位
出場（先発）	38（38）	全試合フル出場
出場時間（分）	3420	
セーブ	108	2位
セーブ率	77.1%	1位
クリーンシート	17	2位

● 2028年ロサンゼルスオリンピック世代の出場時間（全カテゴリー）

順位	選手	チーム	カテゴリー	出場時間（分）	出場（先発）	ゴール	アシスト
1	大関 友翔	福島	MEIJIYASUDA J3 LEAGUE	2768	32（32）	8	6
2	市原 吏音	大宮	MEIJIYASUDA J3 LEAGUE	2695	31（30）	4	1
3	國武 勇斗	奈良	MEIJIYASUDA J3 LEAGUE	2070	35（26）	1	1
4	保田 堅心	大分	MEIJIYASUDA J2 LEAGUE	2025	31（23）	4	1
5	橋本 陸斗	YS横浜	MEIJIYASUDA J2 LEAGUE	1701	27（18）	1	0

※ 2005 年以降生まれの選手が対象

● 自陣空中戦勝率 ※自陣空中戦 100 回以上の選手が対象

順位	選手	チーム	空中戦勝率	空中戦勝利	空中戦	出場	出場時間（分）
1	秋山 拓也	FC大阪	80.8%	97	120	27	2321
2	野々村 鷹人	松本	77.4%	89	115	31	2198
3	市原 吏音	大宮	76.1%	83	109	31	2695
4	宗近 慧	讃岐	72.0%	95	132	34	2984
5	辻岡 佑真	宮崎	71.8%	94	131	36	3039

分析

ANALYSIS

RESULTS 結果

●Ｊ１ シーズン別の試合結果

シーズン	ホームチーム勝率	引き分け率	アウェイチーム勝率
2020	38.6%	22.2%	39.2%
2021	42.1%	24.7%	33.2%
2022	39.9%	31.7%	28.4%
2023	42.2%	25.5%	32.4%
2024	38.4%	27.4%	34.2%

▶2024シーズンのＪ１はホームチームの勝率が38.4%と昨シーズンから4ポイント近く下がり、2016シーズンに次いで歴代で2番目に低い数字となった。特に第1節で1勝4分5敗、第2節で2勝3分5敗と開幕直後のホームチームの成績が芳しくなかった。一方で、最終節ではホームチームが7勝2分1敗と大きく勝ち越す結果となった。

●Ｊ２ シーズン別の試合結果

シーズン	ホームチーム勝率	引き分け率	アウェイチーム勝率
2020	39.8%	26.6%	33.5%
2021	35.1%	29.7%	35.3%
2022	36.6%	29.0%	34.4%
2023	39.2%	28.1%	32.7%
2024	40.8%	23.4%	35.8%

▶Ｊ２では引き分け率が23.4%と、延長戦がなくなった2002シーズン以降で2番目に低く、勝敗のつく試合が多かった。Ｊ１とＪ３では引き分けのない節はなかったが、Ｊ２ではそれが6を数えた。さらに、先制されたチームが逆転勝利した割合は14.9%となり、2011シーズン以降のＪ２で最も高い数値となった。第25節から第37節までは、先制されたチームの逆転勝利が毎節で記録された。

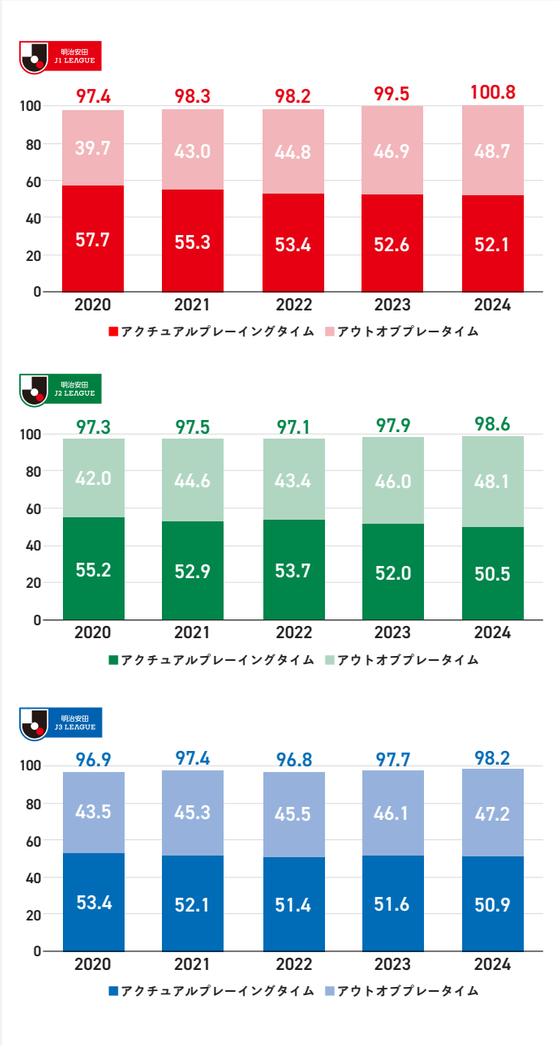
●Ｊ３ シーズン別の試合結果

シーズン	ホームチーム勝率	引き分け率	アウェイチーム勝率
2020	39.9%	23.9%	36.3%
2021	40.5%	25.7%	33.8%
2022	47.4%	19.3%	33.3%
2023	36.3%	26.8%	36.8%
2024	40.5%	28.7%	30.8%

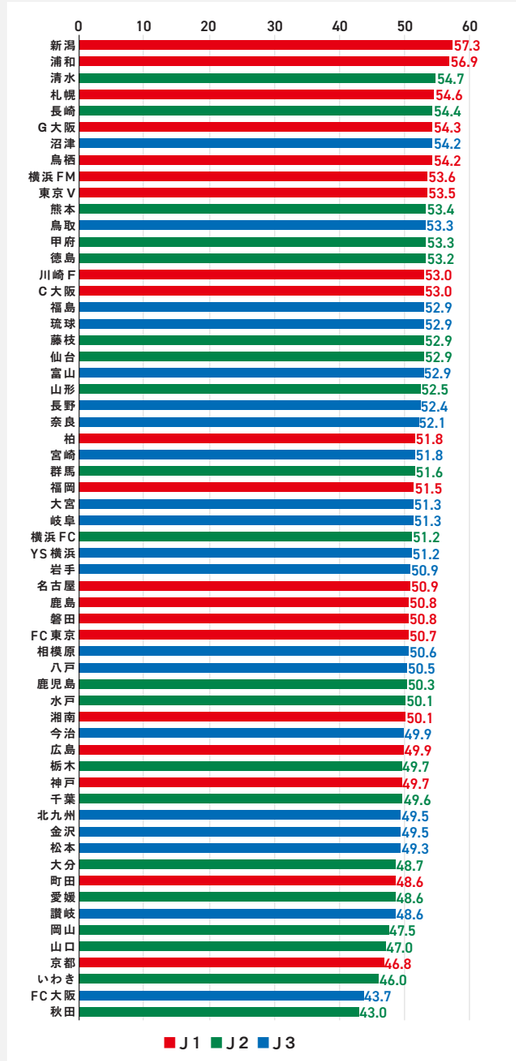
▶Ｊ３では引き分け率が28.7%と昨シーズンよりもさらに高くなり、歴代最高値を更新した。特に、開幕から第10節までは引き分け率が36%と高い傾向だった。先制したチームの勝率は65.1%とＪ３発足以降最も低く、先制しても勝ち切れない試合展開が多かったことが影響している。

アクチュアルプレーイングタイム ACTUAL PLAYING TIME

●各リーグの試合時間とアクチュアルプレーイングタイムのシーズン推移（単位：分）



●チーム別のアクチュアルプレーイングタイム（単位：分）



▶試合時間は全てのリーグで年々増加傾向にあり、特にＪ１では2011シーズン以降で初めて100分の大台を超えた。これは交代枠の拡大、飲水タイムの実施、ビデオアシスタントレフェリー（VAR）導入、脳震盪交代などによるアディショナルタイムの増加が理由として考えられる。

一方で、アクチュアルプレーイングタイムは年々減少傾向にあり、全てのリーグで2011シーズン以降最も短くなった。Ｊ１は4シーズン連続で減少し52.1分、Ｊ２とＪ３は共に51分を切っている。

チーム別に見ると、Ｊ１でアクチュアルプレーイングタイムが最も長いのはアルビレックス新潟で57.3分、最も短いのは京都サンガF.C.で46.8分。Ｊ２で最長は清水エスパルスで54.7分、最短はブラウブリッツ秋田で43.0分。Ｊ３で最長はアスルクラロ沼津で54.2分、最短はFC大阪で43.7分となった。いずれのリーグも最長のチームと最短のチームで10分以上の差がある。

チーム別の試合時間については、全カテゴリー内で最長はＪ１の京都サンガF.C.で102.4分、最短がＪ３のヴァンラーレ八戸で97.3分となった。こちらはアクチュアルプレーイングタイムほど最長のチームと最短のチームの差はなく、Ｊ１では3分未満、Ｊ２とＪ３では2分未満となっている。

アクチュアルプレーイングタイム
ACTUAL PLAYING TIME

● J１ アウトオブプレータイムの内訳のシーズン推移（単位：分） ※１試合平均

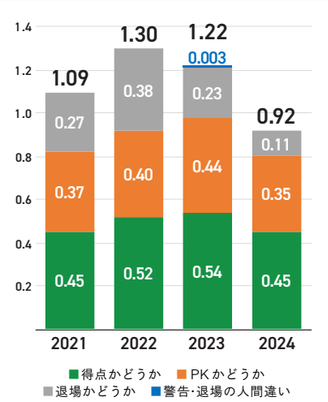
シーズン	アウトオブプレータイム	セットプレーのリスタート時間						その他
		PK	CK	FK	スローイン（ロングスロー以外）	ロングスロー	GK	
2020	39.7	0.3	5.6	13.2	9.5	0.1	7.7	3.4
2021	43.0	0.5	5.6	14.4	10.5	0.3	8.1	3.7
2022	44.8	0.5	5.8	16.0	10.3	0.1	7.6	4.4
2023	46.9	0.8	6.2	16.5	10.6	0.2	7.8	4.8
2024	48.7	0.8	6.7	17.6	10.0	0.5	8.0	5.0

※セットプレーのリスタート時間は、アウトオブプレーになってから再開するまでの時間。これらのリスタート時間にはVARや交代、負傷者の治療、飲水タイムも含まれる。

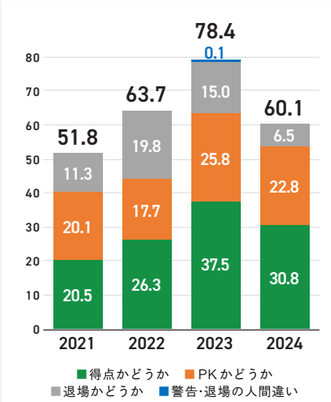
▶試合時間が伸びている一方で、アクチュアルプレーイングタイムが短くなっている要因を探るため、ここではＪ１のアウトオブプレータイムを深堀りする。Ｊ１における１試合あたりのアウトオブプレータイムは、2020シーズンから2024シーズンで約９分増加している。そのうち、セットプレーにおけるリスタート時間が８割以上を占めており、セットプレーだけで7.3分増えている。

さらに各セットプレーの内訳を見ると、フリーキックが2020シーズンと比較してプラス4.4分と最も増えている。2番目に増えているコーナーキックがプラス1.1分なので、フリーキックにかける時間が大幅に伸びていることがわかる。その他については、ゴールが決まってからキックオフされるまでの時間やドロップボールで再開される事象などが含まれており、こちらも約1.6分伸びている。

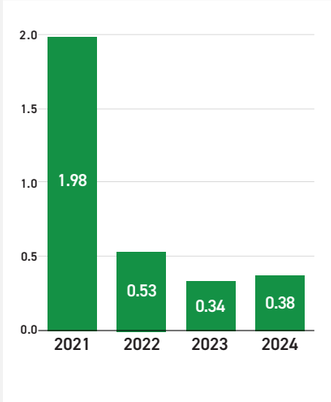
● J1 VAR件数 ※１試合平均



● J1 VAR所要時間（単位：秒）※１試合平均



● J1 飲水タイム件数 ※１試合平均



※VARの件数は、レビュー（オンフィールドレビューおよびVARオンリーレビュー）の有無にかかわらず、主審が耳に手を当てるシグナルが中継映像に映ったときをカウントする。

※VARの所要時間は、「主審が耳に手を当てるシグナルが中継映像に映ったとき、もしくはその前にVARルームが映ったときか、VARのリプレイCGが流れたとき」を開始のタイミングとし、「最終的な判定を下したとき」を終了とする。

▶セットプレーのリスタート時間にVARや飲水タイムの時間も含まれているため、VARの件数と所要時間についても見ると、どちらも減少傾向にあることがわかる。特に、１試合平均のVAR所要時間では、2023シーズンが78.4秒と最も長かったが、2024シーズンは60.1秒まで短くなっている。飲水タイムの１試合平均件数も、シーズン通して実施された2021シーズンは1.98回だったが、2022シーズンでは大きく減っており、2024シーズンは微増の0.38回となった。

以上のことから、VARや飲水タイムがアクチュアルプレーイングタイムの減少に与えている影響は少ないと考えられる。リスタート時間の増加が特に大きいフリーキックについては、１試合平均の回数が25.6回（2020シーズン）から27.1回（2024シーズン）へと増えていることに加え、１回あたりにかける時間も31.0秒（2020シーズン）から38.9秒（2024シーズン）へと増えている影響が大きいと考えられる。

● J１ 各月の平均気温とアクチュアルプレーイングタイムのシーズン推移

平均気温（℃）	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020	14.3					25.2	28.4	24.5	19.7	16.1	10.5
2021	11.9	14.7	17.8	21.8	22.8	26.4	26.9	24.2	21.9	18.1	15.0
2022	11.5	14.5	17.7	23.5	25.6	27.6	28.1	26.7	22.2	19.8	
2023	11.6	15.8	18.6	22.2	24.1	27.1	29.2	26.8	20.7	14.8	13.5
2024	10.4	15.0	21.0	22.6	25.3	28.1	29.1	26.7	24.1	18.7	13.0

APT（分）	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020	57.0					57.8	57.4	58.0	57.0	57.7	59.1
2021	55.6	56.4	56.7	55.2	54.9	55.9	54.6	53.4	52.8	56.1	56.3
2022	55.5	53.8	53.5	53.4	52.0	52.9	51.6	53.5	54.1	54.7	
2023	53.9	53.1	52.7	52.6	51.3	52.5	51.1	52.1	54.3	53.7	56.3
2024	52.8	52.9	52.0	52.6	52.0	51.4	50.7	51.8	53.6	51.7	52.9

※平均気温は各試合のハーフタイム時点の気温とし、公式記録に準拠する。　※APT：アクチュアルプレーイングタイム

▶また、気温もアクチュアルプレーイングタイムに大きな影響を与える要素の一つとして考えられる。各月の平均気温のシーズン推移を見ると、４～10月の平均気温が年々上がってきていることがわかる。アクチュアルプレーイングタイムはどの月でも年々減少傾向にあるが、特に７～９月の夏場の落ち込みが大きくなっている。

● J1リーグと欧州５大リーグのアクチュアルプレーイングタイムのシーズン推移（単位：分） ※データ提供：Opta

シーズン	プレミアリーグ	リーグ・アン	ブンデスリーガ	セリエA	ラ・リーガ	Ｊ１リーグ
2020 ※欧州は2019-20	55.7	55.6	55.5	55.4	51.9	58.1
2021 ※欧州は2020-21	56.0	55.7	56.2	56.5	52.8	55.7
2022 ※欧州は2021-22	54.8	55.9	54.1	54.2	53.1	54.1
2023 ※欧州は2022-23	54.8	55.9	54.0	54.9	53.6	53.9
2024 ※欧州は2023-24	58.2	57.5	57.3	55.2	55.2	52.8

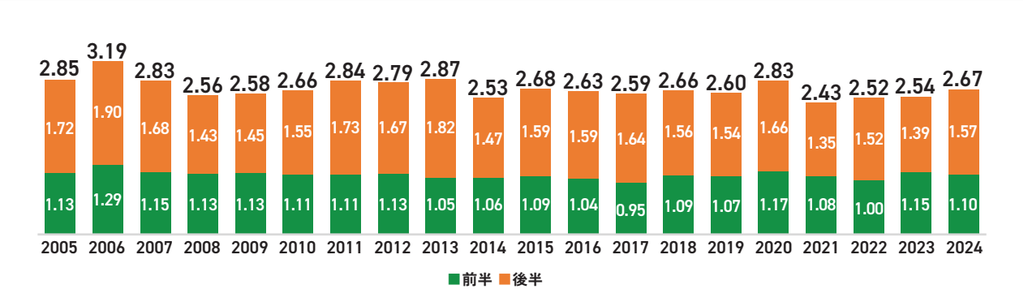
※欧州５大リーグであるプレミアリーグ（イングランド）、ラ・リーガ（スペイン）、ブンデスリーガ（ドイツ）、セリエA（イタリア）、リーグ・アン（フランス）とＪ１リーグのデータを比較するため、ここではＪ１リーグのデータも外部ソース（データ提供：Opta）を利用。

▶最後に、アクチュアルプレーイングタイムについてＪ１リーグと欧州５大リーグを比較すると、2024シーズンのＪ１リーグは52.8分で最も短い結果となった。最も長いプレミアリーグとは５分以上の差がある。また、欧州５大リーグでは最も短いセリエAとラ・リーガでも55分を超えている。

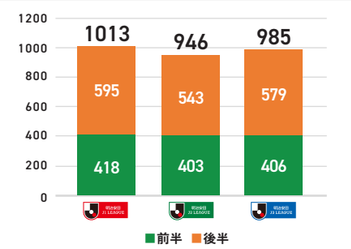
アクチュアルプレーイングタイムのシーズン推移を見ると、Ｊ１リーグは2020シーズンには58.1分と最も長かったが、その後は年々減少している。一方で、欧州５大リーグはセリエAを除いていずれも2019-20シーズンより2023-24シーズンの方が長くなっている。特にプレミアリーグとブンデスリーガは直近の2023-24シーズンで前シーズンから３分以上増やしている。

GOAL／SHOT ゴール／シュート

● J 1 シーズン別得点数 ※1試合平均



● 2024シーズン 各リーグの得点数



▶ 今シーズンのＪ１は1試合平均得点（両チーム合計）が2.67点と、4シーズン連続で増加した。リーグ別に総得点数を見ると、Ｊ１は1013点と1995シーズンと1998シーズンに続く3度目、かつ延長戦がなくなった2003シーズン以降では初めての1000点超えとなった。同じく380試合だった2021シーズンの920点と比較しても、100点近く多くなっている。

また、Ｊ２は最も少ない946点。前後半別で見ても同様の傾向だが、特に後半の得点数が543点と他のリーグと比べて少なかった。

● 各リーグのゴール数とゴール期待値のシーズン推移

シーズン	リーグ	試合数	ゴール	ゴール期待値	差分
2020	J1	306	843	816.5	26.5
2021	J1	380	898	887.2	10.8
2022	J1	306	751	761.1	-10.1
2023	J1	306	752	768.8	-16.8
2024	J1	380	987	984.0	3.0

シーズン	リーグ	試合数	ゴール	ゴール期待値	差分
2020	J2	462	1093	1163.5	-70.5
2021	J2	462	1070	1101.1	-31.1
2022	J2	462	1121	1110.4	10.6
2023	J2	462	1153	1163.1	-10.1
2024	J2	380	920	976.5	-56.5

シーズン	リーグ	試合数	ゴール	ゴール期待値	差分
2020	J3	306	774	875.4	-101.4
2021	J3	210	522	547.5	-25.5
2022	J3	306	777	786.3	-9.3
2023	J3	380	916	949.9	-33.9
2024	J3	380	963	940.4	22.6

▶ 各リーグのゴール数（オウンゴールを除く）と、各シュートのゴール期待値の合計を比較すると、Ｊ１は3シーズンぶりにゴール期待値を上回るゴール数となった。Ｊ２はゴール期待値に対するゴール数の差分がマイナス56.5となっており、決め切れなかったことが総得点数の伸び悩みにつながったといえる。

一方で、Ｊ３はゴール期待値を22.6上回り、Ｊ２を上回るゴールを記録した。2020シーズンはゴール期待値に対するゴール数がマイナス101.4とかなり低かったが、今シーズンは直近5シーズンで初めてゴール数が期待値を上回った。

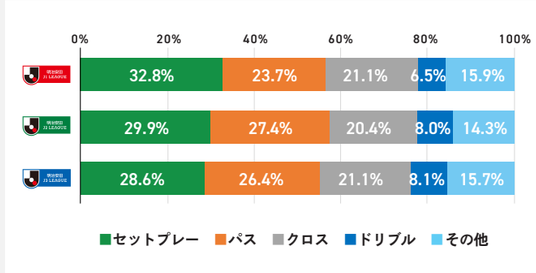
115

今シーズンのＪ１では、前半アディショナルタイムに28得点、後半アディショナルタイムに87得点と、いずれも2011シーズン以降で最多の得点が生まれた。計115点は、2011シーズン以降で最多だった2023シーズン（306試合）の93点を大きく上回った。

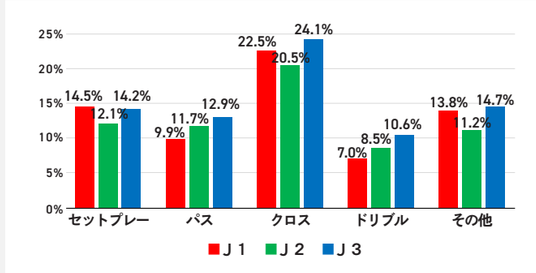
10

京都サンガF.C.のラファエル エリアスが第33節のヴィッセル神戸戦で得点を決め、Ｊ１初出場から10試合目で10得点を記録。これは1994シーズンのペンチーニョ（ヴェルディ川崎、現在の東京ヴェルディ）に並ぶ、Ｊ１最速タイの記録となった。

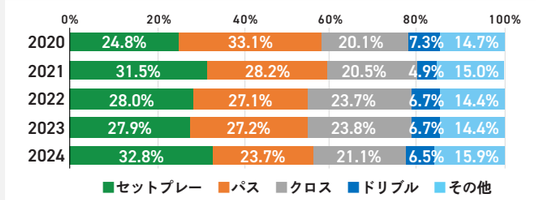
● 2024シーズン 各リーグの得点パターン



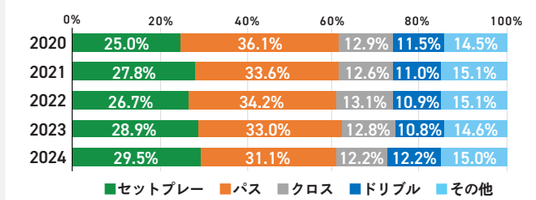
● 2024シーズン 各リーグのシュートパターン別の成功率



● J1 シーズン別の得点パターン推移



● J1 シーズン別のシュートパターン推移



▶ Ｊ１は得点パターンにおけるセットプレーの割合が32.8%と唯一30%を超えており、セットプレーからのシュート成功率も14.5%と最も高くなっている。一方で、パスやドリブルからのシュート成功率は、いずれもＪ１＜Ｊ２＜Ｊ３となっており、カテゴリーが上がるほどパスやドリブルで崩し切って得点を挙げることが難しくなっているのがわかる。全てのカテゴリーでクロスからのシュート成功率が最も高く、重要な得点パターンとなっているが、Ｊ１では相対的にセットプレーの重要性が高いといえる。

Ｊ１における直近5シーズンの得点パターン推移を見ると、セットプレーは増加傾向、パスは減少傾向にあり、2020シーズンと2024シーズンで数値がほぼ逆転した。シュートパターンも同様の傾向ではあるものの、2020シーズンと2024シーズンを比較した際の増減は得点パターンよりは少なく、セットプレーからの得点効率の高さを示している。

● 2024シーズン　ゴール期待値を大きく上回った選手

リーグ	チーム	選手	ゴール	ゴール期待値	差分
J1	磐田	ジャーメイン　良	19	13.4	5.6
J1	広島	新井　直人	7	2.3	4.7
J1	鹿島	濃野　公人	9	4.6	4.4
J1	広島	トルガイ　アルスラン	8	3.7	4.3
J1	新潟	谷口　海斗	10	5.7	4.3

リーグ	チーム	選手	ゴール	ゴール期待値	差分
J2	千葉	小森　飛絢	23	16.3	6.7
J2	いわき	谷村　海那	18	11.8	6.2
J2	長崎	マルコス　ギリェルメ	12	6.0	6.0
J2	甲府	アダイウトン	14	9.0	5.0
J2	長崎	マテウス　ジェズス	18	13.0	5.0

リーグ	チーム	選手	ゴール	ゴール期待値	差分
J3	奈良	岡田 優希	13	7.3	5.7
J3	岐阜	藤岡 浩介	19	13.3	5.7
J3	福島	塩浜 遼	16	10.4	5.6
J3	松本	村越 凱光	8	3.1	4.9
J3	宮崎	武 颯	9	4.2	4.8

▶ 選手別にゴール数とゴール期待値の差分を見ると、Ｊ１はジャーメイン 良（ジュビロ磐田）、Ｊ２は得点王に輝いた小森 飛絢（ジェフユナイテッド千葉）、Ｊ３は岡田 優希（奈良クラブ）と藤岡 浩介（FC岐阜）が最大となり、いずれも高い決定力を発揮した。中でも、小森 飛絢は期待値を6.7点上回り、全カテゴリーの中で最も大きな差分を記録した。

18

ジュビロ磐田のジャーメイン 良は、4月までに2桁得点を達成し、シーズン序盤にゴールを量産。Ｊ１では18シーズンぶりの記録となった。

9

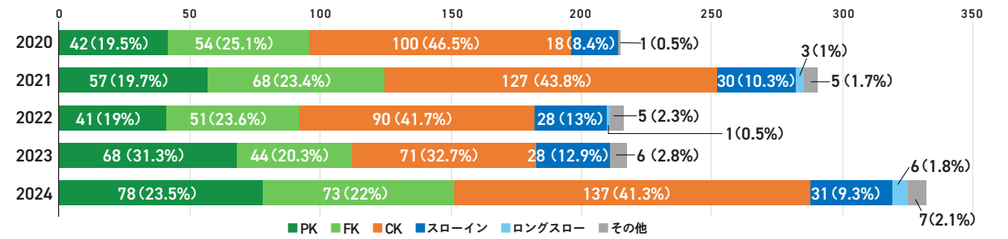
ジェフユナイテッド千葉の小森 飛絢は、9月9ゴールを記録。リーグ戦で月間9ゴール以上を決めたのは、2019年11月の オルンガ（柏レイソル）以来史上12人目で、日本人選手としては三浦 知良、中山 雅史に続いて3人目の記録となった。

SET PLAY セットプレー

● 直近5シーズンのセットプレー得点数と全得点に占める割合

※2021シーズンと2024シーズンは380試合。その他は306試合。

● J 1 直近5シーズンのセットプレーからの得点内訳



※「PK」は直接決めたもの、それ以外はプレー開始から10秒以内の得点が対象。ただし、10秒以内でも、プレー開始からシュートまでに相手チームが連続で2回以上、ボールに触れた場合は対象外。
※ここでは「スローイン」にはロングスローを含まない。　※「その他」にはゴールキックとPKのこぼれ球を含む。　※ 相手オウンゴールも含む。

▶2024シーズンのJ 1におけるセットプレー得点数は332点で、全得点のうち約3分の1となる32.8%を記録。これは直近5シーズンで最も高く、昨シーズンより約5ポイント高くなっている。

セットプレーの種類別に、ペナルティーキック、フリーキック、コーナーキック、スローイン(ロングスローを除く)、ロングスローの得点数の推移を見ると、2024シーズンは全セットプレーで最多となっており、その重要性が年々増していることがわかる。

シーズンごとの割合を比較すると、5年間の傾向としてはペナルティーキックの割合が増加しており、フリーキックとコーナーキックの割合はやや減少した。

また、2024シーズンはロングスローからの得点数が6点(1.8%)となっている。これは全てFC町田ゼルビアが記録したもので、対戦相手に対して優位性を発揮した。

● チーム別の1回あたりのセットプレーリスタート平均時間(単位:秒) ※()内は順位

チーム	FK	CK	スローイン	ゴールキック
札幌	35.1 (3)	41.6 (14)	13.4 (4)	28.4 (8)
鹿島	43.6 (19)	44.5 (19)	14.5 (9)	29.3 (10)
浦和	32.8 (1)	37.5 (5)	13.5 (5)	26.6 (6)
柏	41.4 (16)	39.8 (8)	15.3 (14)	29.5 (12)
FC東京	37.7 (8)	43.1 (18)	14.7 (11)	24.5 (3)
東京V	38.6 (10)	40.7 (12)	13.9 (6)	27.0 (7)
町田	41.4 (17)	42.2 (16)	19.8 (20)	31.5 (16)
川崎F	36.3 (5)	35.4 (2)	15.2 (12)	29.5 (11)
横浜FM	32.9 (2)	30.8 (1)	13.1 (3)	19.2 (1)
湘南	36.9 (6)	41.3 (13)	15.3 (15)	30.4 (13)
新潟	35.5 (4)	38.9 (7)	13.0 (2)	23.9 (2)
磐田	37.3 (7)	42.0 (15)	17.3 (19)	24.7 (4)
名古屋	40.8 (13)	38.4 (6)	14.3 (8)	35.8 (19)
京都	47.1 (20)	40.1 (10)	16.1 (17)	34.4 (17)
G大阪	39.1 (12)	36.4 (3)	14.7 (10)	31.2 (14)
C大阪	40.9 (14)	36.8 (4)	14.1 (7)	28.9 (9)
神戸	41.2 (15)	42.5 (17)	17.3 (18)	31.4 (15)
広島	38.6 (11)	40.0 (9)	12.5 (1)	35.7 (18)
福岡	43.5 (18)	44.7 (20)	16.0 (16)	35.8 (20)
鳥栖	38.3 (9)	40.3 (11)	15.2 (13)	25.2 (5)
リーグ平均	38.9	39.7	15.0	28.9

▶チーム別のセットプレーリスタート時間では、横浜F・マリノスが昨シーズンと同様にコーナーキックとゴールキックで最も短い。特にゴールキックでは唯一の20秒以下。なお、フリーキックでも2番目、スローインでも3番目の短さとなっている。

一方で、アビスパ福岡はコーナーキックとゴールキックの2つで最も長い。フリーキックとスローインも含め、一つ一つのセットプレーに時間をかけていることがわかる。

フリーキックに最も時間をかけているのは京都サンガF.C.。昨シーズンの44.2秒からさらに3秒ほど長くなった。スローインではFC町田ゼルビアが19.8秒で最も長くなっている。ロングスローを多用することが大きく影響しており、昨シーズン最長の京都サンガF.C.の16.9秒を約3秒上回った。

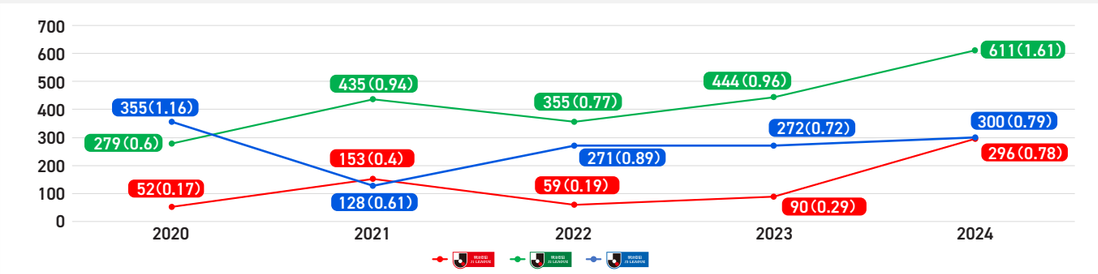
● チーム別の1試合あたりのセットプレーリスタート合計時間(単位:秒) ※()内は順位

チーム	FK	CK	スローイン	GK	合計
札幌	467 (5)	174 (4)	256 (1)	203 (3)	1099 (2)
鹿島	656 (19)	200 (12)	282 (6)	234 (9)	1372 (15)
浦和	426 (1)	192 (9)	286 (8)	242 (10)	1145 (4)
柏	501 (9)	215 (16)	376 (18)	205 (4)	1296 (12)
FC東京	568 (15)	207 (13)	328 (13)	231 (8)	1334 (13)
東京V	559 (13)	188 (8)	271 (2)	221 (6)	1239 (7)
町田	476 (6)	220 (17)	442 (20)	222 (7)	1360 (14)
川崎F	484 (8)	212 (15)	310 (11)	244 (12)	1249 (8)
横浜FM	511 (10)	180 (5)	275 (4)	174 (1)	1140 (3)
湘南	481 (7)	208 (14)	330 (14)	243 (11)	1261 (9)
新潟	443 (3)	192 (10)	273 (3)	188 (2)	1096 (1)
磐田	511 (11)	184 (7)	350 (17)	249 (14)	1294 (11)
名古屋	607 (17)	170 (2)	295 (9)	305 (19)	1377 (16)
京都	628 (18)	223 (18)	340 (16)	316 (20)	1506 (20)
G大阪	517 (12)	154 (1)	278 (5)	266 (17)	1215 (6)
C大阪	660 (20)	197 (11)	313 (12)	210 (5)	1381 (17)
神戸	575 (16)	254 (19)	419 (19)	245 (13)	1493 (19)
広島	561 (14)	272 (20)	303 (10)	257 (16)	1394 (18)
福岡	466 (4)	170 (3)	339 (15)	290 (18)	1266 (10)
鳥栖	433 (2)	183 (6)	285 (7)	257 (15)	1157 (5)
リーグ平均	527	200	317	240	1284

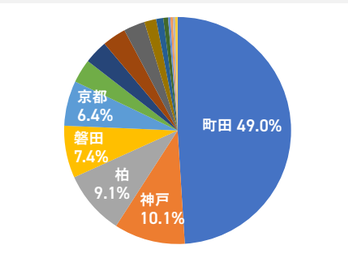
▶1試合あたりのセットプレーリスタート合計時間では、アルビレックス新潟が1096秒で最も短く、次いで北海道コンサドーレ札幌が1099秒であった。最も長いのは京都サンガF.C.で1506秒を記録した。

セットプレー別に見ると、セレッソ大阪、鹿島アントラーズ、京都サンガF.C.、名古屋グランパスの4チームがフリーキックに合計10分以上かけている。コーナーキックはサンフレッチェ広島の272秒が最も長いが、本数も多いので1回あたりの時間はリーグ平均と変わらない。スローインでは、FC町田ゼルビアとヴィッセル神戸が400秒を超えた。

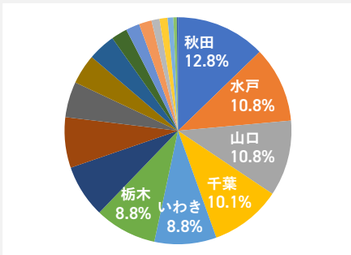
● リーグ別のロングスロー数のシーズン推移　※()内は1試合平均



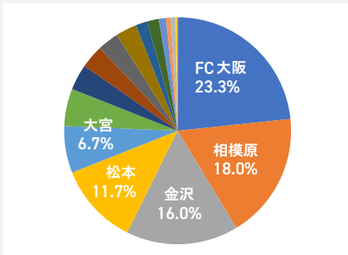
● J 1 ロングスローのチーム比率



● J 2 ロングスローのチーム比率



● J 3 ロングスローのチーム比率



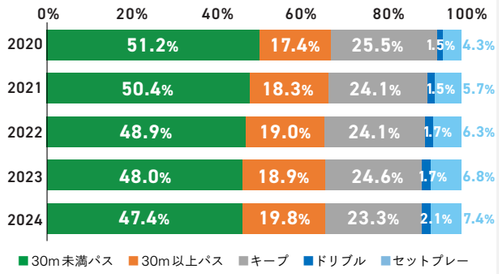
▶今シーズンの話題となったロングスローは、全てのカテゴリーで数を増やした。J 1では試合数が306試合から380試合に増えたとはいえ、昨シーズンの3倍以上となる296回を記録した。そのうち約半数にあたる145回はFC町田ゼルビアであったが、他のチームも昨シーズンより増えている。

注目はJ 2。昨シーズンのJ 2最多となる142回を記録したFC町田ゼルビアがJ 1に昇格し、さらに試合数が462試合から380試合へ減少したにもかかわらず、昨シーズンよりも大きく数字を伸ばしている。昨シーズンと今シーズンをJ 2で戦った17チームのうち、実に15チームは1試合平均のロングスロー数が増加した。J 1とJ 3とは異なり数チームが突出しているわけではなく、全体的にロングスローを行っており、昨シーズンのFC町田ゼルビアの影響があるのかもしれない。一方、ロングスロー数が減ったのは清水エスパルスとV・ファーレン長崎の2チームのみで、清水エスパルスは今シーズンのロングスロー数がゼロだった。

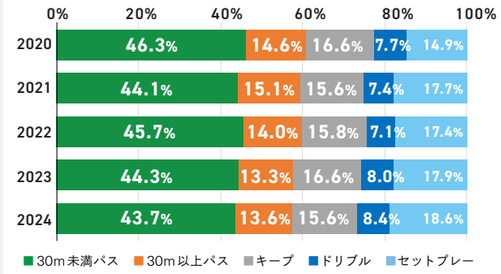
J 3では、2020シーズンに133回を記録したブラウブリッツ秋田がJ 2に昇格したことで、2021シーズンにロングスロー数が激減したが、その後はまた増加しており、今シーズンはFC大阪が70回で最多となっている。

アタッキングサード＆ペナルティーエリア進入
ATTACKING THIRD & PENALTY AREA ENTRY

● J1 アタッキングサード進入パターンのシーズン推移



● J1 ペナルティーエリア進入パターンのシーズン推移



※30m未満パス、30m以上パス、キープ、ドリブルはオープンプレーのみ。セットプレーによるパスの場合は、距離にかかわらずセットプレーにカウント。

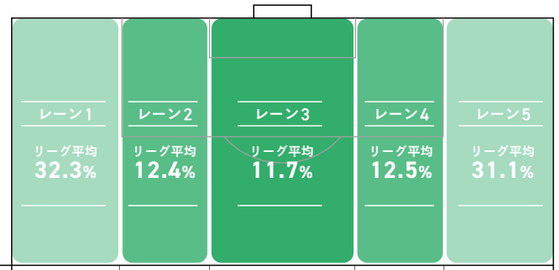
▶アタッキングサード進入パターンでは、30m未満のパスの割合が年々減少し、直近5シーズンで3.8ポイント減少した。一方で30m以上パスは2.4ポイント増加しており、より長いパスで進入する傾向が強まっている。

ペナルティーエリア進入パターンでは、2020シーズンにはパス（30m未満パス＋30m以上パス）による進入の割合が60%を超えていたが、徐々に減少している。

双方で増加しているのがセットプレーの割合で、直近5シーズンでアタッキングサード進入では3.1ポイント、ペナルティーエリア進入では3.7ポイント増えている。セットプレーの重要性が年々増していることがここにも強く表れている。

アタッキングサードへの進入パターンとペナルティーエリアへの進入パターンを比較すると、後者ではセットプレーとドリブルの割合が大きく増えている。ペナルティーエリアに進入するために、相手ゴール付近に多くの人数をかけられるセットプレーと、相手が守備を固めている中を個の力で打開するドリブルが重視されていることが見て取れる。

● J1 レーン別のアタッキングサード進入割合



	レーン1	レーン2	レーン3	レーン4	レーン5
札幌	29.0%	14.3%	13.9%	12.8%	30.1%
鹿島	34.1%	11.4%	11.0%	10.8%	32.6%
浦和	31.0%	10.8%	12.6%	11.7%	33.9%
柏	31.5%	13.7%	12.7%	12.5%	29.6%
FC東京	37.5%	12.0%	10.6%	9.5%	30.4%
東京V	35.1%	13.9%	11.8%	12.0%	27.1%
町田	35.9%	12.8%	11.4%	11.3%	28.7%
川崎F	32.3%	13.5%	12.0%	11.9%	30.3%
横浜FM	33.9%	9.6%	11.1%	12.9%	32.6%
湘南	34.5%	13.2%	11.4%	13.0%	27.8%
新潟	34.7%	13.6%	9.7%	12.1%	29.9%
磐田	26.2%	12.8%	11.7%	13.0%	36.2%
名古屋	28.4%	12.4%	12.1%	12.9%	34.2%
京都	25.5%	14.3%	14.2%	15.0%	31.0%
G大阪	34.0%	12.5%	12.0%	11.4%	30.1%
C大阪	29.7%	10.2%	11.5%	14.0%	34.5%
神戸	35.0%	12.7%	9.0%	13.8%	29.5%
広島	31.8%	13.3%	12.2%	13.2%	29.5%
福岡	31.4%	9.7%	11.9%	14.6%	32.4%
鳥栖	33.0%	11.7%	12.0%	11.2%	32.1%

▶アタッキングサードに進入した際にどのレーンへ入ったかを見ると、外側から中央に行くにつれて割合が下がっている。左サイドからの進入に片寄っているのは東京ヴェルディ、FC町田ゼルビア、FC東京、湘南ベルマーレ、ヴィッセル神戸。右サイドからの進入に片寄っているのはジュビロ磐田、名古屋グランパス、京都サンガF.C.となった。

中央からの進入割合が最も高いのは京都サンガF.C.で、レーン2からレーン4の全てで最も割合の高いチームとなった。また、北海道コンサドーレ札幌もレーン2からレーン4までの合計が40%を超えており、中央からの進入志向が強かったことがわかる。一方で、優勝したヴィッセル神戸は、中央のレーン3の割合が9.0%とリーグで最も低かったのが特徴的である。

CROSS クロス

● J1 チーム別のクロス数 ※オープンプレーのみ

チーム	クロス	成功率	クロスからの得点数
広島	765	25.0%	19
神戸	756	24.3%	10
川崎F	637	22.4%	13
町田	628	22.0%	14
磐田	618	23.9%	13
京都	610	20.2%	8
柏	604	25.7%	8
横浜FM	596	23.7%	12
新潟	540	24.8%	11
福岡	537	23.5%	11
鹿島	534	21.0%	9
名古屋	529	22.3%	6
FC東京	525	23.4%	15
鳥栖	515	20.0%	10
C大阪	514	21.6%	11
G大阪	500	23.4%	12
浦和	494	20.0%	9
湘南	485	22.5%	8
札幌	481	22.2%	9
東京V	454	24.0%	6

● J1 クロス100本以上の選手一覧 ※オープンプレーのみ

選手	クロス	成功率	クロスからのアシスト数
松原 后	159	22.0%	5
マテウス サヴィオ	154	24.0%	3
福田 心之助	149	16.1%	2
安西 幸輝	118	26.3%	2
黒川 圭介	113	23.0%	2
武藤 嘉紀	113	24.8%	3
新井 直人※※	112	29.5%	1
初瀬 亮	111	27.9%	3
ルーカス フェルナンデス	110	28.2%	3
東 俊希	110	28.2%	4
関根 大輝	109	22.9%	0
酒井 高徳	108	25.0%	0
満田 誠	104	22.1%	2

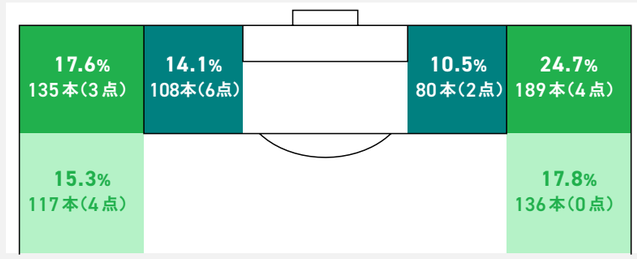
※※2024年3月21日にアルビレックス新潟からサンフレッチェ広島へ移籍

▶昨シーズンに続き、クロス数は1位がサンフレッチェ広島、2位がヴィッセル神戸となった。この2チームは3位以下に100本以上の差をつけている。サンフレッチェ広島はクロス成功率でもリーグ2位の高さであり、クロスからの得点数19もリーグ1位を記録した。クロス数3位は川崎フロンターレで、昨シーズンの463本から大きく増やした。

選手別に見ても、クロス数が100本を超えた13選手の中に、サンフレッチェ広島から新井 直人（112本）、東 俊希（110本）、満田 誠（104本）、ヴィッセル神戸から武藤 嘉紀（113本）、初瀬 亮（111本）、酒井 高徳（108本）と3人ずつ入っている。

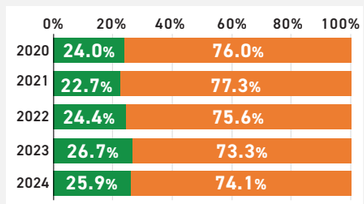
クロス数最多はジュビロ磐田の松原 后で159本、クロスからのアシスト数も最多の5を記録。そのうち4つはジャーメイン 良へのアシストであり、エースとのホットラインで他チームの脅威となった。

● サンフレッチェ広島のエリア別クロス比率とクロス本数 ※( )はクロスからの得点数

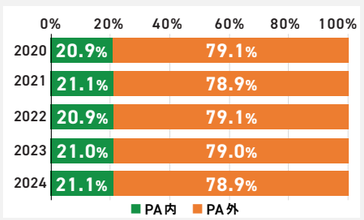


▶サンフレッチェ広島のクロスをエリア別の比率で見ると、右サイドのペナルティーエリア外側からが24.7%で最も多く、クロスからの得点も4点生まれている。また、最多の6得点が生まれているのはペナルティーエリア内左からで、左サイドからの得点数13はリーグ最多となっている。

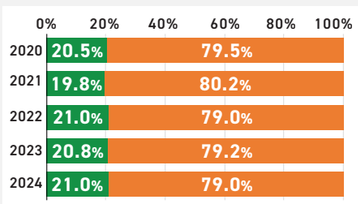
● J1 クロスのPA内外比率のシーズン推移



● J2 クロスのPA内外比率のシーズン推移



● J3 クロスのPA内外比率のシーズン推移



▶ペナルティーエリア内と外からのクロスの比率をカテゴリー間で比較すると、J1ではシーズンごとの波はあるものの、直近2シーズンは同エリア内が25%を超えているのに対し、J2とJ3の直近3シーズンはほぼ21.0%で横ばいとなっている。J1の方がより得点確率が高く、相手にとって危険な位置からのクロスを入れることを重視しているのがわかる。

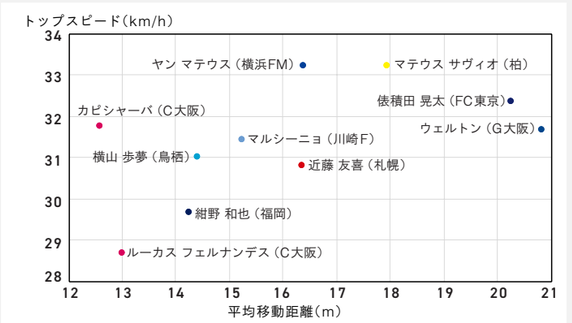
DRIBBLE ドリブル

●Ｊ１ 選手別のドリブル数とドリブル成功率

選手	ドリブル	成功率
マテウス サヴィオ	137	56.9%
ヤン マテウス	133	51.1%
俵積田 晃太	132	56.1%
近藤 友喜	121	48.8%
ウェルトン	111	58.6%
横山 歩夢	110	64.5%
カピシャーバ	107	35.5%
紺野 和也	105	51.4%
ルーカス フェルナンデス	96	52.1%
マルシーニョ	96	47.9%

●Ｊ１ 選手別のドリブル時の平均移動距離とトップスピード

※対象：ドリブル数の上位10選手



▶ドリブル数トップは柏レイソルのマテウス サヴィオで137回。成功率でも56.9%と高い数値を記録した。ドリブル数上位10選手の中で最も成功率が高かったのは、サガン鳥栖の横山 歩夢（※2024年8月にイングランドのバーミンガム・シティFCへ移籍）で64.5%だった。

また、ドリブル数上位10選手のドリブル時の平均移動距離とトップスピードを見ると、それぞれ特徴が異なるのがわかる。平均移動距離が最も長いのはガンバ大阪のウェルトンで20.8m。トップスピードが最も速かったのは柏レイソルのマテウス サヴィオと横浜F・マリノスのヤン マテウスで33.2km/hだった。

●Ｊ１ 選手別のドリブルクロス数

選手	ドリブルクロス
ジョルディ クルークス※	58
松原 后	49
紺野 和也	49
横山 歩夢	49
平河 悠	48

※2024年7月16日にセレッソ大阪からジュビロ磐田へ移籍

●Ｊ１ 選手別のドリブルシュート数

選手	ドリブルシュート
俵積田 晃太	32
横山 歩夢	26
武藤 嘉紀	23
ヤン マテウス	23
マテウス サヴィオ	21
宇佐美 貴史	21

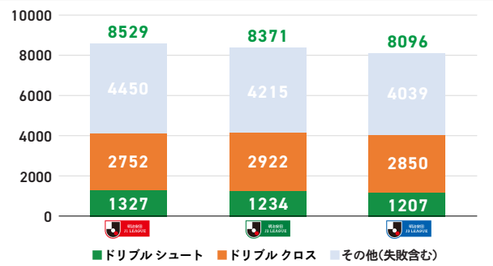
●Ｊ１ 選手別のキャリー成功数

選手	キャリー成功
マテウス サヴィオ	77
紺野 和也	52
安西 幸輝	52
ルーカス フェルナンデス	51
エウベル	50

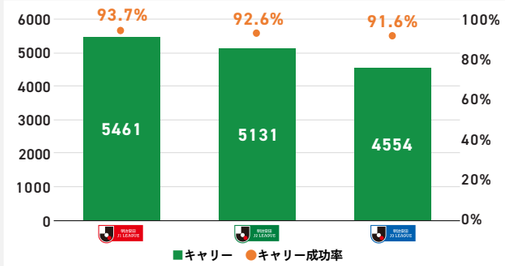
▶ドリブルクロス数ではジュビロ磐田のジョルディ クルークスが58本でトップ。夏に海外移籍を果たした横山 歩夢とFC町田ゼルビアの平河 悠（※2024年7月にイングランドのブリストル・シティFCへ移籍）がそれぞれトップ5にランクインしている。ドリブルシュート数ではFC東京の俵積田 晃太が32本でトップ。横山 歩夢はこちらでも2位に入っている。

ドリブル以外で20m以上ボールを持ち運んだキャリー成功数では、柏レイソルのマテウス サヴィオが2位以下を大きく上回る77回でトップ。ドリブル数と合わせての2冠で、圧倒的な推進力を示している。

●リーグ別のドリブル数、ドリブルシュート数、ドリブルクロス数



●リーグ別のキャリー数とキャリー成功率



▶リーグ別のドリブル数はＪ１＞Ｊ２＞Ｊ３の順に多くなっており、ドリブルシュート数も同様の順となっている。ドリブルクロス数はＪ２が最も多く、次いでＪ３、Ｊ１となっており、Ｊ１ではよりゴールに直接迫るドリブルが志向されていることが読み取れる。

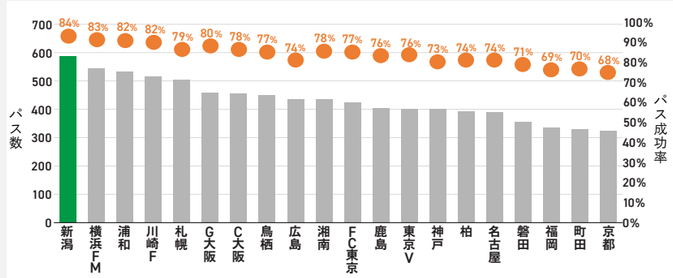
キャリーについては、数と成功率の両方でＪ１＞Ｊ２＞Ｊ３となった。特にキャリー数ではカテゴリー間で大きな差が出ており、Ｊ１ではボールホルダーが積極的に持ち運ぶことが求められているのがわかる。

PASS/POSSESSION パス／ポゼッション

●Ｊ１ 1試合平均パス数とパス成功率のシーズン推移

2020シーズン	2021シーズン	2022シーズン	2023シーズン	2024シーズン
507本	480本	461本	445本	434本
80.7%	78.5%	77.7%	76.6%	77.0%

●Ｊ１ チーム別の1試合平均パス数とパス成功率

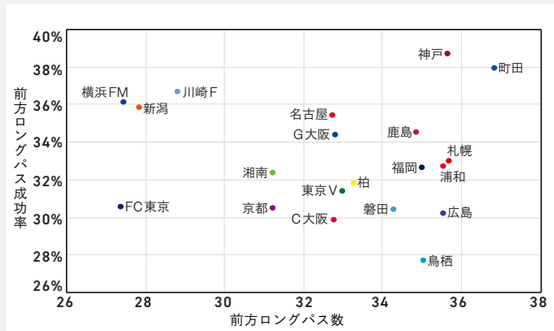


▶Ｊ１の1試合平均パス数は2020シーズンから4シーズン連続で減少し、データを取得している2011シーズン以降で最も少ない434本となった。

チーム別の1試合平均パス数とパス成功率のトップは、2シーズン連続でアルビレックス新潟。どちらも横浜F・マリノスがリーグ2位となっている。

リーグ戦上位3チームであるヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島、FC町田ゼルビアのパス成功率は、それぞれ73%、74%、70%とリーグ平均の77%よりも低くなっているのが特徴的である。

●Ｊ１ チーム別の1試合平均前方ロングパス数と前方ロングパス成功率

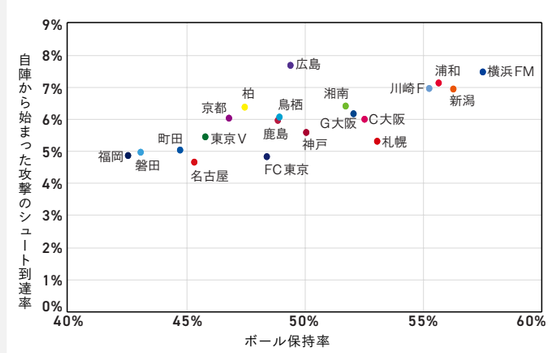


▶1試合平均の前方ロングパス数が最も多かったのはFC町田ゼルビアで36.9本。ヴィッセル神戸は前方ロングパス成功率がリーグトップの38.6%。この2チームは数と成功率が共に高く、強力な攻撃手段として使いこなしていたことが数字に表れている。

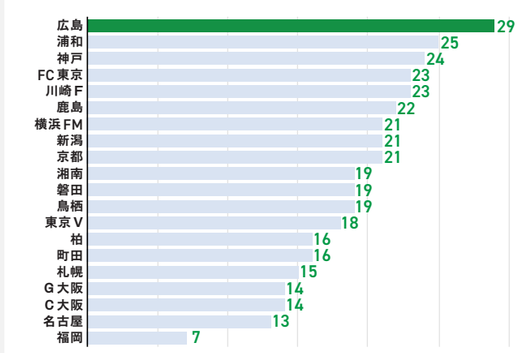
ボール保持率の高い横浜F・マリノス（リーグ1位）、アルビレックス新潟（同2位）、川崎フロンターレ（同4位）の3チームは、前方ロングパス数は少ないものの成功率は高く、場面によってはロングパスを効果的に使っていたことがわかる。

132 全カテゴリーを通じてゴールキーパー以外で最も多くの前方ロングパスを成功させたのは、Ｊ２の横浜FCの福森 晃斗で132本。Ｊ１で最も多かったのは横浜F・マリノスのエドゥアルドで85本、Ｊ３はアスルクラロ沼津の附木 雄也とガイナーレ鳥取の温井 駿斗で97本だった。

●Ｊ１ チーム別のボール保持率と自陣から始まった攻撃のシュート到達率



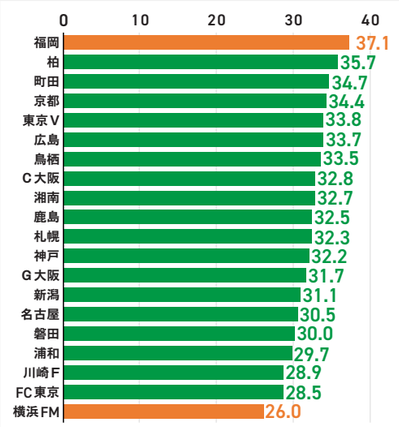
●Ｊ１ チーム別の自陣から始まった攻撃での得点数



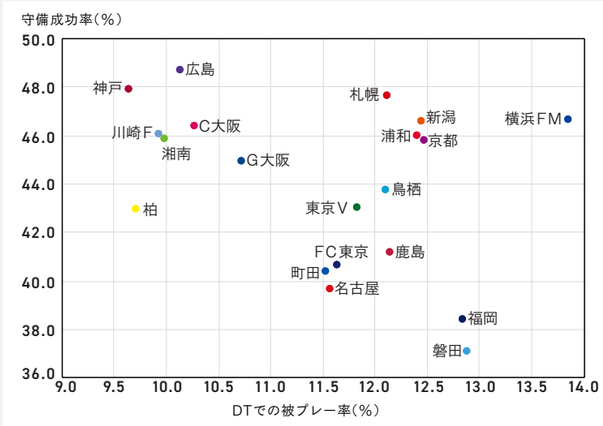
▶ボール保持率の高いチームほど、自陣から始まった攻撃でシュートまで到達する可能性が高いという傾向が見て取れるが、サンフレッチェ広島だけはボール保持率が49.5%ながら、シュート到達率が7.7%と最も高く、異彩を放っている。ディフェンシブサードでのボールロスト数ではリーグ最少となっており、自陣からゴール前へのボール運びの精度の高さがうかがえる。自陣から始まった攻撃での得点数も29点と最も多く、リーグ最多の得点数72を記録した一つの要因となっている。

DEFENSE 守備

●Ｊ１ チーム別の1試合平均ハイプレッシング回数



●Ｊ１ ハイプレッシング時の守備成功率とディフェンシブサードでの被プレー率

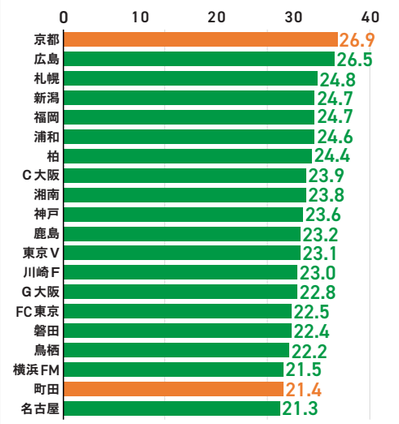


※ハイプレッシング回数：ハイプレスから始まり、連続したプレスをかけた回数
※ハイプレッシング時の守備成功率：ハイプレッシング開始から５秒未満に被シュートなくマイボールに変えることができた割合

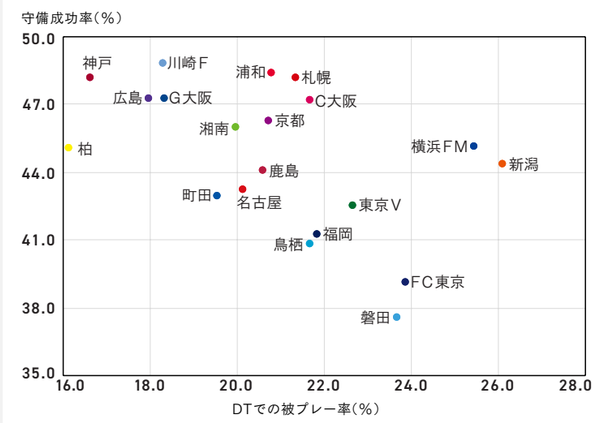
▶ ハイプレッシング回数が最も多かったのはアビスパ福岡の37.1回。昇格組ながら上位でフィニッシュしたFC町田ゼルビアと東京ヴェルディもそれぞれ3位、5位となっている。最も少なかったのは横浜Ｆ・マリノスで26.0回だった。

ハイプレッシング時の守備成功率では、サンフレッチェ広島が48.7%で1位、ヴィッセル神戸が47.9%で2位と、リーグ戦の上位2チームが並んだ。さらにヴィッセル神戸はハイプレッシング時にプレスを突破されてディフェンシブサードまで持ち込まれた割合が9.6%で最も低く、ハイリターンなプレッシングができていたことがわかる。

●Ｊ１ チーム別の1試合平均カウンタープレッシング回数



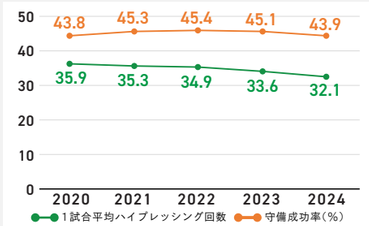
●Ｊ１ カウンタープレッシング時の守備成功率とディフェンシブサードでの被プレー率



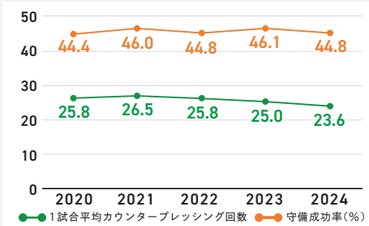
※カウンタープレッシング回数…ボールロスト直後にプレスを開始し、連続したプレスをかけた回数。相手ゴールキーパーがキャッチした場合やセットプレーなどで密集した場合でのロストは対象外。※カウンタープレッシング時の守備成功率：カウンタープレッシング開始から５秒未満に被シュートなくマイボールに変えることができた割合。

▶ カウンタープレッシング回数が最も多かったのは京都サンガF.C.の26.9回。サンフレッチェ広島が26.5回で続いた。FC町田ゼルビアは2番目に少なく、ハイプレッシングと使い分けていたことがわかる。カウンタープレッシングの守備成功率が最も高かったのは川崎フロンターレの48.8%で、カウンタープレッシング時にディフェンシブサードまで持ち込まれた割合が最も低いのは柏レイソルの16.2%だった。ヴィッセル神戸はどちらもリーグ2位となっており、カウンタープレッシングでもクオリティの高さを存分に発揮していた。

●Ｊ１ ハイプレッシング回数と守備成功率のシーズン推移

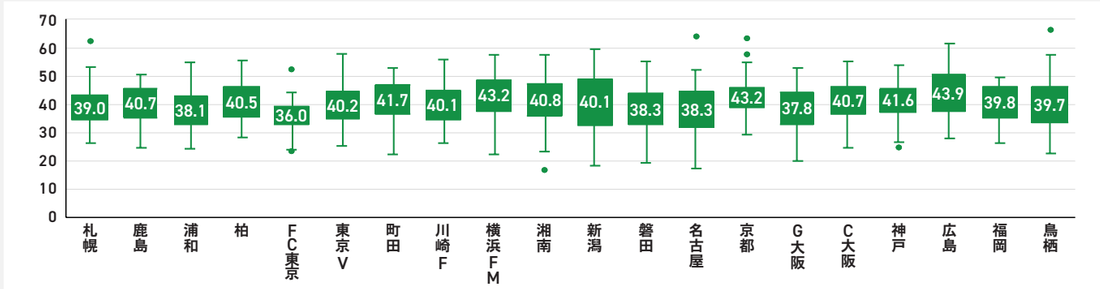


●Ｊ１ カウンタープレッシング回数と守備成功率のシーズン推移



▶ ハイプレッシングとカウンタープレッシングについてＪ１のシーズン推移を見ると、どちらも守備成功率には大きな変化はないものの、回数はどちらもリーグ全体としてはやや減少傾向にある。それだけに、連覇を果たしたヴィッセル神戸がこの部門で他チームに差をつけていることは注目される。

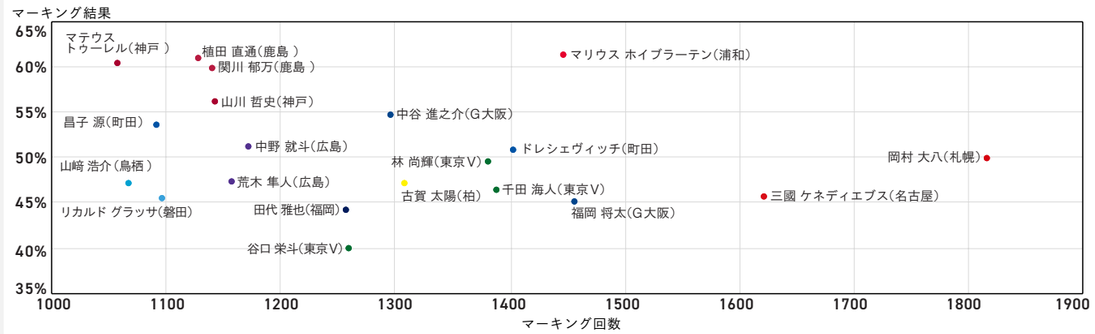
●Ｊ１ チーム別のタックルラインの分布（単位：m）



※データのばらつきを表しており、青い箱の範囲に中央50%（第1四分位数～第3四分位数）のデータを含む。●は外れ値。箱内の数字は平均値。

▶ 試合ごとのタックルラインの分布を見ると、外れ値を除いて最も高い位置にあるのはサンフレッチェ広島で、シーズン平均も43.9mでトップ。京都サンガF.C.は試合ごとのばらつきが小さく、シーズンを通してタックルラインが高かったことがわかる。低い位置で試合ごとのばらつきが小さいのはFC東京で、シーズン平均も最も低く、守り方が一貫している。一方、アルビレックス新潟は他のチームに比べてばらつきがやや大きい結果となった。

●Ｊ１ 選手別のマーキング回数とマーキング結果 ※対象：マーキング回数の上位20選手



※マーキング結果：マーキングされている攻撃側の選手がプレーに関与してから５秒以内に、マーキングしている守備側の選手またはチームがマイボールにした割合

▶ マーキング回数1位は北海道コンサドーレ札幌の岡村 大八で1819回。2位となった名古屋グランパスの三國 ケネディエブスに200回近い差をつける圧倒的な数字で、相手チームの攻撃陣に自由を与えなかったことが表れている。上位20選手の中で13人がリーグ戦6位までのチームの選手となった。

マーキング結果を見ると、浦和レッズのマリウス ホイブラーテン、ヴィッセル神戸のマテウス トゥーレル、鹿島アントラーズの植田 直通の3選手は60%を超えており、彼らにマークされている選手にボールが入ってもなかなか攻撃がつながらなかったといえる。

GOALKEEPING ゴールキーピング

● J１ チーム別の失点数とクリーンシート数 ※PA:ペナルティーエリア

チーム	失点（PA内 /PA外）	クリーンシート
町田	34（32/2）	18
G大阪	35（32/3）	13
神戸	36（28/8）	13
福岡	38（36/2）	15
鹿島	41（34/7）	15
広島	43（39/4）	12
浦和	45（36/9）	12
名古屋	47（41/6）	11
C大阪	48（43/5）	11
柏	51（46/5）	7
FC東京	51（42/9）	10
東京V	51（44/7）	12
京都	55（46/9）	11
川崎F	57（51/6）	6
湘南	58（50/8）	6
新潟	59（46/13）	8
横浜FM	62（53/9）	7
札幌	66（59/7）	9
磐田	68（61/7）	6
鳥栖	68（58/10）	8

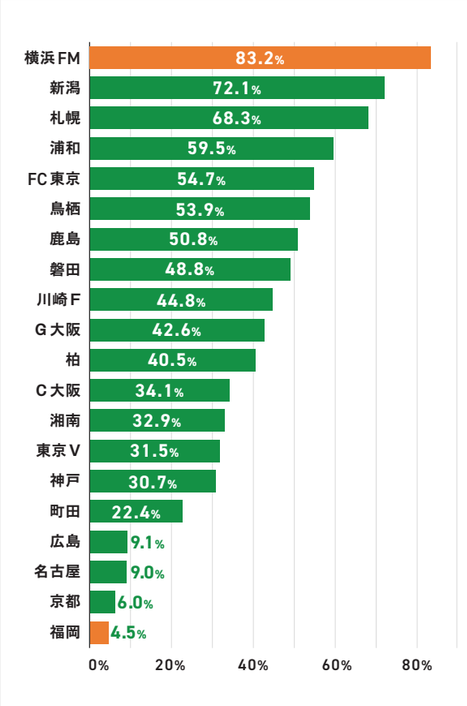
● J１ ゴールキーパー別の失点数、クリーンシート数、セーブ数 ※対象:19試合以上に出場したゴールキーパー

選手	出場試合	1試合平均失点（総失点）	クリーンシート	セーブ	セーブ率
谷 晃生	37	0.86 (32)	17	90	73.8%
前川 黛也	37	0.92 (34)	13	81	70.4%
一森 純	38	0.92 (35)	13	112	76.2%
早川 友基	38	1.08 (41)	15	96	70.1%
村上 昌謙	26	1.12 (29)	9	70	70.7%
大迫 敬介	38	1.13 (43)	12	79	64.8%
松本 健太	32	1.16 (37)	7	77	67.5%
野澤 大志ブランドン	27	1.19 (32)	9	94	74.6%
西川 周作	36	1.19 (43)	11	83	65.9%
ソン ボムグン	20	1.25 (25)	4	34	57.6%

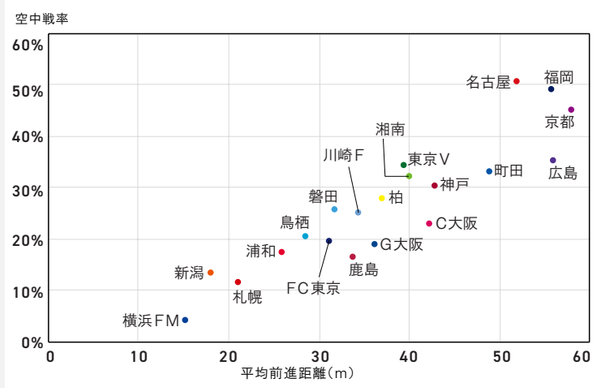
▶チーム別の失点数ではFC町田ゼルビアが34点で最少となり、ガンバ大阪が35点、ヴィッセル神戸が36点で続いた。クリーンシート数でもFC町田ゼルビアが18試合を記録し、鹿島アントラーズとアビスパ福岡の15試合を上回って単独最多となった。

全試合数の半分にあたる19試合以上に出場したゴールキーパーの中では、FC町田ゼルビアの谷 晃生が1試合平均失点0.86点で最少。クリーンシート数でも17試合を記録して2冠を達成した。ヴィッセル神戸の前川 黛也はリーグ2位となる1試合平均失点0.92でJ１連覇に貢献。セーブ率が最も高かったのは、ガンバ大阪の一森 純で76.2%。昨シーズン(※所属は横浜F・マリノス)に続いて2年連続でトップとなった。

● J１ ディフェンシブサードへのゴールキックの割合



● J１ ゴールキックの平均前進距離(単位:m)と空中戦率

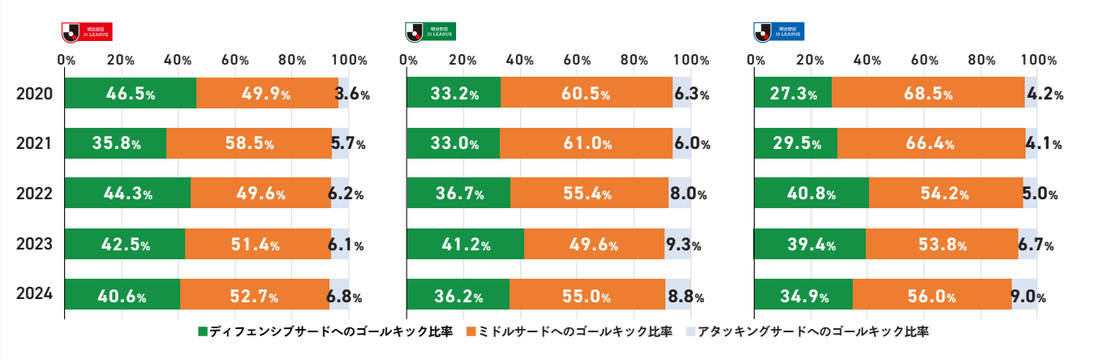


※前進距離:自陣ゴールラインから相手陣ゴールライン方向へ進んだ距離

▶ディフェンシブサードへのゴールキックの割合が最も高かったのは、横浜F・マリノスの83.2%で唯一80%を超えた。アルビレックス新潟が72.1%で続いている。最も割合が低かったのはアビスパ福岡の4.5%で、京都サンガF.C.、名古屋グランパス、サンフレッチェ広島を含めた4チームが10%を下回っている。

ゴールキックの平均前進距離は、ディフェンシブサードへのゴールキックの割合と同じ傾向となっているが、ゴールキックから空中戦になった割合を見ると、名古屋グランパスが50.3%で最も高かった。

● ゴールキックのエリア別比率のシーズン推移

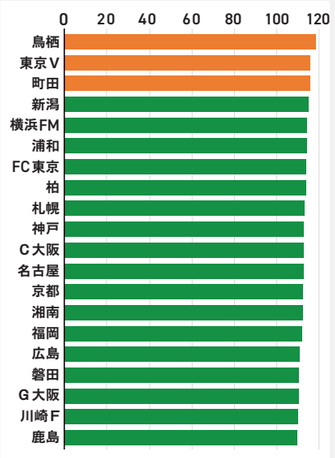


▶ゴールキックのエリア別比率のシーズン推移を見ると、J１では降格がなかった2020シーズンにディフェンシブサードへの割合が直近5シーズンの中で最も高くなっている。降格枠が4つとなった2021シーズンにその割合が大きく減少しており、昇降格がチームスタイルに与える影響が見て取れる。2022シーズンには数字を戻したが、以降は2シーズン連続でディフェンシブサードへの割合が減少傾向にある。

J２では2020シーズン以降、徐々にディフェンシブサードへの割合が伸び、2023シーズンには40%を超えたが、今シーズンはやや減少している。J３は2022シーズンに急増して40%を超えたが、その後は減少傾向となっている。今シーズンは全てのカテゴリーで昨シーズンより減少しており、ゴールキックにおけるロングボールが増えていることがわかる。

FITNESS フィットネス

●J1 チーム別の1試合平均走行距離（単位:km）



●J1 チーム別の1試合平均スプリント回数

●J1 選手別の総走行距離（単位:km）

選手	走行距離
渡邊 凌磨	442.5
田中 駿汰	403.3
稲垣 祥	402.1
秋山 裕紀	401.6
藤原 奏哉	400.6

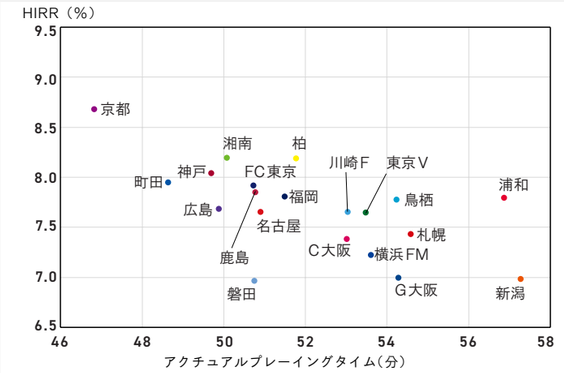
●J1 選手別の総スプリント回数

選手	スプリント回数
福田 心之助	742
岩崎 悠人	729
細谷 真大	694
武藤 嘉紀	660
マテウス サヴィオ	654

▶ チーム別の1試合平均走行距離は、4シーズン連続でサガン鳥栖がトップ。昇格組の東京ヴェルディが2位、FC町田ゼルビアが3位と上位に入っている。チーム別の1試合平均スプリント回数では、昨シーズンは10位だった柏レイソルがプラス12.7回と大きく数字を伸ばして一気にトップとなった。選手別に見ても3位に細谷 真大、5位にマテウス サヴィオ、10位に関根 大輝と3人がトップ10に名を連ねている。一方で、昨シーズントップだった名古屋グランパスはマイナス13.1回と大きく減っている。また、ジュビロ磐田は96.3回と唯一100回を下回った。

選手別の総走行距離では、浦和レッズの渡邊 凌磨が全試合に先発出場して442.5kmを記録。これはトラッキングデータの取得を開始した2015年以降2番目の記録となった。選手別のスプリント回数では、京都サンガF.C.の福田 心之助が742回でトップ。出場試合数を昨シーズンの21から34に増やしたことに加え、1試合平均スプリント回数も18.6回から21.8回と増加し、強度の高さと継続性を示した。

●J1 チーム別平均HIRRとアクチュアルプレーイングタイム



※HIRR（High Intensity Running Ratio）:フィールドプレーヤーの走行距離のうち時速20km以上の割合

●J1 HIRR10%以上を記録した試合

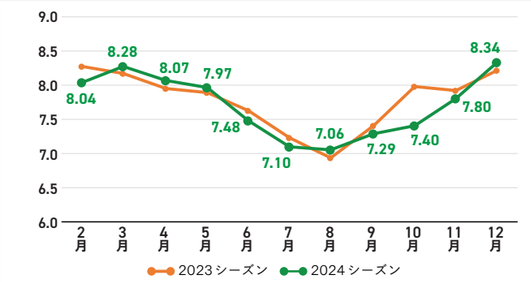
日付	チーム	HIRR（%）	対戦相手
2024/3/2	広島	11.32	FC東京
2024/3/17	京都	11.15	横浜FM
2024/4/13	京都	10.97	鹿島
2024/5/15	京都	10.84	浦和
2024/3/2	FC東京	10.79	広島
2024/5/29	柏	10.48	横浜FM
2024/4/20	京都	10.21	新潟
2024/3/2	柏	10.01	神戸

▶ インテンシティの指標の一つであるHIRRでは、京都サンガF.C.が1試合平均8.68%でトップとなり、2位の湘南ベルマーレに約0.5ポイントの差をつけている。また、J1初挑戦となったFC町田ゼルビアも7.95%で5位と、J1でも上位の強度を示した。

昨シーズン8.20%でトップだったサンフレッチェ広島が7.68%となり、下がり幅としては最大となった。シーズン序盤のFC東京戦では、今シーズンの全試合の中でトップとなる11.32%を記録するなど高い強度を見せていたが、7月から3カ月連続でリーグ平均を下回る6%台となり、夏場に数字が落ち込んだ。HIRR10%以上を記録した試合数は、J1全体で昨シーズンの3から8に増加した。

また、HIRRとアクチュアルプレーイングの関係性を見ると、HIRRが最も高かった京都サンガF.C.のアクチュアルプレーイングが最も短く、一方でHIRRが2番目に低かったアルビレックス新潟のアクチュアルプレーイングが最も長くなっている。全体として、インテンシティが高いほどアクチュアルプレーイングが短くなる傾向にあることがわかる。

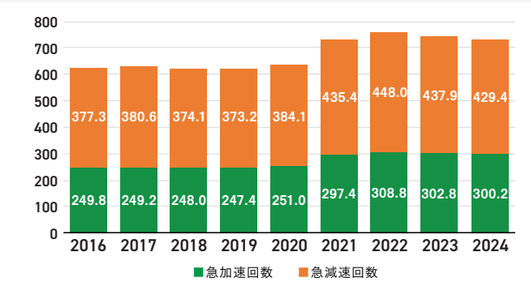
●J1 月別の1試合平均HIRR（単位:%）



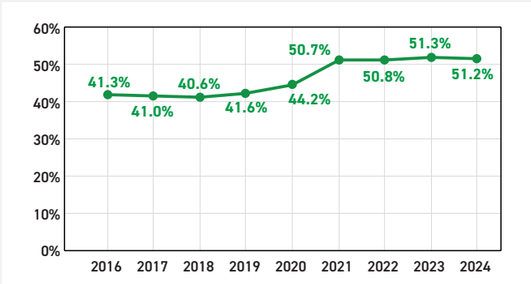
▶ 月別のHIRRはおおむね昨シーズンと同様の傾向で推移したが、今シーズンは8月でも7.06%と7%以上をキープした。一方で、10月は日本全国で平均気温が同月として歴代1位となるなど残暑が厳しく、昨シーズンの7.98%に対して今シーズンは7.40%と、大きな隔たりが生じた。

●J1 急加速・急減速回数のシーズン推移

※インプレー90分換算、1試合1チーム平均



●J1 試合中にトップスピードが時速30kmを超えた選手の割合に関するシーズン推移



▶ インプレー時間90分に換算した急加速回数と急減速回数のシーズン推移について比較すると、年間通じて交代枠が5人になった2021シーズンを境に大幅に増えているのがわかる。フレッシュな選手が投入される機会が増えたことで強度が上がっているといえる。また、試合中にトップスピードが時速30kmを超えた選手の割合も全く同じ傾向となっており、2021シーズン以降で大幅に増えている。2024シーズンは51.2%と、昨シーズンとほぼ同じ結果になっており、試合数が増加しても高い強度を維持しているのがわかる。

●各リーグのスプリント到達時間TOP5（単位:秒）※データ提供:SkillCorner ※スプリント到達時間:時速9km以下から時速25km以上まで加速するのにかかった最少時間

リーグ	選手	スプリント到達時間
J1	永井 謙佑	1.020
J1	山下 諒也	1.057
J1	レオ ゴメス	1.083
J1	長沼 洋一	1.087
J1	細谷 真大	1.093

リーグ	選手	スプリント到達時間
J2	山根 永遠	1.023
J2	マルコス ギリェルメ	1.057
J2	梶谷 政仁	1.063
J2	田中 和樹	1.063
J2	阿部 海大	1.090

リーグ	選手	スプリント到達時間
J3	梅木 怜	1.113
J3	阿野 真拓	1.120
J3	奥田 雄大	1.130
J3	内田 瑞己	1.130
J3	山脇 樺織	1.133
J3	泉 柊椰	1.133

▶ 選手のスピードを測る指標の一つとして、スプリントに到達するまでの時間を各リーグで見ると、J1では名古屋グランパスの永井 謙佑が1.020秒でトップ。Jリーグ全体を通じても最速である。ガンバ大阪の山下 諒也が1.057秒で続き、他にも快速アタッカーが上位に名前を連ねた。

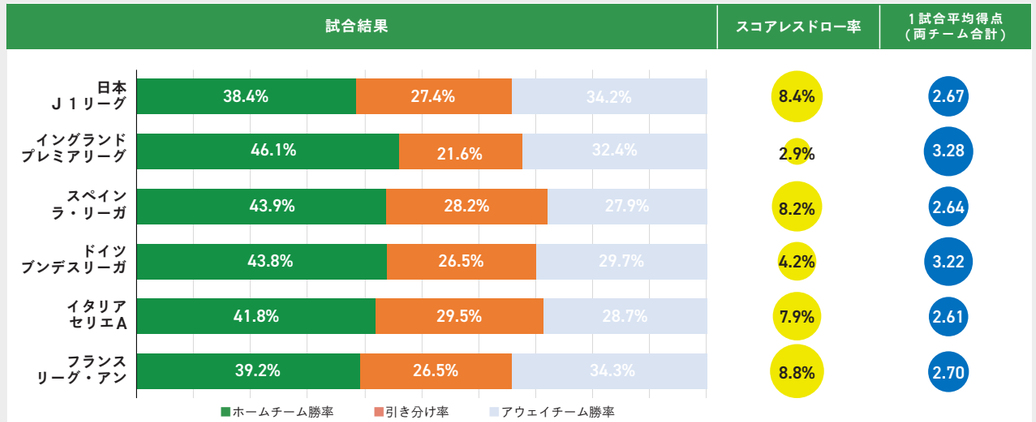
J2では、横浜FCの山根 永遠が1.023秒と永井 謙佑に匹敵する速さでトップ。5位にはファジアーノ岡山に所属するセンターバックの阿部 海大がランクインした。

J3では、FC今治の梅木 怜、テゲバジャーロ宮崎の阿野 真拓、カマタマーレ讃岐の内田 瑞己、ギラヴァンツ北九州の山脇 樺織と、右サイドを主戦場とする選手が多く並んでいる。

SPECIAL 欧州5大リーグとの比較

本章では、Jリーグと世界との比較を行うため、欧州5大リーグであるプレミアリーグ(イングランド)、ラ・リーガ(スペイン)、ブンデスリーガ(ドイツ)、セリエA(イタリア)、リーグ・アン(フランス)とJ1リーグのデータを見ていく。欧州リーグとデータの定義をそろえるため、J1リーグのデータも外部ソース(データ提供:SkillCorner)を利用し、欧州リーグは2023-24シーズン、J1リーグは2024シーズンのデータを対象としている。

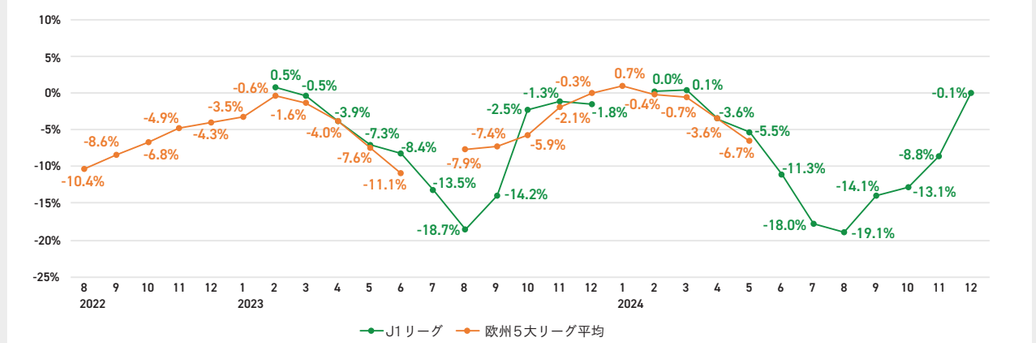
● 各リーグの試合結果と1試合平均得点の比較



▶ホームチーム勝率ではプレミアリーグが46.1%でトップ、J1リーグが38.4%で昨シーズンに続き最も低かった。ホームチーム勝率とアウェイチーム勝率の差が最も大きいのは、ラ・リーガで16.1ポイント。続いてブンデスリーガ、プレミアリーグ、セリエAが13ポイント超となっており、ホームアドバンテージがかなり強い傾向があるといえる。一方で、リーグ・アンは4.9ポイント、J1リーグは4.2ポイントで最も低くなっている。

スコアレスドロー率に関しては、J1リーグは昨シーズンの7.8%から8.4%と増加し、リーグ・アンに次いで2番目の高さとなっている。一方、プレミアリーグは2.9%、ブンデスリーガは4.2%と、スコアレスドロー率が極端に低くなっている。1試合平均得点を見ても、プレミアリーグとブンデスリーガのみ3点以上となっており、得点の入る試合が多くなっていることがわかる。特に、プレミアリーグは昨シーズンの2.85点から3.28点に急増している。

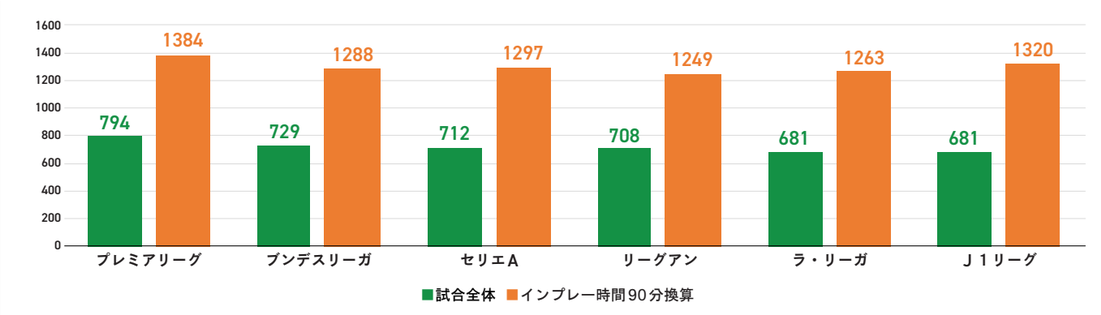
● J1リーグと欧州5大リーグ平均の月別ハイインテンシティ走行距離比較 ※J1リーグの2024年2月を基準とした増減割合



※1試合におけるフィールドプレーヤー1人あたりのハイインテンシティ(20km/h以上)での平均走行距離。対象は各試合において60分以上出場している選手。

▶月別のハイインテンシティ走行距離について、J1リーグと欧州5大リーグの平均を比較すると、2023シーズンと2024シーズンともに、2～6月にかけてはほぼ合致しているが、J1リーグは7～9月の夏場に大きく落ち込んでいる。欧州5大リーグではシーズンが開幕する8月でも落ち込みは少なく、J1リーグと最も隔たりのあるのが8月ということがわかる。

● 各リーグのハイインテンシティ走行距離(単位:m) ※試合全体とインプレー時間90分換算



※1試合におけるフィールドプレーヤー1人あたりのハイインテンシティ(20km/h以上)での平均走行距離。対象は各試合において60分以上出場している選手。

▶続いて各リーグの試合全体におけるハイインテンシティ走行距離を見ると、昨シーズンは760mでトップだったプレミアリーグが794mとさらに数字を伸ばして、他リーグに圧倒的な差をつけている。一方、J1リーグは昨シーズンの692mから681mへと減少し、ラ・リーガと並び最も低くなっている。

また、各リーグでインプレー時間が異なることを考慮して、インプレー時間90分に換算した場合のハイインテンシティ走行距離を比較すると、J1リーグはプレミアリーグに次ぐ2番目の長さとなっている。インプレー中の強度では欧州5大リーグにも引けを取っておらず、インプレー時間が伸びたときにどこまで強度を保てるかがポイントになるといえる。

● チーム別のハイインテンシティ走行距離ランキング
※試合全体での1試合1選手平均

順位	リーグ	チーム	走行距離(m)
1	プレミアリーグ	トッテナム・ホットスパー	900.0
2	プレミアリーグ	ニューカッスル・ユナイテッド	896.4
3	プレミアリーグ	ボーンマス	883.6
4	プレミアリーグ	エヴァートン	865.5
5	プレミアリーグ	リヴァプール	838.7
6	プレミアリーグ	マンチェスター・ユナイテッド	827.6
7	プレミアリーグ	チェルシー	817.4
8	ブンデスリーガ	ヴォルフスブルク	807.9
9	プレミアリーグ	フルハム	800.5
10	セリエA	ラツィオ	794.6
11	プレミアリーグ	バーンリー	792.9
12	ブンデスリーガ	1. FSV マインツ05	790.2
13	プレミアリーグ	ブレントフォードFC	789.5
14	リーグ・アン	RCランス	784.7
15	J1リーグ	京都サンガF.C.	783.5
16	ブンデスリーガ	1.FCハイデンハイム	783.3
17	リーグ・アン	ASモナコ	774.9
18	プレミアリーグ	ルートン・タウン	771.8
19	プレミアリーグ	ウォルヴァーハンプトン・ワンダラーズ	768.5
20	プレミアリーグ	ウェストハム・ユナイテッド	767.9

● チーム別のハイインテンシティ走行距離ランキング
※インプレー時間90分換算での1試合1選手平均

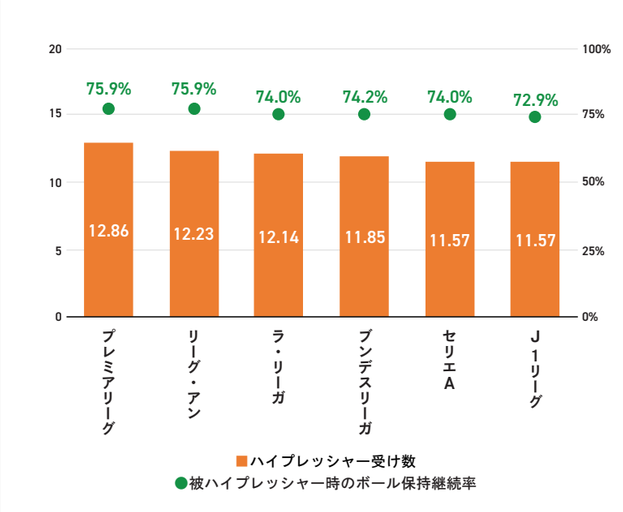
順位	リーグ	チーム	走行距離(m)
1	J1リーグ	京都サンガF.C.	1690.2
2	プレミアリーグ	ボーンマス	1636.0
3	プレミアリーグ	トッテナム・ホットスパー	1621.7
4	プレミアリーグ	ニューカッスル・ユナイテッド	1611.2
5	プレミアリーグ	エヴァートン	1522.5
6	プレミアリーグ	リヴァプール	1493.6
7	J1リーグ	FC町田ゼルビア	1492.0
8	ブンデスリーガ	VfLボーフム	1481.4
9	J1リーグ	ヴィッセル神戸	1468.0
10	ブンデスリーガ	1. FSV マインツ05	1467.1
11	ブンデスリーガ	ヴォルフスブルク	1458.2
12	J1リーグ	柏レイソル	1442.9
13	J1リーグ	湘南ベルマーレ	1438.4
14	プレミアリーグ	ブレントフォードFC	1437.4
15	プレミアリーグ	チェルシー	1424.3
16	プレミアリーグ	ルートン・タウン	1420.6
17	セリエA	エラス・ヴェローナ	1416.1
18	ラ・リーガ	ラージョ・バジェカーノ	1415.2
19	J1リーグ	FC東京	1413.1
20	リーグ・アン	RCランス	1412.8

▶J1リーグと欧州5大リーグのチーム別のハイインテンシティ走行距離を見ると、トップ7をプレミアリーグのチームが独占し、トップ20の中に13チームが入るなど圧倒的な強度の高さを示している。J1リーグからは京都サンガF.C.が15位と、唯一トップ20にランクインした。

またインプレー時間の差を考慮して、インプレー時間90分に換算した数値を見ると、京都サンガF.C.がトップ。さらにFC町田ゼルビア、ヴィッセル神戸、柏レイソル、湘南ベルマーレ、FC東京の6チームがトップ20にランクインしている。

SPECIAL 欧州5大リーグとの比較

●各リーグのハイプレッシャー受け数とボール保持継続率 ※1試合1選手平均

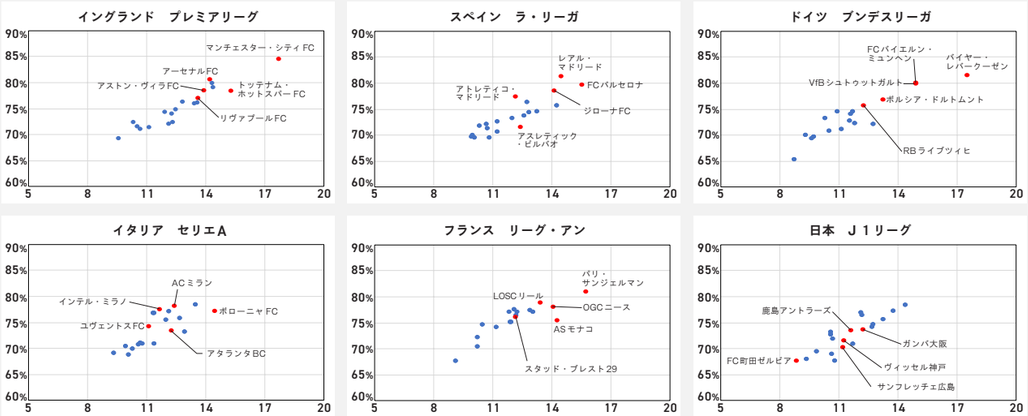


▶1試合1選手あたりのハイプレッシャー受け数を比較すると、プレミアリーグが12.86回で最も多く、J1リーグは11.57回でセリエAと並んで最も少なくなっている。また、ハイプレッシャーを受けた際のボール保持継続率もJ1リーグは72.9%で最も低い結果となった。プレス耐性による差が、前述したようにJリーグ全体でアクチュアルプレーイングタイムが短い要因の一つとして考えられる。

※ハイプレッシャー：ボール保持者の前方から2.5m以内の距離、あるいは2.5～4mの距離かつ6m/s以上のスピードで相手選手が近づいている場合。またはボール保持者の後方から2m以内の距離、あるいは2～3mの距離かつ6m/s以上のスピードで相手選手が近づいている場合。

※ボール保持継続率：ハイプレッシャーを受けている状態で、ボール保持者がパス成功やキープなどでボールを失わなかった割合。

●各リーグのチーム別のハイプレッシャー受け数とボール保持継続率 ※1試合1選手平均 ※●：上位5チーム



※横軸：ハイプレッシャー受け数　※縦軸：被ハイプレッシャー時のボール保持継続率

▶続いて、各リーグのチーム別のハイプレッシャー受け数とボール保持継続率を見ると、プレミアリーグのマンチェスター・シティとアーセナル、ラ・リーガのレアル・マドリード、ブンデスリーガのバイヤー・レバークーゼンとFCバイエルン・ミュンヘン、リーグ・アンのパリ・サンジェルマンの6チームが、ハイプレッシャーを受けた際のボール保持継続率で80%超を記録している。

セリエA以外の欧州5大リーグでは、優勝チームもこの中から出ており、特にブンデスリーガでは上位5チーム、ラ・リーガでは上位4チームがこのボール保持継続率のトップ5と一致しており、ハイプレッシャーを受けながらもそれを突破して勝利していることがうかがえる。

一方で、J1リーグではハイプレッシャーを受けた際のボール保持継続率のトップ5はアルビレックス新潟（78.3%）、川崎フロンターレ（77.1%）、浦和レッズ（76.9%）、セレッソ大阪（76.4%）、横浜F・マリノス（75.6%）となっており、いずれも上位5チームに入っていない。さらに、ハイプレッシャー受け数が8.9回でリーグ最少、ボール保持継続率が67.5%でリーグ19位のFC町田ゼルビアが最終順位で3位となるなど、欧州5大リーグと傾向が大きく異なることがわかる。

●選手別のピークスプリント速度ランキング

順位	選手	リーグ	チーム	ピークスプリント速度（km/h）
1	ペドロ・ネト	プレミアリーグ	ウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ	32.88
2	アントニー・エランガ	プレミアリーグ	ノッティンガム・フォレスト	32.63
3	ラウル・ベッラノーヴァ	セリエA	トリノ	32.61
4	テオ・エルナンデス	セリエA	ACミラン	32.42
5	フェスティ・エボセレ	セリエA	ウディネーゼ	32.41
6	アントニー・ロビンソン	プレミアリーグ	フルハム	32.32
7	ジェレミー・フリンポン	ブンデスリーガ	バイヤー・レバークーゼン	32.27
8	ミッキー・ファン・デ・フェン	プレミアリーグ	トッテナム・ホットスパー	32.17
9	アルフォンソ・デイヴィス	ブンデスリーガ	FCバイエルン・ミュンヘン	32.10
9	アルバロ・ガルシア・リベラ	ラ・リーガ	ラージョ・バジェカーノ	32.10
11	アンソニー・ゴードン	プレミアリーグ	ニューカッスル・ユナイテッド	32.08
12	ポントゥス・アルムクヴィスト	セリエA	レッチェ	32.07
13	ヴィクター・オシムヘン	セリエA	ナポリ	32.06
14	ジュリアン・アラウージョ	ラ・リーガ	ラス・パルマス	31.98
15	マルセロ ヒアン	J1リーグ	サガン鳥栖	31.81
16	ブラッドリー・バルコラ	リーグ・アン	パリ・サンジェルマン	31.79
17	マービン・パク	ラ・リーガ	UDラス・パルマス	31.77
17	山下 諒也	J1リーグ	ガンバ大阪	31.77
19	ラヒーム・スターリング	プレミアリーグ	チェルシー	31.72
20	ムサ・ディアビ	プレミアリーグ	アストン・ヴィラ	31.71

※ピークスプリント速度：99パーセンタイルのピークスピード

●選手別のスプリント到達時間ランキング

順位	選手	リーグ	チーム	スプリント到達時間（秒）
1	ジェレミー・フリンポン	ブンデスリーガ	バイヤー・レバークーゼン	0.967
2	オスカル・ミンゲサ	ラ・リーガ	セルタ・デ・ビーゴ	0.980
3	オラ・アイナ	プレミアリーグ	ノッティンガム・フォレスト	0.990
4	アルバロ・ガルシア・リベラ	ラ・リーガ	ラージョ・バジェカーノ	1.003
4	ガブリエウ・テオドロ・マルティネッリ・シウヴァ	プレミアリーグ	アーセナル	1.003
6	マービン・パク	ラ・リーガ	UDラス・パルマス	1.013
7	永井 謙佑	J1リーグ	名古屋グランパス	1.020
7	アンソニー・ゴードン	プレミアリーグ	ニューカッスル・ユナイテッド	1.020
9	山根 永遠	J2リーグ	横浜FC	1.023
10	レロイ・サネ	ブンデスリーガ	FCバイエルン・ミュンヘン	1.030
10	サヴィオ・モレイラ・ジ・オリヴェイラ	ラ・リーガ	ジローナ	1.030
12	ルイス・クック	プレミアリーグ	ボーンマス	1.033
12	ロナルド・フェデリコ・アラウホ・ダ・シルバ	ラ・リーガ	FCバルセロナ	1.033
14	フェリックス・アグ	ブンデスリーガ	ヴェルダー・ブレーメン	1.037
15	ラファエル・レオン	セリエA	ACミラン	1.040
15	フェスティ・エボセレ	セリエA	ウディネーゼ	1.040
17	ニコ・ウィリアムズ	ラ・リーガ	アスレティック・ビルバオ	1.047
18	ベト	プレミアリーグ	エヴァートン	1.050
19	マヌエル・アカンジ	プレミアリーグ	マンチェスター・シティ	1.053
19	ファクンド・ペリストリ	ラ・リーガ	グラナダCF	1.053
19	ティエリー・コレイア	ラ・リーガ	バレンシアCF	1.053

※スプリント到達時間：時速9kmから時速25kmまでの最少到達時間

▶トップスピードに近い指標として、ピークスプリント速度を選手別に比較すると、ウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ（プレミアリーグ）のペドロ・ネトが32.88km/hで全体トップ。J1リーグからはサガン鳥栖のマルセロ ヒアンが31.81km/hで15位に、ガンバ大阪の山下 諒也が31.77km/hで17位にランクインしている。

スプリント到達時間では、バイヤー・レバークーゼン（ブンデスリーガ）のジェレミー・フリンポンが0.967秒で全体トップ。J1リーグからは名古屋グランパスの永井 謙佑が1.020秒で7位タイ、横浜FCの山根 永遠が1.023秒で9位と、トップ10に2選手がランクインしている。

チームスタッツ

TEAM STATS

HOKKAIDO CONSADOLE SAPPORO
北海道コンサドーレ札幌

▸ 成績

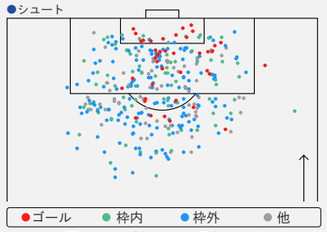
順位	19 位	勝点	37
総合	9勝10分19敗	43得点	66失点
ホーム	6勝5分8敗	23得点	25失点
アウェイ	3勝5分11敗	20得点	41失点

▸ 監督

ペトロヴィッチ　2018/1/10 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

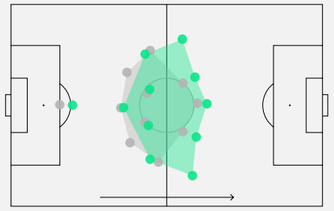
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
9	7	7	7	5	8

得点	43（O.G.2）	16位
シュート	352	13位
シュート枠内率	36.4%	15位

▸ スタイル

●平均ポジション

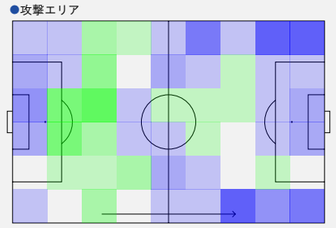


● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	54:35	3位
ボール保持率	53.1%	5位
走行距離	113.01km	9位
スプリント	118	14位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



少ない傾向　平均　多い傾向

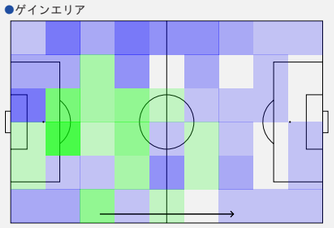
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.6%	33.9%	11.6%

	総数		成功率	
クロス	481	19位	22.2%	14位
スルーパス	432	12位	40.5%	20位
ドリブル	478	3位	49.2%	11位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



少ない傾向　平均　多い傾向

ゲインエリア比率

DT	MT	AT
56.1%	37.2%	6.7%

失点	66	18位
セーブ	129	3位
セーブ率	66.2%	13位
タックル奪取	455	2位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	菅野 孝憲	35	3147	0
17	児玉 潤	2	93	0
21	阿波加 俊太	2	180	0
2	髙尾 瑠	24	1217	0
3	パク ミンギュ	14	1156	0
6	中村 桐耶	35	1649	0
15	家泉 怜依	12	482	0
25	大﨑 玲央	17	1162	0
28	岡田 大和	2	20	0
47	西野 奨太	2	63	0
50	岡村 大八	33	2878	2
88	馬場 晴也	37	2985	2
8	深井 一希	3	100	0
10	宮澤 裕樹	21	983	1
11	青木 亮太	30	2279	6
14	駒井 善成	36	3181	6
16	長谷川 竜也	22	628	0
18	浅野 雄也	22	1634	4
19	スパチョーク	19	1398	2
27	荒野 拓馬	27	1873	1
30	田中 宏武	8	491	0
33	近藤 友喜	29	2214	5
35	原 康介	12	258	2
37	田中 克幸	17	300	1
99	小林 祐希	19	855	0
4	菅 大輝	34	2763	1
7	鈴木 武蔵	32	2489	6
9	ジョルディ サンチェス	7	149	0
13	キム ゴンヒ	9	306	0
20	アマドゥ バカヨコ	6	93	1
23	大森 真吾	8	342	0
71	白井 陽斗	10	203	1

平均年齢 27.4　カード 66 2

10代	20代	30代	40代
1人	22人	8人	1人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	青木 亮太	6（47）
1	鈴木 武蔵	6（57）
1	駒井 善成	6（25）

アシスト

1	スパチョーク	5
2	髙尾 瑠	4
3	近藤　友喜	3

ラストパス

1	青木 亮太	38
2	馬場 晴也	29
3	スパチョーク	22

ドリブル

1	近藤 友喜	121
2	鈴木 武蔵	41
3	青木 亮太	40

パス成功

1	岡村 大八	1602
2	馬場 晴也	1492
3	駒井 善成	1373

タックル

1	岡村 大八	114
2	馬場 晴也	78
3	駒井 善成	60

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

7159	ワンタッチパス数 1位
70.3%	タックル奪取率 1位
23.7%	ゴールのPA外比率 1位 ※
9	1～15分の得点数 2位タイ
28	近藤 友喜のPA内進入ドリブル数 1位タイ

※セットプレーを除く

KASHIMA ANTLERS
鹿島アントラーズ

▸ 成績

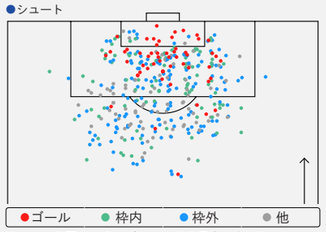
順位	5 位	勝点	65
総合	18勝11分9敗	60得点	41失点
ホーム	10勝9分0敗	28得点	13失点
アウェイ	8勝2分9敗	32得点	28失点

▸ 監督

ランコ ポポヴィッチ　2023/12/21 ～ 2024/10/6
中後 雅喜　2024/10/9 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

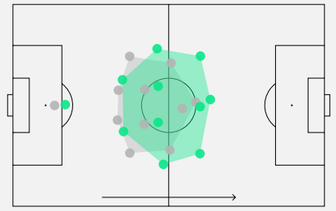
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
14	11	6	12	6	11

得点	60（O.G.1）	5位
シュート	381	10位
シュート枠内率	39.4%	8位

▸ スタイル

●平均ポジション

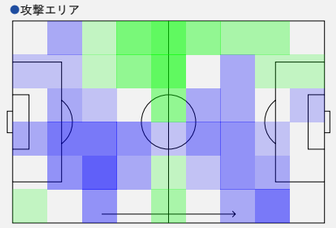


● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	50:47	13位
ボール保持率	48.9%	12位
走行距離	109.60km	20位
スプリント	122	10位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



少ない傾向　平均　多い傾向

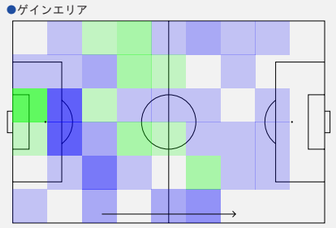
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
49.8%	36.5%	13.7%

	総数		成功率	
クロス	534	11位	21.0%	17位
スルーパス	440	11位	52.3%	5位
ドリブル	408	15位	49.0%	12位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



少ない傾向　平均　多い傾向

ゲインエリア比率

DT	MT	AT
53.4%	38.9%	7.7%

失点	41	5位
セーブ	96	12位
セーブ率	70.1%	6位
タックル奪取	418	8位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	早川 友基	38	3420	0
2	安西 幸輝	38	3404	1
5	関川 郁万	37	3278	1
16	須貝 英大	13	141	0
32	濃野 公人	31	2713	9
39	津久井 佳祐	5	98	0
55	植田 直通	38	3419	3
4	ミロサヴリェヴィッチ	10	83	0
6	三竿 健斗	15	1140	1
8	土居 聖真	11	270	0
10	柴崎 岳	22	1360	0
14	樋口 雄太	36	1549	4
15	藤井 智也	25	840	2
17	ターレス ブレーネル	8	167	0
25	佐野 海舟	20	1795	0
27	松村 優太	7	104	0
30	名古 新太郎	36	2400	5
33	仲間 隼斗	28	1818	4
34	舩橋 佑	4	47	0
77	ギリェルメ パレジ	12	174	0
7	チャヴリッチ	25	1245	7
11	田川 亨介	3	89	0
13	知念 慶	33	2882	3
36	師岡 柊生	32	1966	3
37	垣田 裕暉	4	37	0
40	鈴木 優磨	36	3039	15
41	徳田 誉	12	110	1

平均年齢 26.6　カード 42 1

10代	20代	30代	40代
1人	20人	6人	0人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	鈴木 優磨	15（50）
2	濃野 公人	9（37）
3	チャヴリッチ	7（34）

アシスト

1	名古 新太郎	9
2	鈴木 優磨	8
3	チャヴリッチ	3

ラストパス

1	名古 新太郎	41
2	鈴木 優磨	34
3	樋口 雄太	23

ドリブル

1	安西 幸輝	82
2	師岡 柊生	77
3	藤井 智也	57

パス成功

1	安西 幸輝	1502
2	関川 郁万	1290
3	植田 直通	1217

タックル

1	知念 慶	135
2	関川 郁万	47
3	三竿 健斗	46

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

14	1～15分の得点数 1位
22	知念 慶のインターセプト数 2位
49.5%	MTからのパス比率 1位 ※
42.2%	ATでの被タックル保持率 1位
103	自陣PA内での空中戦勝利数 2位

※セットプレーを除く

URAWA REDS
浦和レッズ

▸ 成績

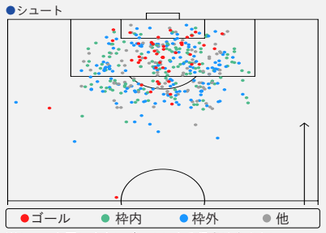
順位	13位	勝点	48
総合	12勝12分14敗	49得点	45失点
ホーム	8勝5分6敗	30得点	21失点
アウェイ	4勝7分8敗	19得点	24失点

▸ 監督

ペア マティアス ヘグモ	2023/12/8 ～ 2024/8/26
池田 伸康	2024/8/27 ～ 2024/9/6
マチェイ スコルジャ	2024/9/7 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

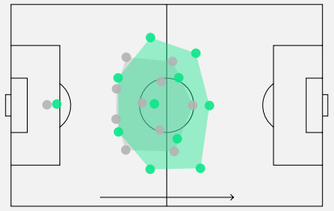
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
4	5	6	7	13	14

得点	49	10位
シュート	406	6位
シュート枠内率	42.1%	4位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	56:52	2位
ボール保持率	55.7%	3位
走行距離	114.28km	6位
スプリント	124	8位

▸ 出場選手

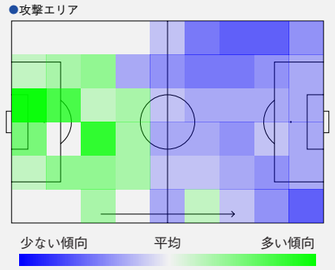
		出場	出場時間	得点
1	西川 周作	36	3229	0
16	牲川 歩見	3	187	0
2	酒井 宏樹	10	558	1
4	石原 広教	30	2360	1
5	マリウス ホイブラーテン	36	3235	1
20	佐藤 瑶大	19	1187	0
23	井上 黎生人	16	1345	0
28	アレクサンダー ショルツ	13	1092	1
66	大畑 歩夢	26	1777	0
3	伊藤 敦樹	24	2022	5
6	岩尾 憲	12	633	0
8	小泉 佳穂	20	713	0
10	中島 翔哉	22	815	1
11	サミュエル グスタフソン	28	2043	2
13	渡邊 凌磨	38	3385	6
14	関根 貴大	21	1514	2
17	オラ ソルバッケン	5	326	0
19	本間 至恩	3	59	0
21	大久保 智明	23	1335	2
24	松尾 佑介	22	1124	4
25	安居 海渡	32	2414	2
27	エカニット パンヤ	9	110	0
29	堀内 陽太	3	36	0
35	宇賀神 友弥	2	11	0
47	武田 英寿	14	405	2
78	原口 元気	10	461	1
88	長沼 洋一	11	404	0
9	ブライアン リンセン	17	842	2
12	チアゴ サンタナ	36	2117	12
18	髙橋 利樹	1	8	0
30	興梠 慎三	17	287	1
38	前田 直輝	24	1348	2
41	二田 理央	10	227	1

平均年齢 28.5　カード 42 1

10代	20代	30代	40代
0人	21人	12人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



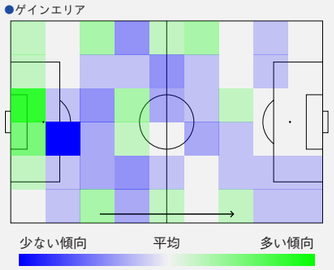
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
48.3%	40.7%	11.0%

	総数		成功率	
クロス	494	17位	20.0%	19位
スルーパス	494	6位	47.8%	13位
ドリブル	450	8位	50.7%	8位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
54.8%	36.9%	8.3%

失点	45	7位
セーブ	93	14位
セーブ率	67.4%	8位
タックル奪取	402	12位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	チアゴ サンタナ	12（64）
2	渡邊 凌磨	6（55）
3	伊藤 敦樹	5（34）

アシスト

1	渡邊 凌磨	5
2	中島 翔哉	4
2	伊藤 敦樹	4

ラストパス

1	渡邊 凌磨	34
2	サミュエル グスタフソン	30
3	伊藤 敦樹	25

ドリブル

1	渡邊 凌磨	71
2	前田 直輝	59
3	松尾 佑介	50

パス成功

1	マリウス ホイブラーテン	2503
2	渡邊 凌磨	1425
3	サミュエル グスタフソン	1293

タックル

1	伊藤 敦樹	61
1	渡邊 凌磨	61
3	大畑 歩夢	47

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

14	途中出場選手の得点数 1位
101	キャリーによる30mライン進入数 1位
53.2%	GKフィードキック成功率 1位
18.6%	ボールロスト後5秒未満でのリゲイン率 1位
58	CK3プレー以内でのシュート数 3位

KASHIWA REYSOL
柏レイソル

▸ 成績

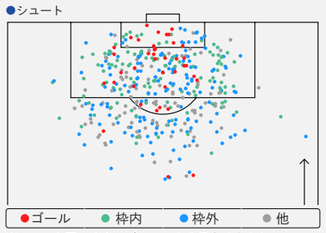
順位	17位	勝点	41
総合	9勝14分15敗	39得点	51失点
ホーム	5勝7分7敗	20得点	25失点
アウェイ	4勝7分8敗	19得点	26失点

▸ 監督

井原 正巳	2023/5/17 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

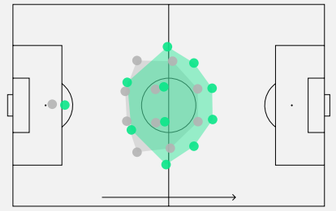
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
8	2	5	5	9	10

得点	39	19位
シュート	408	5位
シュート枠内率	38.5%	11位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	51:46	10位
ボール保持率	47.5%	14位
走行距離	113.97km	8位
スプリント	137	1位

▸ 出場選手

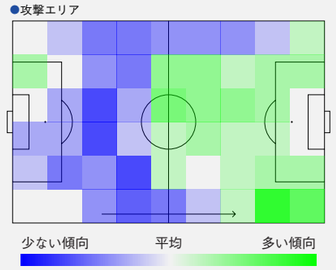
		出場	出場時間	得点
21	佐々木 雅士	4	360	0
31	守田達弥	3	181	0
46	松本 健太	32	2879	0
2	三丸 拡	6	292	0
3	ジエゴ	36	3016	3
4	古賀 太陽	37	3323	1
13	犬飼 智也	25	2189	1
16	片山 瑛一	11	387	0
22	野田 裕喜	6	418	0
24	川口 尚紀	12	483	0
32	関根 大輝	31	2678	0
50	立田 悠悟	14	904	0
5	高嶺 朋樹	11	778	1
6	山田 雄士	30	2043	0
10	マテウス サヴィオ	38	3350	9
14	小屋松 知哉	33	1777	0
25	鵜木 郁哉	8	169	0
27	熊坂 光希	10	197	0
28	戸嶋 祥郎	27	1486	3
29	島村 拓弥	28	987	3
33	白井 永地	37	2688	1
34	土屋 巧	20	903	0
37	手塚 康平	12	909	0
48	熊澤 和希	18	258	0
9	武藤 雄樹	3	48	0
15	木下 康介	38	1850	10
17	フロート	4	47	0
18	垣田 裕暉	13	344	1
19	細谷 真大	32	2546	6
38	升掛 友護	1	1	0
45	山本 桜大	9	121	0

平均年齢 26.7　カード 56 2

10代	20代	30代	40代
0人	24人	7人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



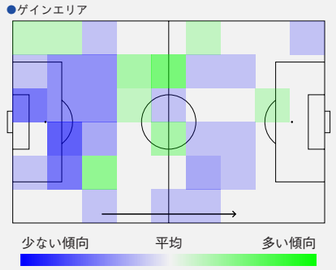
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.0%	35.4%	13.6%

	総数		成功率	
クロス	604	7位	25.7%	1位
スルーパス	573	2位	49.7%	9位
ドリブル	417	13位	47.0%	15位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
51.4%	40.0%	8.7%

失点	51	10位
セーブ	88	17位
セーブ率	63.3%	16位
タックル奪取	368	17位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	木下 康介	10（54）
2	マテウス サヴィオ	9（86）
3	細谷 真大	6（68）

アシスト

1	マテウス サヴィオ	7
2	細谷 真大	5
3	島村 拓弥	3

ラストパス

1	マテウス サヴィオ	88
2	細谷 真大	24
3	ジエゴ	21

ドリブル

1	マテウス サヴィオ	137
2	細谷 真大	48
3	島村 拓弥	46

パス成功

1	古賀 太陽	1405
2	白井 永地	1112
3	マテウス サヴィオ	953

タックル

1	ジエゴ	63
2	マテウス サヴィオ	53
3	関根 大輝	51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

25.7%	クロス成功率 1位 ※
58	マテウス サヴィオのPA内進入スルーパス数 1位
82	途中出場選手のシュート数 1位
425	相手陣PA内進入でのパス受け数 1位 ※
933	スローインからの攻撃数 1位

※セットプレーを除く

FC TOKYO
FC東京

▸ 成績

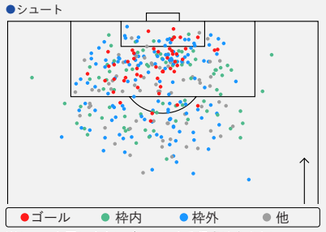
順位	7 位	勝点	54
総合	15勝9分14敗	53得点	51失点
ホーム	7勝6分6敗	25得点	21失点
アウェイ	8勝3分8敗	28得点	30失点

▸ 監督

ピーター クラモフスキー 2023/6/16 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

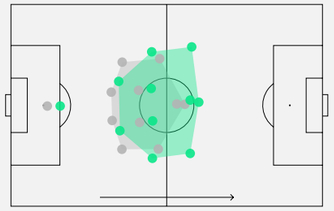
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
8	7	8	10	6	14

得点	53（O.G.2）	7位
シュート	329	17位
シュート枠内率	40.1%	7位

▸ スタイル

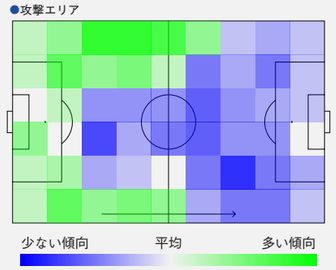
●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	50:43	15位
ボール保持率	48.5%	13位
走行距離	114.14km	7位
スプリント	129	4位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



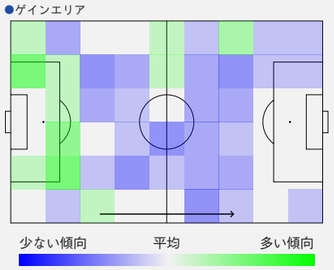
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
57.0%	32.7%	10.3%

	総数		成功率	
クロス	525	13位	23.4%	9位
スルーパス	538	5位	45.4%	15位
ドリブル	427	11位	50.4%	9位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
57.8%	35.1%	7.2%

失点	51	10位
セーブ	131	2位
セーブ率	72.0%	4位
タックル奪取	379	15位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	児玉 剛	1	46	0
13	波多野 豪	13	1040	0
41	野澤 大志ブランドン	27	2331	0
2	中村 帆高	19	984	0
3	森重 真人	23	1735	0
4	木本 恭生	18	1357	1
5	長友 佑都	29	1616	2
30	岡 哲平	19	1493	2
32	土肥 幹太	16	1230	0
43	徳元 悠平	11	495	1
44	エンリケ トレヴィザン	17	1479	1
49	バングーナガンデ 佳史扶	17	1462	2
99	白井 康介	23	1480	1
7	松木 玖生	18	1255	2
8	高 宇洋	35	2880	3
10	東 慶悟	14	707	1
17	寺山 翼	2	48	0
22	遠藤 渓太	27	1513	5
23	佐藤 龍之介	3	47	0
33	俵積田 晃太	33	1698	2
37	小泉 慶	34	2515	1
38	安斎 颯馬	31	2074	4
40	原川 力	25	659	1
70	ジャジャ シルバ	17	264	0
71	荒木 遼太郎	29	1944	7
9	ディエゴ オリヴェイラ	32	2104	6
11	小柏 剛	11	310	2
14	山下 敬大	6	66	0
28	野澤 零温	14	127	1
39	仲川 輝人	34	2323	6
98	エヴェルトン ガウディーノ	5	194	0

平均年齢	27.0	カード	54	5

10代	20代	30代	40代
1人	21人	9人	0人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	荒木 遼太郎	7（37）
2	ディエゴオリヴェイラ	6（42）
2	仲川 輝人	6（27）

アシスト

1	松木 玖生	4
1	荒木 遼太郎	4
3	徳元 悠平	3

ラストパス

1	荒木 遼太郎	33
2	松木 玖生	16
2	仲川 輝人	16

ドリブル

1	俵積田 晃太	132
2	遠藤 渓太	46
3	荒木 遼太郎	37

パス成功

1	高 宇洋	1503
2	小泉 慶	1254
3	エンリケトレヴィザン	734

タックル

1	高 宇洋	77
2	エンリケトレヴィザン	53
3	小泉 慶	51

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

15.5%	シュート決定率 1位
32	俵積田 晃太のドリブルシュート数 1位
85.8%	GKのフィード成功率 1位
98	MTでの被タックル保持数 1位
53.2%	ATでのこぼれ球奪取率 3位

TOKYO VERDY
東京ヴェルディ

▸ 成績

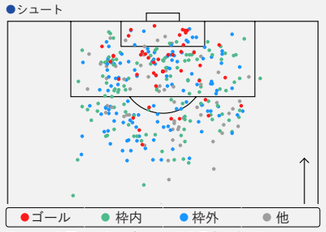
順位	6 位	勝点	56
総合	14勝14分10敗	51得点	51失点
ホーム	6勝8分5敗	29得点	27失点
アウェイ	8勝6分5敗	22得点	24失点

▸ 監督

城福 浩 2022/6/13 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

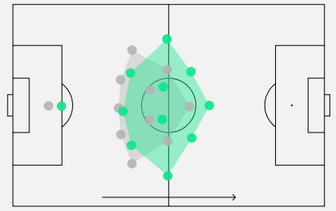
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
6	5	8	9	6	17

得点	51（O.G.3）	9位
シュート	342	15位
シュート枠内率	47.1%	1位

▸ スタイル

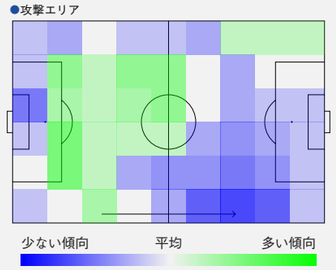
●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	53:28	7位
ボール保持率	45.9%	16位
走行距離	116.00km	2位
スプリント	122	10位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



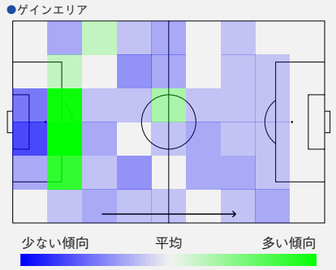
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.9%	34.9%	12.3%

	総数		成功率	
クロス	454	20位	24.0%	5位
スルーパス	460	10位	50.2%	8位
ドリブル	368	18位	45.9%	18位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
57.8%	35.5%	6.7%

失点	51	10位
セーブ	87	18位
セーブ率	63.0%	17位
タックル奪取	431	5位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	マテウス	38	3420	0
2	深澤 大輝	13	764	0
3	谷口 栄斗	29	2408	5
4	林 尚輝	29	2310	0
5	平 智広	1	1	0
6	宮原 和也	30	2423	0
13	山越 康平	4	206	0
15	千田 海人	27	2158	0
25	山田 裕翔	3	66	0
26	袴田 裕太郎	6	286	0
7	森田 晃樹	33	2581	1
8	齋藤功佑	38	2467	1
10	見木 友哉	37	2485	4
14	チアゴ アウベス	10	210	1
17	稲見 哲行	23	1308	0
18	山田 楓喜	21	1197	5
22	翁長 聖	37	2671	4
23	綱島 悠斗	30	1801	2
28	食野 壮磨	7	80	0
33	松橋 優安	30	735	1
40	新井 悠太	3	60	0
47	松村 優太	12	386	0
9	染野 唯月	36	2600	6
11	山見 大登	34	1509	7
19	河村 慶人	2	35	0
20	木村 勇大	36	2764	10
27	山田 剛綺	24	616	1

平均年齢	25.9	カード	50	2

10代	20代	30代	40代
0人	23人	4人	0人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	木村 勇大	10（47）
2	山見 大登	7（47）
3	染野 唯月	6（49）

アシスト

1	山見 大登	5
1	齋藤 功佑	5
3	森田 晃樹	3

ラストパス

1	山見 大登	29
2	翁長 聖	25
3	見木 友哉	24

ドリブル

1	山見 大登	74
2	木村 勇大	70
3	染野 唯月	41

パス成功

1	森田 晃樹	1188
2	谷口 栄斗	1140
3	齋藤 功佑	931

タックル

1	見木 友哉	78
2	綱島 悠斗	65
3	森田 晃樹	59

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

28	期限付き移籍加入中の選手による得点数 1位
8	後半アディショナルタイムの得点数 1位
3	山田 楓喜のFKによる得点数 1位
47.1%	シュート枠内率 1位
7	スルーパスによるアシスト数 1位タイ

FC MACHIDA ZELVIA

FC町田ゼルビア

▸ 成績

順位	3 位	勝点	66

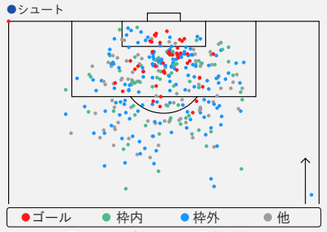
総合	19勝9分10敗	54得点	34失点
ホーム	9勝4分6敗	30得点	19失点
アウェイ	10勝5分4敗	24得点	15失点

▸ 監督

黒田 剛　2022/10/24 ～

▸ ゴール

●シュート



●ゴール ●枠内 ●枠外 ●他

※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

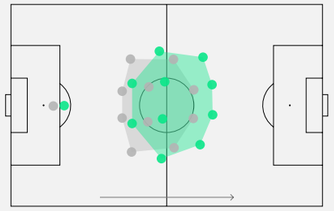
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
9	9	4	11	11	10

得点	54（O.G.5）	6位
シュート	350	14位
シュート枠内率	33.4%	20位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時 ● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	48:38	19位
ボール保持率	44.8%	18位
走行距離	115.72km	3位
スプリント	127	5位

▸ 出場選手

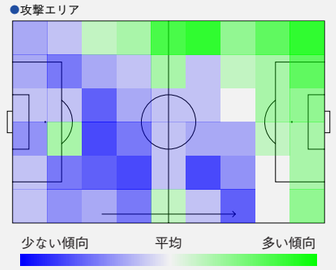
		出場	出場時間	得点
1	谷 晃生	37	3311	0
42	福井 光輝	2	106	0
2	奥山 政幸	4	43	0
3	昌子 源	33	2661	1
5	ドレシェヴィッチ	31	2726	3
6	鈴木 準弥	24	1434	1
14	チャン ミンギュ	16	1439	0
19	中山 雄太	6	332	1
25	杉岡 大暉	12	882	0
26	林 幸多郎	34	2854	0
33	望月 ヘンリー海輝	26	1665	0
8	仙頭 啓矢	35	2180	1
16	宇野 禅斗	4	251	0
18	下田 北斗	30	1580	5
23	白崎 凌兵	14	1164	1
37	芦部 晃生	1	12	0
39	バスケス バイロン	13	708	0
41	安井 拓也	8	71	0
45	柴戸 海	22	1448	1
99	髙橋 大悟	2	106	0
7	相馬 勇紀	11	753	1
7	平河 悠	18	1563	2
9	藤尾 翔太	31	2156	9
10	ナ サンホ	24	1312	3
11	エリキ	26	884	3
15	ミッチェル デューク	33	816	4
19	沼田 駿也	1	1	0
22	藤本 一輝	36	1829	3
30	中島 裕希	6	207	1
47	荒木 駿太	23	776	1
49	桑山 侃士	3	60	0
90	オ セフン	33	2241	8

平均年齢	27.0	カード	57	2

10代	20代	30代	40代
0人	24人	7人	1人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



少ない傾向　平均　多い傾向

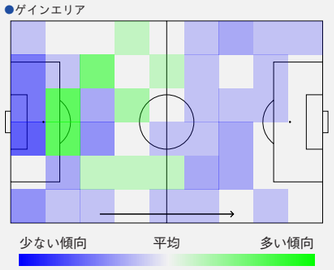
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
46.4%	36.1%	17.5%

	総数		成功率	
クロス	628	4位	22.0%	15位
スルーパス	399	17位	45.1%	17位
ドリブル	467	4位	56.3%	1位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



少ない傾向　平均　多い傾向

ゲインエリア比率

DT	MT	AT
54.4%	38.4%	7.1%

失点	34	1位
セーブ	94	13位
セーブ率	73.4%	3位
タックル奪取	397	13位

▸ キースタッツ

12	クリーンシートでの勝利試合数 1位
1401	前方へのロングパス数 1位
145	ロングスロー数 1位
52.1%	相手陣での空中戦勝率 1位
56.3%	ドリブル成功率 1位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	藤尾 翔太	9（45）
2	オ セフン	8（38）
3	下田 北斗	5（21）

アシスト

1	平河 悠	5
2	鈴木 準弥	3
2	藤本 一輝	3

ラストパス

1	平河 悠	24
2	下田 北斗	23
3	鈴木 準弥	21

ドリブル

1	平河 悠	93
2	藤本 一輝	90
3	藤尾 翔太	51

パス成功

1	昌子 源	863
2	林 幸多郎	849
3	ドレシェヴィッチ	789

タックル

1	林 幸多郎	61
2	仙頭 啓矢	57
3	ドレシェヴィッチ	53

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

KAWASAKI FRONTALE

川崎フロンターレ

▸ 成績

順位	8 位	勝点	52

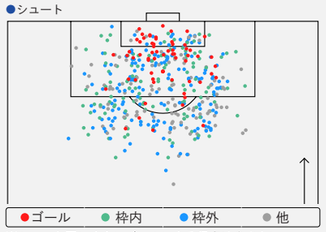
総合	13勝13分12敗	66得点	57失点
ホーム	8勝6分5敗	36得点	24失点
アウェイ	5勝7分7敗	30得点	33失点

▸ 監督

鬼木 達　2016/11/7 ～

▸ ゴール

●シュート



●ゴール ●枠内 ●枠外 ●他

※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

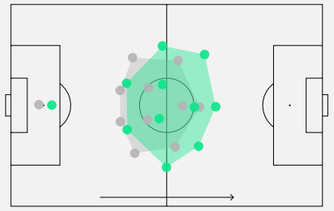
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
8	14	8	11	12	13

得点	66	2位
シュート	444	4位
シュート枠内率	41.2%	5位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時 ● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	53:02	8位
ボール保持率	55.3%	4位
走行距離	109.87km	19位
スプリント	124	8位

▸ 出場選手

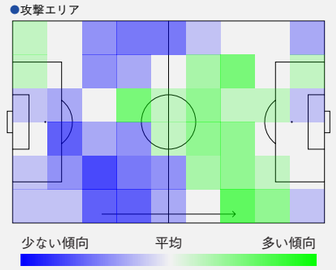
		出場	出場時間	得点
1	チョン ソンリョン	29	2610	0
22	早坂 勇希	1	90	0
99	上福元 直人	8	720	0
2	高井 幸大	24	1872	2
3	大南 拓磨	24	1792	0
4	ジェジエウ	18	955	0
5	佐々木 旭	37	3040	1
7	車屋 紳太郎	3	110	0
13	三浦 颯太	20	1646	1
15	田邊 秀斗	4	70	0
31	ファンウェルメスケルケン際	24	1759	1
35	丸山 祐市	7	510	0
44	セサル アイダル	2	180	0
6	ゼ ヒカルド	11	394	0
8	橘田 健人	35	2961	3
10	大島 僚太	14	681	0
14	脇坂 泰斗	34	2738	6
16	瀬古 樹	25	1258	0
19	河原 創	9	528	0
26	山内 日向汰	16	392	0
28	パトリッキ ヴェロン	2	22	0
30	瀬川 祐輔	28	1166	1
41	家長 昭博	36	2505	7
77	山本 悠樹	20	1163	1
9	エリソン	25	1169	7
11	小林 悠	27	660	4
17	遠野 大弥	35	1734	1
18	バフェティンビ ゴミス	9	430	3
20	山田 新	38	2006	19
23	マルシーニョ	36	2359	9
24	宮城 天	3	59	0
32	神田 奏真	1	1	0

平均年齢	27.8	カード	53	4

10代	20代	30代	40代
1人	20人	11人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



少ない傾向　平均　多い傾向

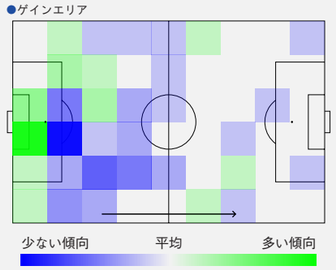
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
58.0%	32.6%	9.4%

	総数		成功率	
クロス	637	3位	22.4%	12位
スルーパス	596	1位	54.0%	2位
ドリブル	439	9位	51.9%	3位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



少ない傾向　平均　多い傾向

ゲインエリア比率

DT	MT	AT
54.8%	36.7%	8.6%

失点	57	14位
セーブ	108	7位
セーブ率	65.5%	14位
タックル奪取	437	3位

▸ キースタッツ

6310	ATでのプレー数 1位
54	PA内での得点数 1位 ※
9943	相手陣でのパス数 1位
88	インターセプト数 1位
14	山田 新のワンタッチシュートの得点数 1位

※PKを除く

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	山田 新	19（56）
2	マルシーニョ	9（54）
3	エリソン	7（43）

アシスト

1	家長 昭博	5
1	脇坂 泰斗	5
3	三浦 颯太	4

ラストパス

1	脇坂 泰斗	42
2	家長 昭博	31
3	マルシーニョ	29

ドリブル

1	マルシーニョ	96
2	佐々木 旭	55
3	山田 新	50

パス成功

1	橘田 健人	1711
2	佐々木 旭	1585
3	家長 昭博	1457

タックル

1	橘田 健人	89
2	佐々木 旭	73
3	ファンウェルメスケルケン際	44

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

YOKOHAMA F·MARINOS
横浜F・マリノス

▸ 成績

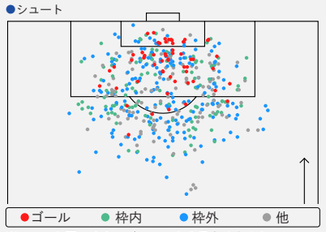
順位	9 位	勝点	52
総合	15勝7分16敗	61得点	62失点
ホーム	6勝5分8敗	28得点	24失点
アウェイ	9勝2分8敗	33得点	38失点

▸ 監督

ハリー キューウェル　2023/12/31 ～ 2024/7/15
ジョン ハッチンソン　2024/7/16 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

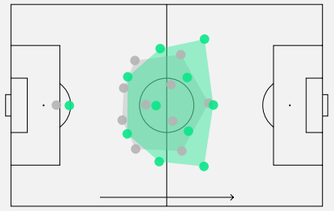
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
6	6	12	13	7	17

得点	61（O.G.1）	3位
シュート	484	2位
シュート枠内率	35.5%	18位

▸ スタイル

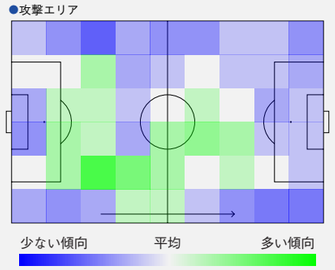
●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	53:36	6位
ボール保持率	57.6%	1位
走行距離	114.70km	5位
スプリント	114	17位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



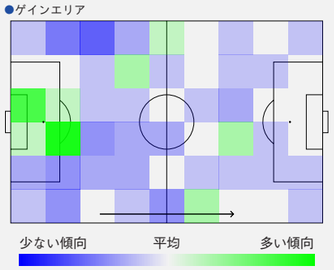
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.1%	39.0%	8.9%

	総数		成功率	
クロス	596	8位	23.7%	7位
スルーパス	566	3位	52.1%	6位
ドリブル	545	1位	48.4%	13位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
54.9%	37.3%	7.8%

失点	62	17位
セーブ	126	4位
セーブ率	67.0%	9位
タックル奪取	339	20位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	ポープ ウィリアム	25	2193	0
21	飯倉 大樹	12	1021	0
31	白坂 楓馬	3	203	0
2	永戸 勝也	19	1573	2
4	畠中 槙之輔	15	1271	1
5	エドゥアルド	28	2257	2
13	小池 龍太	7	398	0
15	上島 拓巳	26	2295	0
16	加藤 蓮	27	1360	1
19	實藤 友紀	1	59	0
24	加藤 聖	13	745	1
26	小池 裕太	1	56	0
27	松原 健	29	2413	1
39	渡邊 泰基	20	1113	0
44	吉田 真那斗	1	16	0
6	渡辺 皓太	30	2319	1
8	喜田 拓也	25	2090	0
17	井上 健太	26	958	1
18	水沼 宏太	18	640	2
20	天野 純	32	1534	5
28	山根 陸	28	1178	0
29	ナム テヒ	11	595	2
35	榊原 彗悟	10	450	1
45	ジャン クルード	3	103	0
47	山村 和也	3	117	0
7	エウベル	27	1806	2
9	西村 拓真	12	627	3
10	アンデルソン ロペス	37	3153	24
11	ヤン マテウス	35	2381	5
14	植中 朝日	34	1216	3
23	宮市 亮	32	1006	2
37	塩貝 健人	7	194	1
38	村上 悠緋	4	173	0

平均年齢 28.2　カード 56 2

10代	20代	30代	40代
1人	19人	13人	0人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	アンデルソン ロペス	24(100)
2	天野 純	5(34)
2	ヤン マテウス	5(65)

アシスト

1	ヤン マテウス	8
2	天野 純	5
3	宮市 亮	3

ラストパス

1	ヤン マテウス	53
2	エウベル	34
3	アンデルソン ロペス	27

ドリブル

1	ヤン マテウス	133
2	宮市 亮	71
3	井上 健太	66

パス成功

1	エドゥアルド	1715
2	上島 拓巳	1661
3	松原 健	1162

タックル

1	上島 拓巳	48
2	ヤン マテウス	37
3	喜田 拓也	35

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

17	スルーパスから3プレー以内の得点数 1位 ※
107	オフサイド奪取数 1位
6	逆転勝利数 1位
5	前半アディショナルタイムの得点数 1位
82	ドリブルによるPA内進入数 1位

※セットプレーを除く

SHONAN BELLMARE
湘南ベルマーレ

▸ 成績

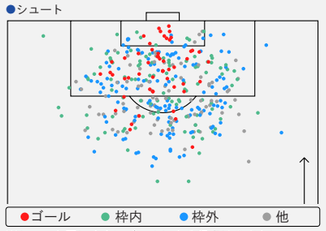
順位	15 位	勝点	45
総合	12勝9分17敗	53得点	58失点
ホーム	5勝4分10敗	27得点	28失点
アウェイ	7勝5分7敗	26得点	30失点

▸ 監督

山口 智　2021/9/1 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

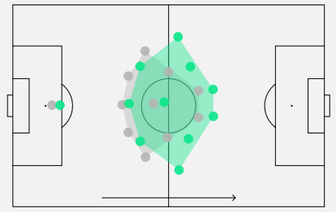
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
6	5	10	10	8	14

得点	53	7位
シュート	383	9位
シュート枠内率	41.0%	6位

▸ スタイル

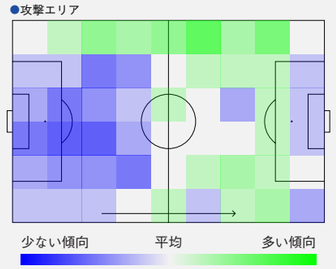
●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	50:04	16位
ボール保持率	51.8%	8位
走行距離	112.22km	14位
スプリント	131	3位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



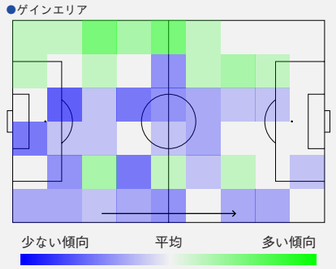
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.8%	36.0%	11.2%

	総数		成功率	
クロス	485	18位	22.5%	11位
スルーパス	494	6位	52.4%	4位
ドリブル	343	19位	50.7%	7位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
54.7%	36.5%	8.8%

失点	58	15位
セーブ	91	16位
セーブ率	61.1%	19位
タックル奪取	486	1位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	ソン ボムグン	20	1758	0
21	馬渡 洋樹	4	309	0
23	富居 大樹	4	360	0
99	上福元 直人	11	990	0
2	杉岡 大暉	15	793	0
3	畑 大雅	30	1989	4
4	舘 幸希	3	265	0
6	岡本 拓也	9	446	0
8	大野 和成	18	1244	0
22	大岩 一貴	22	1820	0
28	吉田 新	6	287	0
32	松村 晟怜	6	276	0
33	髙橋 直也	19	1326	0
47	キム ミンテ	32	2835	0
5	田中 聡	33	2925	5
7	阿部 浩之	25	833	3
10	山田 直輝	10	322	0
13	平岡 大陽	26	1739	1
14	茨田 陽生	29	1243	0
15	奥野 耕平	26	711	0
18	池田 昌生	32	2209	4
30	鈴木 淳之介	23	1651	0
37	鈴木 雄斗	37	3315	2
88	小野瀬 康介	18	1097	1
9	ディサロ 燦シルヴァーノ	3	60	0
11	ルキアン	31	2295	11
16	根本 凌	14	217	1
19	福田 翔生	34	1897	10
27	ルイス フェリッピ	4	40	0
29	鈴木 章斗	34	2015	10
34	渡邊 啓吾	1	8	0
77	石井 久継	14	278	1

平均年齢 27.6　カード 54 4

10代	20代	30代	40代
1人	17人	14人	0人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	ルキアン	11(44)
2	福田 翔生	10(40)
2	鈴木 章斗	10(47)

アシスト

1	畑 大雅	5
2	福田 翔生	4
2	田中 聡	4

ラストパス

1	鈴木 雄斗	33
2	田中 聡	25
3	福田 翔生	23

ドリブル

1	畑 大雅	68
2	鈴木 雄斗	34
3	平岡 大陽	33

パス成功

1	キム ミンテ	1419
2	田中 聡	1311
3	鈴木 雄斗	1276

タックル

1	田中 聡	100
2	鈴木 雄斗	82
3	鈴木 淳之介	61

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

55.6%	MTでのこぼれ球奪取率 1位
15	30m未満のパスからの得点数 1位タイ
72	ATでのタックル奪取数 1位
11	途中出場選手の得点数 2位タイ
15	セットプレーのクロスに対するGKキャッチ数 3位

ALBIREX NIIGATA
アルビレックス新潟

▸ 成績

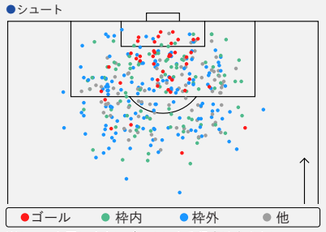
順位	16位	勝点	42
総合	10勝12分16敗	44得点	59失点
ホーム	4勝6分9敗	25得点	33失点
アウェイ	6勝6分7敗	19得点	26失点

▸ 監督

松橋 力蔵　2021/12/6 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

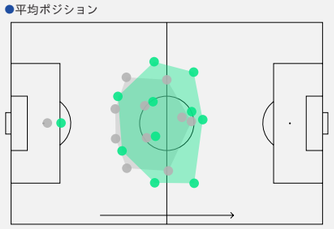
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
3	5	8	10	6	12

得点	44（O.G. 1）	14位
シュート	371	12位
シュート枠内率	37.2%	14位

▸ スタイル

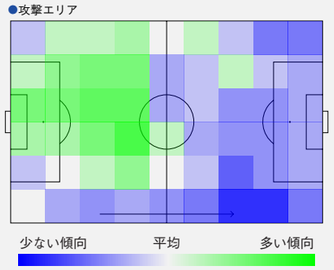
●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	57:16	1位
ボール保持率	56.6%	2位
走行距離	114.78km	4位
スプリント	104	19位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



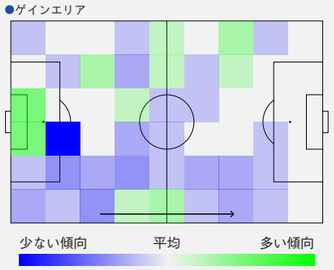
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
58.2%	33.2%	8.5%

	総数		成功率	
クロス	540	9位	24.8%	3位
スルーパス	484	8位	47.5%	14位
ドリブル	458	5位	45.6%	19位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
54.3%	37.4%	8.3%

失点	59	16位
セーブ	99	11位
セーブ率	62.7%	18位
タックル奪取	360	18位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	小島 亨介	33	2970	0
21	阿部 航斗	5	450	0
2	新井 直人	3	181	1
3	トーマス デン	30	2284	0
5	舞行龍ジェームズ	32	2847	1
18	早川 史哉	16	1015	2
26	遠藤 凌	7	452	1
31	堀米 悠斗	20	1393	0
32	長谷川 巧	6	156	0
35	千葉 和彦	8	582	1
42	橋本 健人	9	609	0
45	稲村 隼翔	12	572	0
6	秋山 裕紀	36	3068	2
8	宮本 英治	23	1724	1
14	長谷川 元希	33	1673	1
17	ダニーロ ゴメス	18	763	0
19	星 雄次	11	714	0
20	島田 譲	19	1259	0
22	松田 詠太郎	23	1197	1
25	藤原 奏哉	37	3323	5
30	奥村 仁	16	730	1
33	高木 善朗	20	832	1
40	石山 青空	2	22	0
7	谷口 海斗	34	2023	10
9	鈴木 孝司	18	1117	2
11	太田 修介	17	737	2
16	小見 洋太	29	1852	2
27	長倉 幹樹	30	1882	5
99	小野 裕二	24	1136	4

平均年齢 27.8　カード 41 1

10代	20代	30代	40代
1人	19人	9人	0人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	谷口 海斗	10（49）
2	長倉 幹樹	5（46）
2	藤原 奏哉	5（16）

アシスト

1	小見 洋太	4
1	舞行龍ジェームズ	4
3	高木 善朗	3

ラストパス

1	長谷川 元希	30
1	秋山 裕紀	30
3	長倉 幹樹	21

ドリブル

1	ダニーロ ゴメス	79
2	松田 詠太郎	63
3	長倉 幹樹	49

パス成功

1	秋山 裕紀	2799
2	舞行龍ジェームズ	2082
3	トーマス デン	1650

タックル

1	藤原 奏哉	81
2	秋山 裕紀	49
3	宮本 英治	44

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

22280	パス数 1位 ※
31	藤原 奏哉の相手クロスのブロック数 1位
56.0%	頭でのシュート枠内率 1位
176	15m未満のゴールキック数 1位
73.5%	MTでのタックル奪取率 1位

※セットプレーを除く

JÚBILO IWATA
ジュビロ磐田

▸ 成績

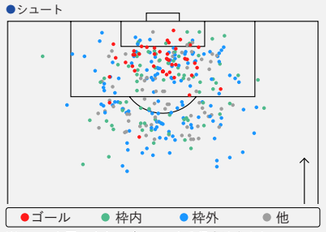
順位	18位	勝点	38
総合	10勝8分20敗	47得点	68失点
ホーム	6勝4分9敗	26得点	29失点
アウェイ	4勝4分11敗	21得点	39失点

▸ 監督

横内 昭展　2022/12/25 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

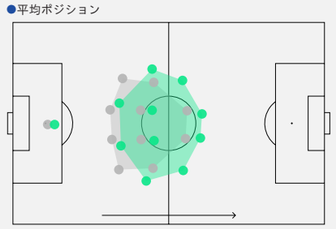
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
4	7	2	8	9	17

得点	47（O.G. 1）	13位
シュート	321	19位
シュート枠内率	38.6%	10位

▸ スタイル

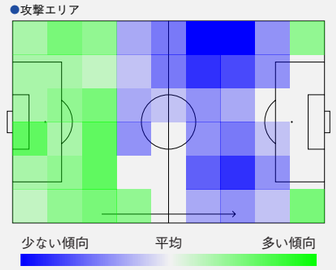
●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	50:45	14位
ボール保持率	43.2%	19位
走行距離	110.64km	17位
スプリント	96	20位

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



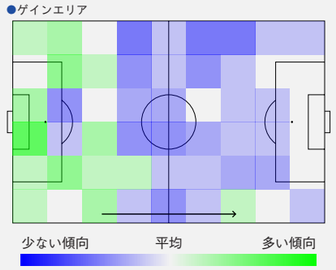
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.8%	33.3%	13.8%

	総数		成功率	
クロス	618	5位	23.9%	6位
スルーパス	333	19位	53.8%	3位
ドリブル	389	17位	47.6%	14位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
60.8%	32.3%	7.0%

失点	68	19位
セーブ	104	10位
セーブ率	60.5%	20位
タックル奪取	413	10位

▸ 出場選手

		出場	出場時間	得点
1	川島 永嗣	32	2844	0
20	坪井 湧也	2	180	0
21	三浦 龍輝	3	270	0
24	杉本 光希	2	126	0
2	川﨑 一輝	1	12	0
3	森岡 陸	9	519	0
4	松原 后	35	3031	3
5	小川 大貴	3	75	0
6	伊藤 槙人	16	1185	0
15	鈴木 海音	24	1742	1
18	高畑 奎汰	12	666	0
26	西久保 駿介	30	971	1
32	ハッサン ヒル	9	786	0
36	リカルド グラッサ	33	2743	1
7	上原 力也	30	2366	1
10	山田 大記	25	821	4
13	藤川 虎太朗	14	342	0
14	松本 昌也	35	2261	0
16	レオ ゴメス	29	2093	1
19	ブルーノ ジョゼ	21	533	0
23	ジョルディ クルークス	14	769	1
25	中村 駿	16	1010	1
28	鹿沼 直生	5	352	0
31	古川 陽介	24	729	2
37	平川 怜	26	1561	0
39	角 昂志郎	1	28	0
40	金子 翔太	14	608	1
41	石田 雅俊	3	84	0
50	植村 洋斗	35	2971	1
77	藤原 健介	9	370	0
11	ジャーメイン 良	32	2812	19
17	ウェベルトン	1	2	0
55	渡邉 りょう	11	639	2
99	マテウス ペイショット	36	2043	7

平均年齢 27.1　カード 53 3

10代	20代	30代	40代
0人	27人	6人	1人

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	ジャーメイン 良	19（60）
2	マテウスペイショット	7（36）
3	山田 大記	4（15）

アシスト

1	上原 力也	5
1	松原 后	5
3	松本 昌也	3

ラストパス

1	上原 力也	28
2	松原 后	24
3	マテウスペイショット	19

ドリブル

1	松原 后	75
2	古川 陽介	72
3	ジャーメイン 良	50

パス成功

1	上原 力也	1020
2	植村 洋斗	920
3	リカルド グラッサ	819

タックル

1	リカルド グラッサ	69
2	植村 洋斗	67
3	レオ ゴメス	59

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

739	自陣PA内でのクリア数 1位
184	シュートに対するブロック数 1位
5	松原 后のクロスによるアシスト数 1位 ※
21.8%	PA内でのシュート決定率 1位 ※
15	PA脇進入から3プレー以内での得点数 1位タイ ※

※セットプレーを除く

NAGOYA GRAMPUS
名古屋グランパス

▸ 成績

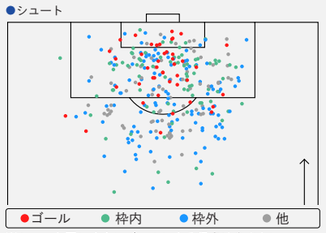
順位	11 位	勝点	50
総合	15勝5分18敗	44得点	47失点
ホーム	8勝3分8敗	20得点	21失点
アウェイ	7勝2分10敗	24得点	26失点

▸ 監督

長谷川 健太　2021/12/9 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

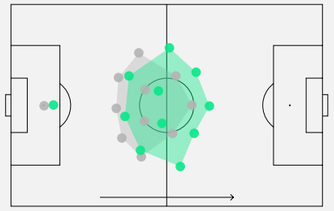
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
8	5	4	7	7	13

得点	44（O.G.1）	14位
シュート	321	19位
シュート枠内率	38.3%	12位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	50:54	12位
ボール保持率	45.4%	17位
走行距離	112.50km	12位
スプリント	121	12位

▸ 出場選手

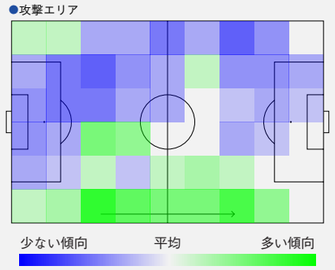
		出場	出場時間	得点
1	ランゲラック	35	3150	0
16	武田 洋平	3	270	0
2	野上 結貴	26	1844	1
3	ハ チャンレ	24	1756	3
4	井上 詩音	2	88	0
20	三國 ケネディエブス	35	3074	2
24	河面 旺成	25	2145	0
55	徳元 悠平	10	715	0
5	吉田 温紀	16	644	1
6	米本 拓司	13	812	0
7	和泉 竜司	30	1993	3
8	椎橋 慧也	34	2462	1
14	森島 司	37	3097	3
15	稲垣 祥	36	3071	6
17	倍井 謙	25	755	2
19	重廣 卓也	4	64	0
25	久保 藤次郎	13	519	1
27	中山 克広	32	1746	0
33	菊地 泰智	12	527	1
34	内田 宅哉	29	1883	0
41	小野 雅史	5	150	0
66	山中 亮輔	21	921	1
9	酒井 宣福	3	51	0
10	パトリック	33	1155	5
11	山岸 祐也	23	1486	2
18	永井 謙佑	34	2156	6
22	相馬 勇紀	1	78	1
28	榊原 杏太	7	120	0
77	キャスパー ユンカー	19	755	4

平均年齢 29.2　カード 57 5

10代	20代	30代	40代
0人	15人	14人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



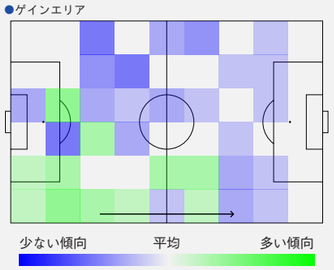
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.1%	35.3%	12.6%

	総数		成功率	
クロス	529	12位	22.3%	13位
スルーパス	401	16位	48.4%	12位
ドリブル	267	20位	51.7%	4位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
56.1%	37.0%	6.9%

失点	47	8位
セーブ	92	15位
セーブ率	66.2%	12位
タックル奪取	419	7位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	永井 謙佑	6（40）
1	稲垣 祥	6（35）
3	パトリック	5（18）

アシスト

1	森島 司	4
2	菊地 泰智	3
2	永井 謙佑	3

ラストパス

1	森島 司	41
2	永井 謙佑	22
3	和泉 竜司	15

ドリブル

1	中山 克広	51
2	倍井 謙	48
3	和泉 竜司	30

パス成功

1	三國 ケネディエブス	1223
2	稲垣 祥	1149
3	森島 司	1012

タックル

1	稲垣 祥	103
2	椎橋 慧也	60
3	三國 ケネディエブス	58

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

6.1%	PA外からのシュート決定率 1位※
56.3%	相手陣PA内での空中戦勝率 2位
11	CK5プレー以内での得点数 2位タイ
95.2%	ATでのスローイン成功率 1位
122	30m以上のゴールキック成功数 2位

※セットプレーを除く

KYOTO SANGA F.C.
京都サンガF.C.

▸ 成績

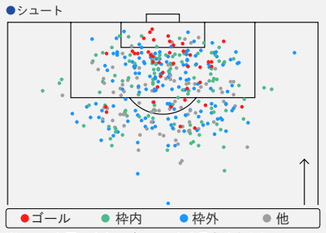
順位	14 位	勝点	47
総合	12勝11分15敗	43得点	55失点
ホーム	4勝7分8敗	23得点	31失点
アウェイ	8勝4分7敗	20得点	24失点

▸ 監督

曺 貴裁　2020/12/9 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

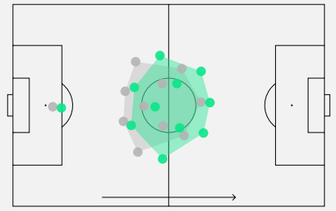
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
2	11	5	12	5	8

得点	43（O.G.2）	16位
シュート	391	8位
シュート枠内率	39.1%	9位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	46:49	20位
ボール保持率	46.9%	15位
走行距離	112.48km	13位
スプリント	137	1位

▸ 出場選手

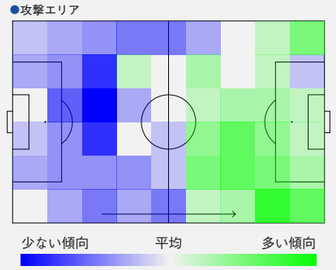
		出場	出場時間	得点
26	太田 岳志	8	661	0
94	ク ソンユン	32	2755	0
2	福田 心之助	34	2850	2
3	麻田 将吾	17	1519	0
4	松田 佳大	6	209	0
5	アピアタウィア 久	22	1447	0
6	三竿 雄斗	15	1019	1
24	宮本 優太	33	2213	1
28	鈴木 冬一	15	499	0
50	鈴木 義宜	25	2126	0
96	ルーカス オリヴェイラ	5	26	0
7	川崎 颯太	30	2538	3
8	塚川 孝輝	3	78	0
10	福岡 慎平	25	1308	0
16	武田 将平	12	890	0
17	安齋 悠人	8	142	1
18	松田 天馬	21	1430	2
19	金子 大毅	26	1743	0
25	谷内田 哲平	3	100	0
37	米本 拓司	11	430	0
39	平戸 太貴	26	1921	2
44	佐藤 響	34	2102	1
48	中野 瑠馬	5	56	0
9	マルコ トゥーリオ	29	1961	3
11	山崎 凌吾	12	372	0
13	宮吉 拓実	8	213	1
14	原 大智	37	3212	8
22	一美 和成	12	478	0
23	豊川 雄太	25	1449	4
31	平賀 大空	24	511	1
77	ムリロ コスタ	7	73	0
99	ラファエル エリアス	15	1126	11

平均年齢 27.0　カード 58 3

10代	20代	30代	40代
2人	19人	11人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



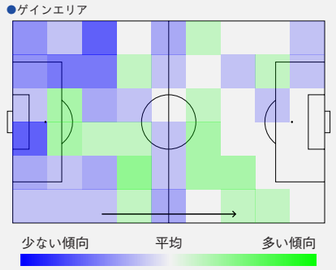
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
53.6%	32.3%	14.1%

	総数		成功率	
クロス	610	6位	20.2%	18位
スルーパス	422	14位	45.3%	16位
ドリブル	422	12位	45.0%	20位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
50.5%	40.0%	9.5%

失点	55	13位
セーブ	110	6位
セーブ率	66.7%	11位
タックル奪取	377	16位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	ラファエル エリアス	11（45）
2	原 大智	8（69）
3	豊川 雄太	4（27）

アシスト

1	平戸 太貴	6
1	マルコ トゥーリオ	6
3	福田 心之助	4

ラストパス

1	マルコ トゥーリオ	36
2	平戸 太貴	32
2	原 大智	32

ドリブル

1	福田 心之助	70
2	佐藤 響	63
3	マルコ トゥーリオ	60

パス成功

1	川崎 颯太	640
2	宮本 優太	615
3	金子 大毅	596

タックル

1	川崎 颯太	68
2	金子 大毅	64
3	佐藤 響	52

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

329	30m以上のゴールキック数 1位
144	クロスブロック数 1位
54.5%	FKでのシュート枠内率 1位
40.4%	ATへのパス比率 1位
120	ATでのタックル数 1位

GAMBA OSAKA
ガンバ大阪

▸ 成績

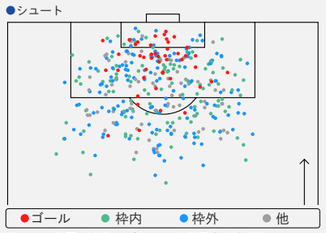
順位	4 位	勝点	66
総合	18勝12分8敗	49得点	35失点
ホーム	11勝4分4敗	30得点	19失点
アウェイ	7勝8分4敗	19得点	16失点

▸ 監督

ダニエル ポヤトス　2022/11/23 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

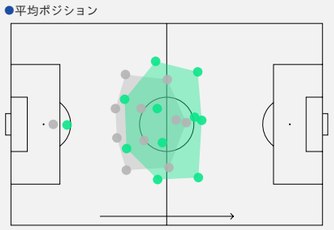
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
6	11	4	3	8	17

得点	49（O.G.1）	10位
シュート	377	11位
シュート枠内率	42.7%	3位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	54:16	4位
ボール保持率	52.1%	7位
走行距離	110.53km	18位
スプリント	111	18位

▸ 出場選手

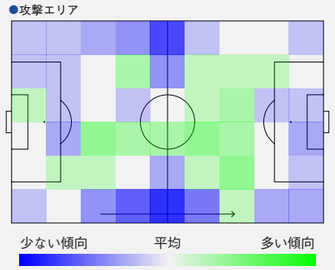
		出場	出場時間	得点
22	一森 純	38	3420	0
2	福岡 将太	36	2903	2
3	半田 陸	24	1887	1
4	黒川 圭介	38	3318	0
5	三浦 弦太	9	809	1
15	岸本 武流	26	973	1
20	中谷 進之介	38	3420	4
24	江川 湧清	3	92	0
33	中野 伸哉	12	226	0
46	松田 陸	13	649	0
6	ネタ ラヴィ	21	779	0
9	山田 康太	23	1408	4
10	倉田 秋	25	774	1
14	福田 湧矢	7	127	1
16	鈴木 徳真	37	3035	0
23	ダワン	37	2653	3
27	美藤 倫	12	302	0
47	ファン アラーノ	20	763	1
48	石毛 秀樹	4	42	0
7	宇佐美 貴史	35	2663	12
8	食野 亮太郎	11	364	0
11	イッサム ジェバリ	18	370	2
13	坂本 一彩	37	2352	10
17	山下 諒也	30	1676	1
40	唐山 翔自	9	168	0
91	林 大地	1	5	0
97	ウェルトン	32	2385	4

平均年齢 27.3　カード 40 2

10代	20代	30代	40代
0人	21人	6人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



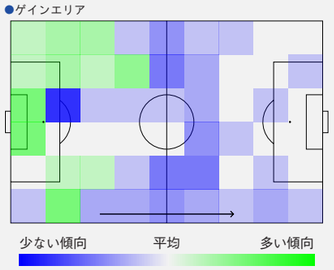
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.5%	36.5%	12.0%

	総数		成功率	
クロス	500	16位	23.4%	10位
スルーパス	473	9位	51.4%	7位
ドリブル	454	6位	51.3%	6位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
59.0%	33.3%	7.7%

失点	35	2位
セーブ	112	5位
セーブ率	76.2%	1位
タックル奪取	415	9位

▸ キースタッツ

75.7%	ATでのタックル奪取率 1位
134	中谷 進之介の自陣PA内でのクリア数 1位
77	ドリブルによる30mライン進入数 1位
77.9%	ATでのパス成功率 1位
76.2%	セーブ率 1位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	宇佐美 貴史	12（87）
2	坂本 一彩	10（43）
3	山田 康太	4（20）

アシスト

1	宇佐美 貴史	8
2	ウェルトン	6
3	山下 諒也	5

ラストパス

1	宇佐美 貴史	51
2	黒川 圭介	29
3	ダワン	24

ドリブル

1	ウェルトン	111
2	宇佐美 貴史	72
3	黒川 圭介	58

パス成功

1	中谷 進之介	1870
2	鈴木 徳真	1528
3	福岡 将太	1505

タックル

1	鈴木 徳真	74
2	ダワン	63
3	黒川 圭介	49

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

CEREZO OSAKA
セレッソ大阪

▸ 成績

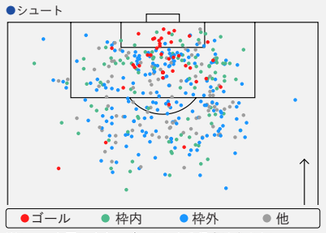
順位	10 位	勝点	52
総合	13勝13分12敗	43得点	48失点
ホーム	8勝6分5敗	24得点	24失点
アウェイ	5勝7分7敗	19得点	24失点

▸ 監督

小菊 昭雄　2021/8/26 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

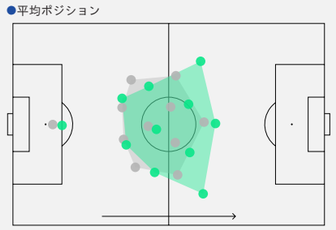
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
2	7	5	8	8	13

得点	43（O.G.1）	16位
シュート	404	7位
シュート枠内率	34.7%	19位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	53:01	9位
ボール保持率	52.6%	6位
走行距離	112.50km	11位
スプリント	115	16位

▸ 出場選手

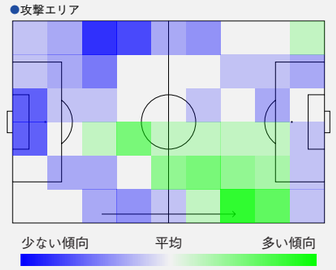
		出場	出場時間	得点
21	キム ジンヒョン	38	3420	0
2	毎熊 晟矢	15	1219	0
3	進藤 亮佑	9	744	0
6	登里 享平	19	1474	0
14	舩木 翔	30	2641	1
16	奥田 勇斗	21	1515	1
23	山下 達也	4	20	0
24	鳥海 晃司	30	2345	0
28	ジャスティン ハブナー	6	83	0
33	西尾 隆矢	29	2537	2
4	平野 佑一	10	178	0
5	喜田 陽	9	567	0
7	上門 知樹	29	731	0
8	香川 真司	10	571	1
10	田中 駿汰	37	3287	3
11	ジョルディ クルークス	9	559	0
13	清武 弘嗣	6	76	0
17	阪田 澪哉	8	440	0
19	為田 大貴	32	1654	2
25	奥埜 博亮	36	2664	0
27	カピシャーバ	27	1622	1
48	柴山 昌也	28	1002	1
77	ルーカス フェルナンデス	35	2787	3
9	レオ セアラ	38	3225	21
29	山崎 凌吾	14	188	1
34	山田 寛人	13	279	0
35	渡邉 りょう	7	73	0
38	北野 颯太	18	810	2
55	ヴィトール ブエノ	21	897	3

平均年齢 28.2　カード 26 2

10代	20代	30代	40代
0人	18人	11人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



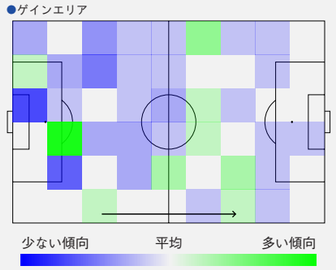
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
56.5%	31.8%	11.7%

	総数		成功率	
クロス	514	15位	21.6%	16位
スルーパス	422	14位	44.1%	18位
ドリブル	504	2位	46.6%	16位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
53.6%	37.8%	8.6%

失点	48	9位
セーブ	106	8位
セーブ率	68.8%	7位
タックル奪取	380	14位

▸ キースタッツ

7	PK獲得数 1位
6	ルーカス フェルナンデスのCKによるアシスト数 1位
56	FK3プレー以内でのシュート数 1位
504	ドリブル数 2位
7	先制された試合での引き分け数 1位 タイ

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	レオ セアラ	21（94）
2	ヴィトール ブエノ	3（23）
2	ルーカス フェルナンデス	3（47）

アシスト

1	ルーカス フェルナンデス	10
2	ヴィトール ブエノ	4
2	カピシャーバ	4

ラストパス

1	ルーカス フェルナンデス	68
2	田中 駿汰	21
3	レオ セアラ	18

ドリブル

1	カピシャーバ	107
2	ルーカス フェルナンデス	96
3	レオ セアラ	66

パス成功

1	田中 駿汰	1685
2	西尾 隆矢	1129
3	鳥海 晃司	1073

タックル

1	田中 駿汰	71
2	奥埜 博亮	69
3	ルーカス フェルナンデス	58

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

VISSEL KOBE
ヴィッセル神戸

▸ 成績

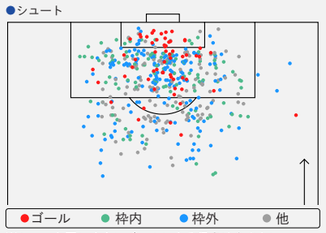
順位	1 位	勝点	72
総合	21勝9分8敗	61得点	36失点
ホーム	10勝4分5敗	30得点	17失点
アウェイ	11勝5分3敗	31得点	19失点

▸ 監督

吉田 孝行　2022/6/29 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

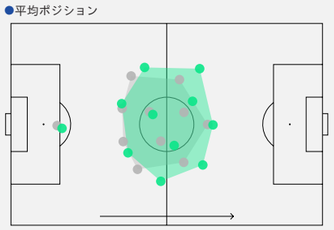
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
9	6	14	10	9	13

得点	61（O.G.1）	3位
シュート	469	3位
シュート枠内率	36.0%	16位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	49:41	18位
ボール保持率	50.2%	9位
走行距離	112.61km	10位
スプリント	126	6位

▸ 出場選手

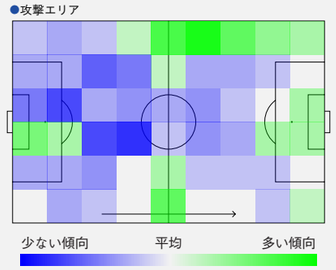
		出場	出場時間	得点
1	前川 黛也	37	3315	0
21	新井 章太	2	101	0
3	マテウス トゥーレル	36	3194	2
4	山川 哲史	37	3267	3
15	本多 勇喜	25	1342	1
19	初瀬 亮	35	2311	0
23	広瀬 陸斗	27	1260	2
24	酒井 高徳	28	2403	1
55	岩波 拓也	2	91	0
81	菊池 流帆	20	474	2
2	飯野 七聖	14	298	0
6	扇原 貴宏	35	2906	1
7	井手口 陽介	28	1814	0
14	汰木 康也	10	328	1
18	井出 遥也	21	1086	1
22	佐々木 大樹	35	1746	5
25	鍬先 祐弥	12	354	0
30	山内 翔	8	187	2
96	山口 蛍	27	2042	3
9	宮代 大聖	32	2085	11
10	大迫 勇也	36	2969	11
11	武藤 嘉紀	37	3088	13
26	ジェアン パトリッキ	29	871	1

平均年齢 29.1　カード 37 3

10代	20代	30代	40代
0人	13人	10人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



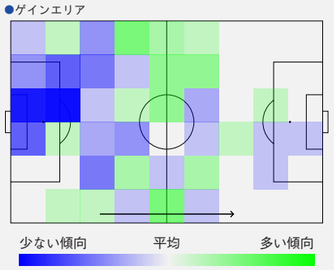
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
50.6%	33.9%	15.5%

	総数		成功率	
クロス	756	2位	24.3%	4位
スルーパス	431	13位	54.1%	1位
ドリブル	453	7位	49.2%	10位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
48.2%	42.3%	9.5%

失点	36	3位
セーブ	85	19位
セーブ率	70.2%	5位
タックル奪取	409	11位

▸ キースタッツ

38.6%	前方へのロングパス数 1位
4	大迫 勇也のスルーパスによるアシスト数 1位
12	CK3プレー以内での得点数 1位
14	31 ～ 45分の得点数 1位
501	相手陣での空中戦勝利数 1位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	武藤 嘉紀	13（88）
2	宮代 大聖	11（41）
2	大迫 勇也	11（85）

アシスト

1	大迫 勇也	9
2	初瀬 亮	7
2	武藤 嘉紀	7

ラストパス

1	初瀬 亮	50
1	大迫 勇也	50
3	武藤 嘉紀	40

ドリブル

1	武藤 嘉紀	94
2	宮代 大聖	59
3	初瀬 亮	45

パス成功

1	マテウス トゥーレル	1263
2	山川 哲史	1217
3	扇原 貴宏	1083

タックル

1	マテウス トゥーレル	77
2	扇原 貴宏	69
3	酒井　高徳	54

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

SANFRECCE HIROSHIMA
サンフレッチェ広島

▸ 成績

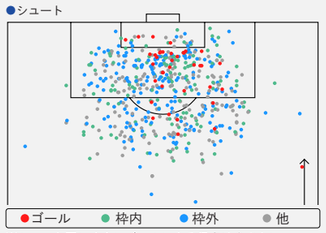
順位	2 位	勝点	68
総合	19勝11分8敗	72得点	43失点
ホーム	12勝3分4敗	43得点	20失点
アウェイ	7勝8分4敗	29得点	23失点

▸ 監督

ミヒャエル スキッベ　2021/11/25 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

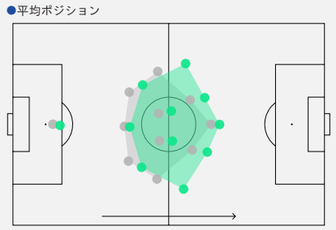
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
8	11	12	15	9	17

得点	72（O.G.1）	1位
シュート	581	1位
シュート枠内率	35.6%	17位

▸ スタイル

●平均ポジション



● 保持時　● 相手保持時

アクチュアルプレーイングタイム	49:53	17位
ボール保持率	49.5%	10位
走行距離	110.75km	16位
スプリント	118	14位

▸ 出場選手

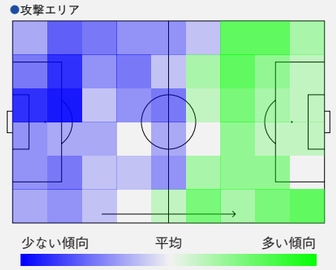
		出場	出場時間	得点
1	大迫 敬介	38	3420	0
3	山﨑 大地	1	1	0
4	荒木 隼人	27	2308	3
13	新井 直人	32	1976	6
15	中野 就斗	38	3348	5
16	志知 孝明	11	287	0
19	佐々木 翔	36	3240	3
27	イヨハ 理 ヘンリー	3	92	0
33	塩谷 司	37	3118	1
5	松本 大弥	3	37	0
6	青山 敏弘	3	10	0
7	野津田 岳人	4	66	0
8	川村 拓夢	14	1178	2
10	マルコス ジュニオール	12	398	2
14	松本 泰志	36	2812	3
17	エゼキエウ	9	108	0
18	柏 好文	6	49	0
24	東 俊希	38	3205	2
25	茶島 雄介	2	13	0
30	トルガイ アルスラン	14	806	8
32	越道 草太	19	597	1
35	中島 洋太朗	12	302	0
40	小原 基樹	8	107	0
66	川辺 駿	13	1004	0
9	ドウグラス ヴィエイラ	20	517	2
11	満田 誠	35	2029	3
20	ピエロス ソティリウ	25	1185	8
36	井上 愛簾	4	41	0
51	加藤 陸次樹	37	3080	9
77	大橋 祐紀	22	1880	11
99	ゴンサロ パシエンシア	8	368	2

平均年齢 28.1　カード 37 1

10代	20代	30代	40代
2人	17人	12人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



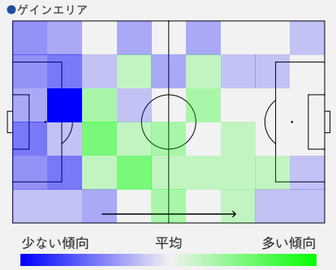
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
50.9%	36.2%	13.0%

	総数		成功率	
クロス	765	1位	25.0%	2位
スルーパス	549	4位	49.0%	10位
ドリブル	392	16位	51.5%	5位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
49.8%	40.8%	9.4%

失点	43	6位
セーブ	79	20位
セーブ率	64.8%	15位
タックル奪取	436	4位

▸ キースタッツ

871	相手陣PA内でのプレー数 1位
21	クロスでのアシスト数 1位
60.9%	自陣での空中戦勝率 1位
19	先制した試合での勝利数 1位
11	PA外からの得点数 1位 ※

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	大橋 祐紀	11（53）
2	加藤 陸次樹	9（90）
3	トルガイ アルスラン	8（23）

アシスト

1	東 俊希	8
2	加藤 陸次樹	6
3	新井 直人	5

ラストパス

1	満田 誠	53
1	東 俊希	53
3	新井 直人	38

ドリブル

1	加藤 陸次樹	81
2	越道 草太	41
3	新井 直人	38

パス成功

1	佐々木 翔	1490
2	塩谷 司	1422
3	中野 就斗	1224

タックル

1	中野 就斗	88
2	佐々木 翔	79
3	塩谷 司	63

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

AVISPA FUKUOKA
アビスパ福岡

▸ 成績

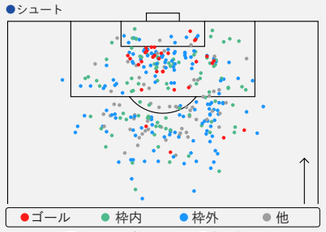
順位	12 位	勝点	50
総合	12勝14分12敗	33得点	38失点
ホーム	7勝5分7敗	17得点	22失点
アウェイ	5勝9分5敗	16得点	16失点

▸ 監督

長谷部 茂利　2019/11/26 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

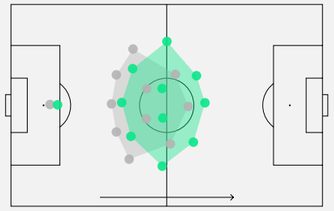
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
2	7	6	6	3	9

得点	33（O.G.1）	20位
シュート	325	18位
シュート枠内率	37.5%	13位

▸ スタイル

●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	51:30	11位
ボール保持率	42.6%	20位
走行距離	111.99km	15位
スプリント	120	13位

▸ 出場選手

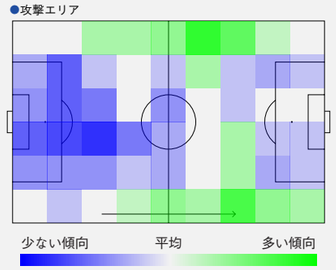
		出場	出場時間	得点
1	永石 拓海	13	1124	0
31	村上 昌謙	26	2296	0
2	湯澤 聖人	15	1035	0
3	奈良 竜樹	11	986	0
4	井上 聖也	25	1476	0
5	宮 大樹	22	1832	1
16	小田 逸稀	28	1634	2
19	亀川 諒史	26	1027	1
29	前嶋 洋太	22	1822	0
33	ドウグラス グローリ	23	1985	0
37	田代 雅也	37	3310	2
40	池田 樹雷人	1	13	0
44	森山 公弥	2	132	0
6	前 寛之	37	3000	1
7	金森 健志	27	865	1
8	紺野 和也	37	2703	6
14	田中 達也	1	60	0
25	北島 祐二	18	402	0
30	重見 柾斗	35	1812	1
35	平塚 悠知	6	101	0
88	松岡 大起	36	2406	2
9	シャハブ ザヘディ	31	1407	9
10	城後 寿	1	5	0
13	ナッシム ベン カリファ	2	67	0
17	ウェリントン	33	1829	3
18	岩崎 悠人	38	2889	1
27	佐藤 凌我	21	1147	2
28	鶴野 怜樹	12	226	0

平均年齢 28.6　カード 67 1

10代	20代	30代	40代
0人	17人	11人	0人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



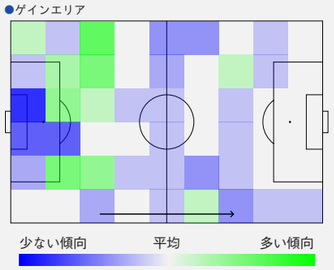
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.3%	31.8%	15.9%

	総数		成功率	
クロス	537	10位	23.5%	8位
スルーパス	303	20位	48.8%	11位
ドリブル	431	10位	46.4%	17位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
56.6%	36.3%	7.1%

失点	38	4位
セーブ	106	8位
セーブ率	73.6%	2位
タックル奪取	420	6位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	シャハブ ザヘディ	9（56）
2	紺野 和也	6（54）
3	ウェリントン	3（36）

アシスト

1	小田 逸稀	3
1	重見 柾斗	3
3	シャハブ ザヘディ	2

ラストパス

1	紺野 和也	43
2	前 寛之	28
3	ウェリントン	20

ドリブル

1	紺野 和也	105
2	岩崎 悠人	93
3	シャハブ ザヘディ	63

パス成功

1	前 寛之	1069
2	田代 雅也	868
3	松岡 大起	635

タックル

1	松岡 大起	87
2	前 寛之	69
3	ドウグラス グローリ	63

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

15.9%	パスのロング比率 2位
213	GKのフィードキック数 1位
140	30m以上のゴールキック成功数 1位
55	空中戦で勝利したシュート数 3位
73.6%	セーブ率 2位

SAGAN TOSU
サガン鳥栖

▸ 成績

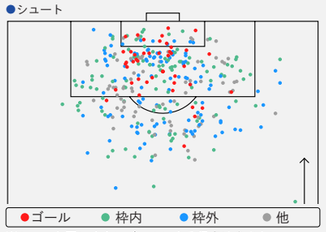
順位	20 位	勝点	35
総合	10勝5分23敗	48得点	68失点
ホーム	6勝3分10敗	27得点	29失点
アウェイ	4勝2分13敗	21得点	39失点

▸ 監督

川井 健太　2021/12/24 ～ 2024/8/8
木谷 公亮　2024/8/9 ～

▸ ゴール

●シュート



※シュート図にオウンゴールによる得点は含まない

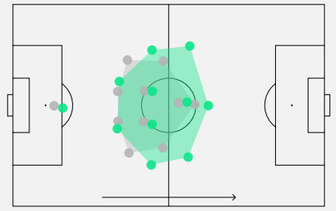
時間帯別得点

1-15	16-30	31-45	46-60	61-75	76-90
7	6	8	12	4	11

得点	48（O.G.2）	12位
シュート	340	16位
シュート枠内率	45.6%	2位

▸ スタイル

●平均ポジション



アクチュアルプレーイングタイム	54:14	5位
ボール保持率	49.0%	11位
走行距離	118.68km	1位
スプリント	126	6位

▸ 出場選手

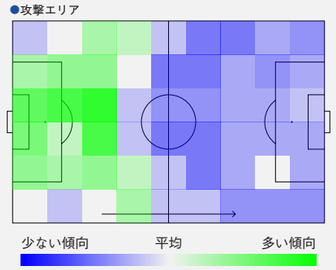
		出場	出場時間	得点
31	岡本 昌弘	1	23	0
71	朴 一圭	38	3397	0
2	山崎 浩介	30	2441	1
3	木村 誠二	26	2016	1
4	今津 佑太	6	426	0
16	上夷 克典	20	969	0
20	キム テヒョン	26	2117	0
28	丸橋 祐介	21	1057	0
29	井上 太聖	1	25	0
34	長澤 シヴァタファリ	2	135	0
36	北島 郁哉	4	90	0
42	原田 亘	32	2762	3
5	河原 創	26	2110	1
6	福田 晃斗	30	2120	3
7	手塚 康平	20	1077	0
8	中原 輝	22	1345	2
14	藤田 直之	12	116	0
18	日野 翔太	14	623	0
19	森谷 賢太郎	2	7	0
21	堀米 勇輝	24	1153	0
23	菊地 泰智	21	1234	0
24	久保 藤次郎	7	459	2
25	渡邉 綾平	4	183	0
27	楢原 慶輝	6	335	0
33	西矢 健人	11	786	0
37	寺山 翼	7	222	1
55	清武 弘嗣	10	224	1
70	ジャジャ シルバ	7	119	0
77	ヴィキンタス スリヴカ	14	896	2
88	長沼 洋一	23	1911	4
9	河田 篤秀	4	60	1
11	ヴィニシウス アラウージョ	19	396	1
13	横山 歩夢	24	1285	5
22	富樫 敬真	37	2447	2
32	堺屋 佳介	16	557	1
41	樺山 諒乃介	3	64	0
47	鈴木 大馳	4	175	1
99	マルセロ ヒアン	30	2169	14

平均年齢 27.1　カード 48 3

10代	20代	30代	40代
3人	24人	10人	1人

▸ 攻撃プレー

●攻撃エリア



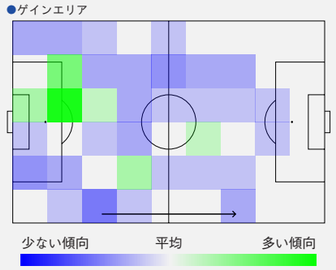
パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.0%	34.5%	11.5%

	総数		成功率	
クロス	515	14位	20.0%	20位
スルーパス	389	18位	41.9%	19位
ドリブル	417	13位	54.4%	2位

▸ 守備プレー

●ゲインエリア



ゲインエリア比率

DT	MT	AT
55.8%	36.3%	7.8%

失点	68	19位
セーブ	138	1位
セーブ率	67.0%	10位
タックル奪取	348	19位

▸ 選手ランキング

ゴール（シュート）

1	マルセロ ヒアン	14（65）
2	横山 歩夢	5（37）
3	長沼 洋一	4（19）

アシスト

1	手塚 康平	4
1	菊地 泰智	4
3	横山 歩夢	3

ラストパス

1	河原 創	23
2	手塚 康平	18
3	菊地 泰智	17

ドリブル

1	横山 歩夢	110
2	長沼 洋一	41
3	マルセロ ヒアン	39

パス成功

1	山崎 浩介	1297
2	キム テヒョン	1275
3	木村 誠二	1106

タックル

1	原田 亘	59
2	富樫 敬真	47
3	福田 晃斗	40

※同数の場合、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

▸ キースタッツ

89	ドリブルシュート数 1位
97	GKの15m未満のフィード数 1位
45.6%	シュート枠内率 2位
13	30m以上のパスからのシュート数 1位
99	自陣PA内での空中戦勝利数 3位

明治安田 J2 LEAGUE

チームスタッツ

TEAM STATS

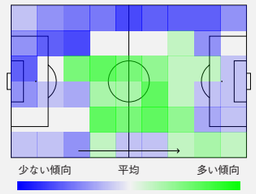
VEGALTA SENDAI ベガルタ仙台

▶ 成績

順位 6 位　勝点 64

18勝10分10敗　50得点　44失点

▶ 攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.0%	35.0%	13.1%

▶ 選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	中島 元彦	13（86）
2	相良 竜之介	9（44）
3	中山 仁斗	6（17）

●アシスト

1	中島 元彦	5
2	オナイウ 情滋	4
2	相良 竜之介	4

●ドリブル

1	相良 竜之介	93
2	オナイウ 情滋	75
3	中島 元彦	65

●タックル

1	松井 蓮之	69
2	小出 悠太	56
3	郷家 友太	44

▶ 出場選手

平均年齢 27.0　カード 45 1

10代	20代	30代	40代
0人	20人	9人	0人

▶ キースタッツ

466	被ファウル数 1位
13	ボールゲインから10秒未満での得点数 1位
40.7%	シュート枠内率 2位

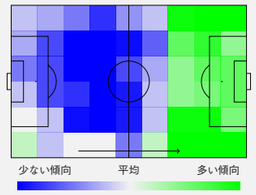
BLAUBLITZ AKITA ブラウブリッツ秋田

▶ 成績

順位 10 位　勝点 54

15勝9分14敗　36得点　35失点

▶ 攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
55.4%	27.8%	16.8%

▶ 選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	小松　蓮	6（45）
1	佐藤 大樹	6（38）
3	青木 翔大	4（21）

●アシスト

1	大石 竜平	3
1	小野原 和哉	3
1	佐藤 大樹	3

●ドリブル

1	佐藤 大樹	73
2	畑　潤基	70
3	梶谷 政仁	54

●タックル

1	諸岡 裕人	73
2	小野原 和哉	49
3	河野 貴志	45

▶ 出場選手

平均年齢 29.1　カード 47 5

10代	20代	30代	40代
0人	16人	12人	1人

▶ キースタッツ

807	相手陣PA内プレー数 1位
78	ロングスロー数 1位
58.4%	自陣での空中戦勝率 1位

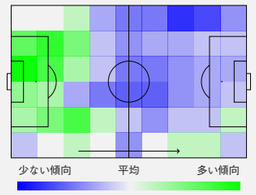
MONTEDIO YAMAGATA モンテディオ山形

▶ 成績

順位 4 位　勝点 66

20勝6分12敗　55得点　36失点

▶ 攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
47.1%	39.8%	13.0%

▶ 選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	高橋 潤哉	11（43）
2	ディサロ 燦シルヴァーノ	8（22）
3	土居 聖真	5（18）

●アシスト

1	髙江 麗央	7
1	イサカ ゼイン	7
3	高橋 潤哉	4

●ドリブル

1	イサカ ゼイン	136
2	氣田 亮真	75
3	坂本 亘基	40

●タックル

1	イサカ ゼイン	58
2	西村 慧祐	51
3	小西 雄大	41

▶ 出場選手

平均年齢 26.4　カード 35 1

10代	20代	30代	40代
0人	24人	7人	0人

▶ キースタッツ

72	ドリブルによるPA内進入数 1位
494	前方へのロングパス成功数 1位
40.8%	CKからのクロス成功率 1位

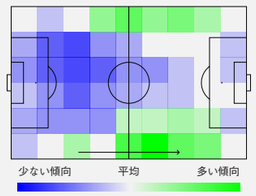
IWAKI FC いわきFC

▶ 成績

順位 9 位　勝点 54

15勝9分14敗　53得点　41失点

▶ 攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
55.9%	30.4%	13.7%

▶ 選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	谷村 海那	18（86）
2	有馬 幸太郎	10（51）
3	山口 大輝	7（38）

●アシスト

1	山下 優人	9
2	谷村 海那	6
3	加瀬 直輝	5

●ドリブル

1	加瀬 直輝	57
2	五十嵐 聖己	48
3	谷村 海那	41

●タックル

1	大西 悠介	87
2	五十嵐 聖己	62
3	石田 侑資	61

▶ 出場選手

平均年齢 23.8　カード 38 1

10代	20代	30代	40代
0人	30人	1人	0人

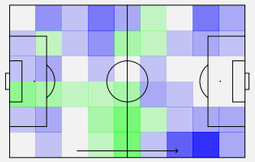
▶ キースタッツ

22.5%	頭でのシュート決定率 1位
76	ATでのタックル奪取数 1位
96	オフサイド奪取数 1位

FC MITO HOLLYHOCK 水戸ホーリーホック

▶成績
順位 15位 勝点 44
11勝11分16敗 39得点 51失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.6%	34.5%	13.9%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	久保 征一郎	5（33）
1	落合 陸	5（34）
3	中島 大嘉	4（9）

●アシスト

1	新井 晴樹	4
2	寺沼 星文	3
2	草野 侑己	3

●ドリブル

1	新井 晴樹	103
2	甲田 英將	30
3	野瀬 龍世	27

●タックル

1	新井 晴樹	63
2	山田 奈央	55
3	大崎 航詩	49

▶出場選手

平均年齢 25.0 カード 48 1

10代	20代	30代	40代
2人	33人	2人	1人

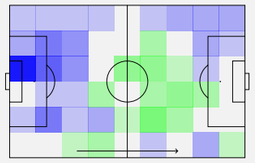
▶キースタッツ

22.9%	得点のPA外比率 1位 ※
16	ポストバーに当たったシュート数 1位
36.6%	FKからのクロス成功率 2位

TOCHIGI SC 栃木SC

▶成績
順位 18位 勝点 34
7勝13分18敗 33得点 57失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.5%	34.2%	14.2%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	南野 遥海	7（55）
2	宮崎 鴻	6（37）
3	大島 康樹	5（31）

●アシスト

1	奥田 晃也	4
2	川名 連介	2
2	森 俊貴	2

●ドリブル

1	森 俊貴	58
2	南野 遥海	41
3	大森 渚生	38

●タックル

1	ラファエル	55
2	石田 凌太郎	49
3	神戸 康輔	48

▶出場選手

平均年齢 25.9 カード 48 0

10代	20代	30代	40代
1人	24人	5人	1人

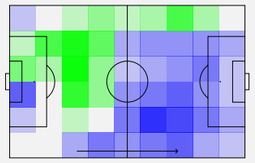
▶キースタッツ

166	ゴールキックでのロングパス成功数 1位
71	PA内からのシュートに対するセーブ数 2位
483	相手陣での空中戦勝利数 3位

THESPA GUNMA ザスパ群馬

▶成績
順位 20位 勝点 18
3勝9分26敗 24得点 62失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.0%	34.5%	11.5%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	佐川 洸介	3（24）
1	高澤 優也	3（14）
1	川本 梨誉	3（24）

●アシスト

1	佐川 洸介	2
1	高橋 勇利也	2
1	川本 梨誉	2

●ドリブル

1	川上 エドオジョン智慧	67
2	山中 惇希	58
3	川本 梨誉	47

●タックル

1	天笠 泰輝	90
2	川上 エドオジョン智慧	36
3	中塩 大貴	35

▶出場選手

平均年齢 26.7 カード 52 2

10代	20代	30代	40代
0人	23人	7人	0人

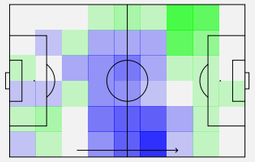
▶キースタッツ

27	左サイドでのFKの左足クロス数 1位
57.1%	FKシュート枠内率 1位タイ
185	シュートブロック数 2位

JEF UNITED CHIBA ジェフユナイテッド千葉

▶成績
順位 7位 勝点 61
19勝4分15敗 67得点 48失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.1%	34.6%	14.3%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	小森 飛絢	23（90）
2	ドゥドゥ	6（27）
2	田口 泰士	6（44）

●アシスト

1	田中 和樹	9
2	岡庭 愁人	5
2	日高 大	5

●ドリブル

1	田中 和樹	64
2	椿 直起	51
2	岡庭 愁人	51

●タックル

1	高橋 壱晟	60
2	日高 大	54
2	田口 泰士	54

▶出場選手

平均年齢 27.3 カード 57 2

10代	20代	30代	40代
0人	20人	11人	0人

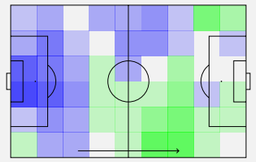
▶キースタッツ

21	クロスでのアシスト数 1位
60.3%	ドリブル成功率 1位
70.4%	ATでのタックル奪取率 1位

YOKOHAMA FC 横浜FC

▶成績
順位 2位 勝点 76
22勝10分6敗 60得点 27失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.4%	33.3%	12.3%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	伊藤 翔	7（27）
1	小川 慶治朗	7（31）
1	カプリーニ	7（82）

●アシスト

1	福森 晃斗	14
2	山根 永遠	7
3	中野 嘉大	5

●ドリブル

1	中野 嘉大	87
2	カプリーニ	73
3	山根 永遠	62

●タックル

1	ユーリ ララ	105
2	ンドカ ボニフェイス	69
3	福森 晃斗	66

▶出場選手

平均年齢 28.2 カード 49 1

10代	20代	30代	40代
0人	16人	8人	0人

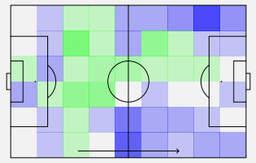
▶キースタッツ

5497	ATでのプレー数 1位
12	CK3プレー以内での得点数 1位
73	インターセプト数 1位

VENTFORET KOFU ヴァンフォーレ甲府

▶成績
順位 14位 勝点 45
12勝9分17敗 54得点 57失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.7%	35.5%	12.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	アダイウトン	14（75）
2	ピーター ウタカ	8（48）
3	三平 和司	6（32）

●アシスト

1	佐藤 和弘	4
1	鳥海 芳樹	4
3	中山 陸	3

●ドリブル

1	アダイウトン	97
2	飯田 貴敬	54
2	鳥海 芳樹	54

●タックル

1	関口 正大	65
2	林田 滉也	49
3	荒木 翔	46

▶出場選手

平均年齢 28.3 カード 49 4

10代	20代	30代	40代
0人	23人	8人	2人

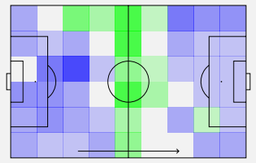
▶キースタッツ

90	ドリブルからのシュート数 1位
10	PA外得点数1位 ※
11	1～15分の得点数 2位タイ

SHIMIZU S-PULSE 清水エスパルス

▶成績
順位 1位 勝点 82
26勝4分8敗 68得点 38失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
55.6%	34.6%	9.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	北川 航也	12（61）
2	ルーカス ブラガ	8（31）
3	矢島 慎也	6（23）

●アシスト

1	乾 貴士	7
2	北川 航也	6
2	山原 怜音	6

●ドリブル

1	山原 怜音	82
2	カルリーニョス ジュニオ	72
3	松崎 快	60

●タックル

1	中村 亮太朗	57
2	宮本 航汰	41
2	住吉 ジェラニレショーン	41

▶出場選手

平均年齢 26.8 カード 39 1

10代	20代	30代	40代
2人	18人	9人	0人

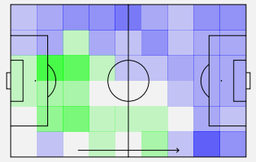
▶キースタッツ

43.4%	シュート枠内率 1位
19	76～90分の得点数 1位
22	スルーパスから3プレー以内での得点数 1位

FUJIEDA MYFC 藤枝MYFC

▶成績
順位 13位 勝点 46
14勝4分20敗 38得点 57失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
49.8%	37.4%	12.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	矢村 健	16（111）
2	アンデルソン	2（9）
2	中川 風希	2（15）

●アシスト

1	梶川 諒太	5
2	西矢 健人	4
3	小笠原 佳祐	3

●ドリブル

1	シマブク カズヨシ	85
2	榎本 啓吾	60
3	矢村 健	49

●タックル

1	新井 泰貴	53
2	西矢 健人	49
3	矢村 健	46

▶出場選手

平均年齢 25.6 カード 49 4

10代	20代	30代	40代
2人	27人	5人	0人

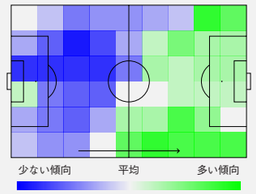
▶キースタッツ

28.6%	FKシュート決定率 1位
177	GKのフィードスロー数 1位
323	キャリー数 3位

FAGIANO OKAYAMA ファジアーノ岡山

▶成績
順位 5 位　勝点 65
17勝14分7敗 48得点 29失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
56.1%	32.4%	11.5%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	岩渕 弘人	13（66）
2	ルカオ	5（36）
2	田上 大地	5（21）

●アシスト

1	田中 雄大	4
1	グレイソン	4
1	ルカオ	4

●ドリブル

1	末吉 塁	108
2	木村 太哉	56
3	ルカオ	48

●タックル

1	藤田 息吹	89
2	末吉 塁	62
3	木村 太哉	55

▶出場選手

平均年齢 27.0　カード 37 3

10代	20代	30代	40代
2人	20人	8人	0人

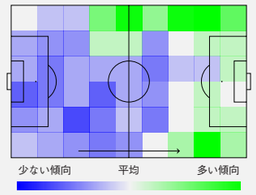
▶キースタッツ

77.7%	セーブ率 1位
14	CK5プレー以内での得点数 1位タイ
16	FKでのラストパス数 1位

RENOFA YAMAGUCHI FC レノファ山口FC

▶成績
順位 11 位　勝点 53
15勝8分15敗 43得点 44失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
53.3%	31.6%	15.1%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	河野 孝汰	8（52）
2	若月 大和	7（36）
3	小林 成豪	3（12）

●アシスト

1	新保 海鈴	8
2	若月 大和	4
2	ヘナン	4

●ドリブル

1	新保 海鈴	110
2	野寄 和哉	40
2	若月 大和	40

●タックル

1	相田 勇樹	76
2	吉岡 雅和	54
3	野寄 和哉	46

▶出場選手

平均年齢 27.9　カード 43 3

10代	20代	30代	40代
1人	19人	11人	1人

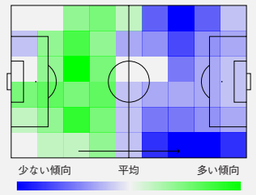
▶キースタッツ

51.5%	スルーパス成功率 1位
172	セットプレー５プレー以内でのシュート数 2位
15.1%	パスのロング比率 2位

TOKUSHIMA VORTIS 徳島ヴォルティス

▶成績
順位 8 位　勝点 55
16勝7分15敗 42得点 44失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
50.8%	37.8%	11.4%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	渡 大生	9（37）
2	ブラウン ノア賢信	7（49）
3	坪井 清志郎	5（26）

●アシスト

1	ブラウン ノア 賢信	4
2	橋本 健人	3
2	エウシーニョ	3

●ドリブル

1	髙田 颯也	110
2	ブラウン ノア 賢信	51
3	橋本 健人	50

●タックル

1	森 昂大	63
2	児玉 駿斗	50
3	杉本 太郎	47

▶出場選手

平均年齢 27.0　カード 59 2

10代	20代	30代	40代
0人	24人	10人	0人

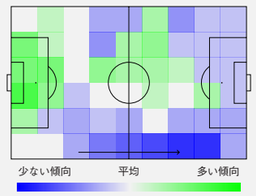
▶キースタッツ

6	PK得点数 1位
63.1%	自陣からのパス比率 1位
77	ドリブルによる30mライン進入数 1位タイ

EHIME FC 愛媛FC

▶成績
順位 17 位　勝点 40
10勝10分18敗 41得点 69失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
56.9%	31.1%	12.0%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	石浦 大雅	6（28）
2	窪田 稜	4（40）
3	ベン ダンカン	3（22）

●アシスト

1	谷本 駿介	4
1	窪田 稜	4
1	松田 力	4

●ドリブル

1	窪田 稜	102
2	山口 竜弥	48
3	石浦 大雅	27

●タックル

1	深澤 佑太	62
2	尾崎 優成	55
3	森下 怜哉	46

▶出場選手

平均年齢 25.8　カード 52 3

10代	20代	30代	40代
3人	21人	5人	1人

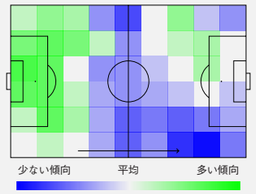
▶キースタッツ

219	シュートブロック数 1位
56.9%	パスのショート比率 2位
15.1%	左足シュート決定率 3位

V-VAREN NAGASAKI V・ファーレン長崎

▶成績
順位 3 位　勝点 75
21勝12分5敗 74得点 39失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
47.9%	39.3%	12.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	マテウス ジェズス	18（89）
2	エジガル ジュニオ	15（60）
3	マルコスギリェルメ	12（43）

●アシスト

1	マルコス ギリェルメ	8
2	笠柳 翼	7
2	加藤 大	7

●ドリブル

1	笠柳 翼	110
2	松澤 海斗	97
3	マテウス ジェズス	61

●タックル

1	増山 朝陽	58
2	秋野 央樹	57
3	マテウス ジェズス	46

▶出場選手

平均年齢 26.9　カード 37 1

10代	20代	30代	40代
0人	21人	10人	0人

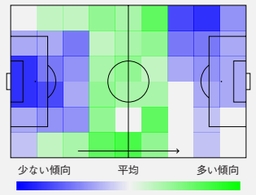
▶キースタッツ

20	途中出場選手の得点数 1位
13	1～15分の得点数 1位
289	ドリブル成功数 1位

ROASSO KUMAMOTO ロアッソ熊本

▶成績
順位 12 位　勝点 46
13勝7分18敗 53得点 62失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
62.9%	29.3%	7.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	石川 大地	10（62）
2	神代 慶人	5（17）
2	大﨑 舜	5（23）

●アシスト

1	大本 祐槻	7
2	上村 周平	5
3	唐山 翔自	3

●ドリブル

1	松岡 瑠夢	108
2	大本 祐槻	105
3	古長谷 千博	68

●タックル

1	大西 凌太郎	100
2	江崎 巧朗	99
3	豊田 歩	91

▶出場選手

平均年齢 26.2　カード 38 2

10代	20代	30代	40代
2人	19人	4人	0人

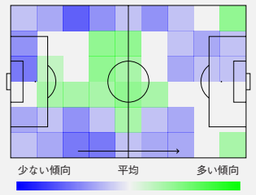
▶キースタッツ

12	PA脇進入から３プレー以内での得点数 1位 ※
54.7%	1試合平均のボール保持率 1位
462	タックル奪取数 1位

OITA TRINITA 大分トリニータ

▶成績
順位 16 位　勝点 43
10勝13分15敗 33得点 47失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.5%	35.3%	12.3%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	長沢 駿	6（23）
2	渡邉 新太	5（31）
3	保田 堅心	4（27）

●アシスト

1	野村 直輝	4
2	宇津元 伸弥	3
3	薩川 淳貴	2

●ドリブル

1	宇津元 伸弥	47
2	野村 直輝	39
3	保田 堅心	34

●タックル

1	安藤 智哉	70
2	弓場 将輝	65
3	ペレイラ	49

▶出場選手

平均年齢 26.2　カード 53 6

10代	20代	30代	40代
3人	22人	9人	0人

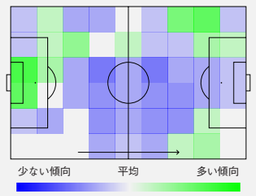
▶キースタッツ

29.6%	右PA脇からのクロス成功率 1位
73	スルーパスによるPA内進入数 2位
68.2%	ATでのタックル奪取率 2位

KAGOSHIMA UNITED FC 鹿児島ユナイテッドFC

▶成績
順位 19 位　勝点 30
7勝9分22敗 35得点 59失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.1%	34.6%	14.3%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	藤本 憲明	5（25）
2	鈴木 翔大	4（23）
3	有田 光希	3（8）

●アシスト

1	鈴木 翔大	6
2	藤村 慶太	4
3	米澤 令衣	2

●ドリブル

1	福田 望久斗	89
2	圓道 将良	34
2	外山 凌	34

●タックル

1	山口 卓己	69
2	藤村 慶太	58
3	戸根 一誓	56

▶出場選手

平均年齢 28.4　カード 52 4

10代	20代	30代	40代
0人	19人	15人	0人

▶キースタッツ

7	後半アディショナルタイムの得点数 1位タイ
25.4%	途中出場選手のシュート決定率 1位
1458	前方へのロングパス数 1位

※:セットプレーを除く　※※:選手ランキングで同数の場合は、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

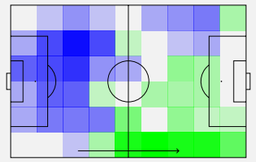
チームスタッツ

TEAM STATS

VANRAURE HACHINOHE ヴァンラーレ八戸

▶成績
順位 11位　勝点 52
13勝13分12敗 44得点 42失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.9%	32.3%	14.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	佐々木　快	10（42）
2	永田 一真	8（34）
3	妹尾 直哉	4（28）

●アシスト

1	安藤 由翔	5
1	音泉 翔眞	5
3	佐々木　快	3

●ドリブル

1	音泉 翔眞	121
2	永田 一真	45
3	佐藤　碧	41

●タックル

1	前澤 甲気	106
2	音泉 翔眞	85
3	山内　陸	79

▶出場選手

平均年齢 | 28.0　カード 47 0

10代	20代	30代	40代
0人	19人	8人	0人

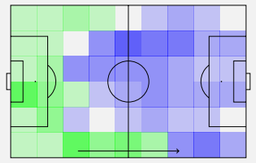
▶キースタッツ

92.7%	得点のPA内比率 1位 ※
40.0%	CKからのクロス成功率 1位
872	自陣での空中戦数 1位

IWATE GRULLA MORIOKA いわて グルージャ盛岡

▶成績
順位 20位　勝点 22
5勝7分26敗 27得点 80失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.0%	35.4%	13.6%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	オタボー ケネス	5（31）
2	河辺 駿太郎	4（10）
3	都倉　賢	2（17）

●アシスト

1	加々美 登生	4
2	河辺 駿太郎	3
3	オタボー ケネス	2

●ドリブル

1	オタボー ケネス	74
2	桐　蒼太	51
3	加々美 登生	47

●タックル

1	オタボー ケネス	60
2	深川 大輔	47
3	安達 秀都	45

▶出場選手

平均年齢 | 26.9　カード 74 4

10代	20代	30代	40代
0人	27人	7人	1人

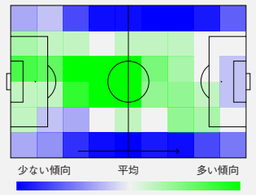
▶キースタッツ

47.9%	ワンタッチシュートの枠内率1位 ※
174	シュートブロック数 1位
65	クロスに対するGKキャッチ数2位 ※

FUKUSHIMA UNITED FC 福島ユナイテッドFC

▶成績
順位 5位　勝点 59
18勝5分15敗 64得点 49失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
63.9%	28.7%	7.4%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	塩浜　遼	16（56）
2	大関 友翔	8（37）
2	森　晃太	8（77）

●アシスト

1	森　晃太	7
2	塩浜　遼	6
2	大関 友翔	6

●ドリブル

1	森　晃太	175
2	塩浜　遼	100
3	大関 友翔	59

●タックル

1	鈴　直樹	68
2	上畑 佑平士	64
3	大関 友翔	44

▶出場選手

平均年齢 | 26.3　カード 35 2

10代	20代	30代	40代
1人	20人	5人	0人

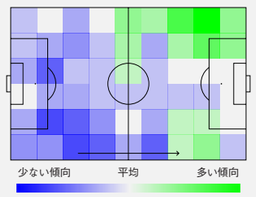
▶キースタッツ

11358	ショートパス成功数 1位
115	ドリブルからのシュート数 1位
17	ポストバーに当たったシュート数 1位

OMIYA ARDIJA 大宮アルディージャ

▶成績
順位 1位　勝点 85
25勝10分3敗 72得点 32失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
55.4%	32.3%	12.3%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	杉本 健勇	10（58）
2	アルトゥール シルバ	7（64）
3	藤井 一志	6（25）

●アシスト

1	下口 稚葉	7
1	杉本 健勇	7
3	泉　柊椰	6

●ドリブル

1	泉　柊椰	140
2	大澤 朋也	30
3	藤井 一志	29

●タックル

1	小島 幹敏	60
2	アルトゥール シルバ	55
3	石川 俊輝	54

▶出場選手

平均年齢 | 26.7　カード 44 2

10代	20代	30代	40代
2人	20人	9人	0人

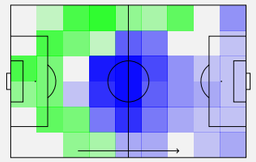
▶キースタッツ

5288	ATでのプレー数 1位
18.0%	シュート決定率 1位
17	クロスでのアシスト数 1位

Y.S.C.C. YOKOHAMA　Y.S.C.C.横浜

成績
順位 19位　勝点 32
7勝11分20敗　34得点　64失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
59.2%	29.2%	11.6%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	奥村 晃司	8（43）
2	菊谷 篤資	6（36）
3	脇坂 崚平	4（21）

●アシスト

1	ピーダーセン 世穏	3
1	中里 崇宏	3
1	奥村 晃司	3

●ドリブル

1	菊谷 篤資	49
2	藤島 樹騎也	46
3	橋本 陸斗	43

●タックル

1	奥村 晃司	73
2	冨士田 康人	63
3	柳　雄太郎	56

出場選手

平均年齢 26.4　カード 64 3

10代	20代	30代	40代
2人	22人	7人	0人

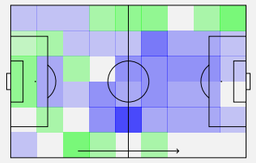
キースタッツ

151	クロスブロック数 1位
58	GKのフィードキック成功数 2位
51.3%	頭でのシュート枠内率 3位

S.C. SAGAMIHARA　SC相模原

成績
順位 9位　勝点 53
14勝11分13敗　41得点　41失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.5%	34.5%	13.1%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	伊藤 恵亮	5（18）
2	福井 和樹	4（21）
3	棚橋 尭士	3（10）

●アシスト

1	高野　遼	8
2	田中　陸	4
2	橋本　陸	4

●ドリブル

1	高野　遼	50
2	伊藤 恵亮	43
3	橋本　陸	38

●タックル

1	加藤 大育	55
2	田中　陸	45
3	西山 拓実	41

出場選手

平均年齢 27.3　カード 64 5

10代	20代	30代	40代
0人	24人	8人	0人

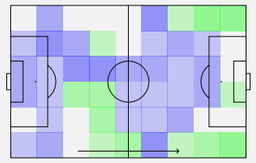
キースタッツ

35	スローイン5プレー以内でのシュート数 2位
54	ロングスロー数 2位
15	クロスでのアシスト数 3位タイ

MATSUMOTO YAMAGA F.C.　松本山雅FC

成績
順位 4位　勝点 60
16勝12分10敗　61得点　45失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
52.3%	35.6%	12.1%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	浅川 隼人	13（51）
2	村越 凱光	8（39）
3	安藤　翼	6（43）

●アシスト

1	菊井 悠介	10
2	山本 龍平	5
2	山本 康裕	5

●ドリブル

1	安藤　翼	49
2	菊井 悠介	38
3	村越 凱光	37

●タックル

1	山本 康裕	43
2	宮部 大己	40
3	安永 玲央	37

出場選手

平均年齢 26.2　カード 48 1

10代	20代	30代	40代
0人	23人	5人	0人

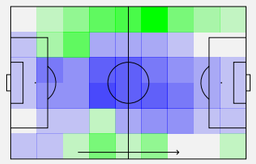
キースタッツ

14	1～15分の得点数 1位
67	CKからのクロス成功数 1位
61.3%	自陣での空中戦勝率 1位

AC NAGANO PARCEIRO　AC長野パルセイロ

成績
順位 18位　勝点 37
7勝16分15敗　44得点　57失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
60.2%	28.8%	10.9%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	浮田 健誠	13（46）
2	忽那 喬司	6（33）
3	黒石 貴哉	4（19）

●アシスト

1	近藤 貴司	6
2	西村 恭史	5
3	三田 尚希	4

●ドリブル

1	近藤 貴司	58
2	田中 康介	54
3	安藤 一哉	46

●タックル

1	西村 恭史	64
2	池ヶ谷 颯斗	63
3	杉井　颯	52

出場選手

平均年齢 26.8　カード 49 2

10代	20代	30代	40代
1人	24人	8人	0人

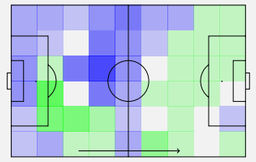
キースタッツ

75	ドリブルによるPA脇進入数 1位
156	クロスから3プレー以内でのシュート数 2位 ※
199	MTでのタックル奪取数 2位

KATALLER TOYAMA　カターレ富山

成績
順位 3位　勝点 64
16勝16分6敗　54得点　36失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
46.9%	38.9%	14.2%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	吉平　翼	9（41）
1	碓井 聖生	9（59）
3	安光 将作	8（24）

●アシスト

1	安光 将作	6
2	西矢 慎平	4
2	吉平　翼	4

●ドリブル

1	松岡 大智	87
2	髙橋 馨希	66
3	吉平　翼	46

●タックル

1	吉平　翼	59
2	安光 将作	51
3	河井 陽介	39

出場選手

平均年齢 26.0　カード 45 1

10代	20代	30代	40代
0人	24人	6人	0人

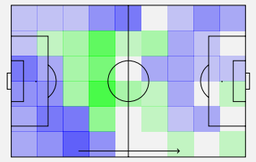
キースタッツ

494	前方へのロングパス成功数 1位
53.5%	スルーパス成功率 1位
159	クロス成功数 1位 ※

ZWEIGEN KANAZAWA　ツエーゲン金沢

成績
順位 12位　勝点 50
13勝11分14敗　50得点　52失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.3%	34.0%	11.7%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	梶浦 勇輝	8（34）
2	杉浦 恭平	5（19）
2	マリソン	5（23）

●アシスト

1	梶浦 勇輝	6
2	大山 啓輔	5
2	小島 雅也	5

●ドリブル

1	梶浦 勇輝	87
2	西谷 和希	72
3	大谷 駿斗	61

●タックル

1	西谷 優希	93
2	梶浦 勇輝	61
3	山本 義道	46

出場選手

平均年齢 28.0　カード 50 2

10代	20代	30代	40代
0人	19人	9人	0人

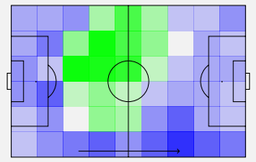
キースタッツ

138	セットプレーによるPA内進入数 1位 ※
63.4%	シュートのワンタッチ比率 1位 ※
66.4%	タックル奪取率 2位

AZUL CLARO NUMAZU　アスルクラロ沼津

成績
順位 10位　勝点 52
15勝7分16敗　53得点　46失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
49.4%	39.0%	11.7%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	和田　育	11（41）
2	津久井 匠海	9（34）
3	持井 響太	5（32）

●アシスト

1	安在 達弥	7
2	鈴木 拳士郎	6
3	齋藤　学	5

●ドリブル

1	津久井 匠海	109
2	森　夢真	74
3	齋藤　学	58

●タックル

1	濱　託巳	81
2	菅井 拓也	65
3	津久井 匠海	63

出場選手

平均年齢 27.5　カード 52 1

10代	20代	30代	40代
0人	22人	5人	1人

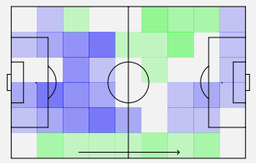
キースタッツ

57.5%	1試合平均ボール保持率 1位
24	76～90分の得点数 1位
27.8%	途中出場選手のシュート決定率 1位

FC GIFU　FC岐阜

成績
順位 8位　勝点 53
15勝8分15敗　64得点　56失点

攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
56.6%	31.6%	11.8%

選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	藤岡 浩介	19（66）
2	田口 裕也	11（38）
3	荒木 大吾	6（44）

●アシスト

1	石田 崚真	7
2	北　龍磨	6
3	松本 歩夢	4

●ドリブル

1	荒木 大吾	96
2	西谷　亮	32
3	藤岡 浩介	25

●タックル

1	甲斐 健太郎	85
2	荒木 大吾	50
3	萩野 滉大	42

出場選手

平均年齢 27.0　カード 64 0

10代	20代	30代	40代
0人	23人	10人	0人

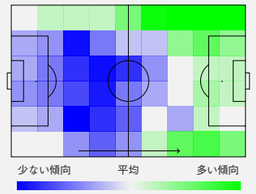
キースタッツ

6933	ワンタッチパス数 1位
17.9%	シュート決定率 2位
70.7%	ATでのタックル奪取率 1位

FC OSAKA FC大阪

▶成績
順位 6 位　勝点 58
15勝13分10敗 43得点 31失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
53.9%	29.5%	16.5%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	古川 大悟	7（42）
2	秋山 拓也	4（17）
3	田中 直基	3（13）

●アシスト

1	増田 隼司	6
2	久保 吏久斗	3
2	舘野 俊祐	3

●ドリブル

1	久保 吏久斗	91
2	利根 瑠偉	36
3	夏川 大和	34

●タックル

1	舘野 俊祐	87
2	武井 成豪	72
3	美馬 和也	68

▶出場選手

平均年齢 26.2　カード 56 2

10代	20代	30代	40代
2人	28人	9人	0人

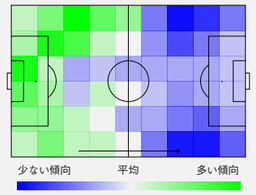
▶キースタッツ

70	ロングスロー数 1位
204	GKのフィードロング数 1位
18	クリーンシート試合数 1位

NARA CLUB 奈良クラブ

▶成績
順位 17 位　勝点 39
7勝18分13敗 43得点 56失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
45.7%	38.4%	15.9%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	岡田 優希	13（60）
2	嫁阪 翔太	6（27）
2	百田 真登	6（27）

●アシスト

1	下川 陽太	7
2	岡田 優希	5
3	嫁阪 翔太	4

●ドリブル

1	岡田 優希	107
2	下川 陽太	83
3	嫁阪 翔太	36

●タックル

1	生駒 稀生	84
2	堀内 颯人	64
3	下川 陽太	51

▶出場選手

平均年齢 26.5　カード 54 2

10代	20代	30代	40代
3人	21人	4人	0人

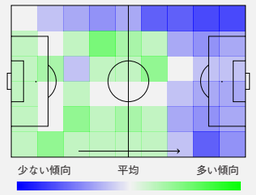
▶キースタッツ

44.4%	シュート枠内率 1位
1348	ロングパス成功数 1位
70	クロスに対するGKキャッチ数 1位

GAINARE TOTTORI ガイナーレ鳥取

▶成績
順位 13 位　勝点 50
14勝8分16敗 49得点 65失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
55.1%	34.1%	10.8%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	松木 駿之介	11（37）
2	田中 翔太	8（30）
3	普光院 誠	5（38）

●アシスト

1	高柳 郁弥	4
1	普光院 誠	4
3	富樫 佑太	3

●ドリブル

1	小澤 秀充	164
2	松木 駿之介	46
3	富樫 佑太	26

●タックル

1	普光院 誠	74
2	小澤 秀充	47
3	丸山 壮大	45

▶出場選手

平均年齢 25.6　カード 49 1

10代	20代	30代	40代
0人	25人	4人	0人

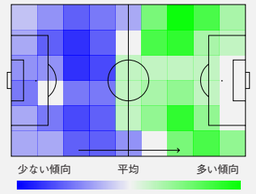
▶キースタッツ

44.3%	シュート枠内率 2位
15	31～45分の得点数 1位
7	スルーパスでのアシスト数 1位タイ

KAMATAMARE SANUKI カマタマーレ讃岐

▶成績
順位 16 位　勝点 43
10勝13分15敗 48得点 52失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
55.9%	31.4%	12.7%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	川西 翔太	5（18）
2	赤星 魁麻	4（31）
2	岩岸 宗志	4（33）

●アシスト

1	吉田 陣平	6
2	前川 大河	4
3	赤星 魁麻	3

●ドリブル

1	吉田 源太郎	195
2	森　勇人	47
3	内田 瑞己	46

●タックル

1	内田 瑞己	80
2	吉田 源太郎	73
3	宗近　慧	59

▶出場選手

平均年齢 25.5　カード 51 0

10代	20代	30代	40代
0人	25人	7人	0人

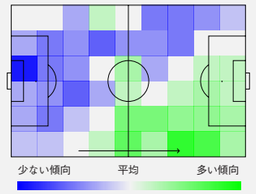
▶キースタッツ

204	ドリブルからのクロス数 1位
69.1%	タックル奪取率 1位
113	オフサイド奪取数 1位

FC IMABARI FC今治

▶成績
順位 2 位　勝点 73
22勝7分9敗 62得点 38失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.0%	33.5%	12.5%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	マルクス ヴィニシウス	19（110）
2	ウェズレイ タンキ	6（20）
2	横山 夢樹	6（34）

●アシスト

1	新井　光	6
2	横山 夢樹	5
3	阪野 豊史	4

●ドリブル

1	マルクス ヴィニシウス	127
2	横山 夢樹	108
3	近藤 高虎	75

●タックル

1	加藤 徹也	99
2	トーマス モスキオン	86
3	マルクス ヴィニシウス	79

▶出場選手

平均年齢 27.1　カード 61 1

10代	20代	30代	40代
2人	19人	10人	0人

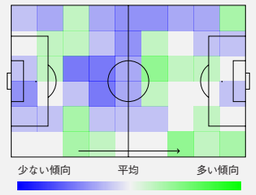
▶キースタッツ

23	セットプレー３プレー以内での得点数 1位
33	スルーパスでのラストパス数 1位
328	空中戦勝利後のボール保持数 1位

GIRAVANZ KITAKYUSHU ギラヴァンツ北九州

▶成績
順位 7 位　勝点 56
15勝11分12敗 41得点 39失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
54.0%	34.6%	11.4%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	永井　龍	14（63）
2	高　昇辰	6（46）
3	藤原 健介	4（38）

●アシスト

1	藤原 健介	5
2	岡野 凜平	4
3	矢田　旭	3

●ドリブル

1	山脇 樺織	82
2	髙橋 隆大	38
3	高　昇辰	32

●タックル

1	高吉 正真	68
2	乾　貴哉	57
3	岡野 凜平	56

▶出場選手

平均年齢 25.5　カード 47 0

10代	20代	30代	40代
0人	22人	6人	0人

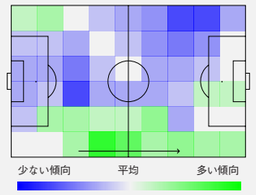
▶キースタッツ

6	CKでのアシスト数 1位タイ
50.9%	相手陣での空中戦勝率 1位
55.7%	MTでのこぼれ球奪取率 2位

TEGEVAJARO MIYAZAKI テゲバジャーロ宮崎

▶成績
順位 15 位　勝点 46
12勝10分16敗 46得点 50失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
51.3%	35.2%	13.5%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	橋本 啓吾	12（55）
2	武　颯	8（26）
3	吉澤　柊	6（23）

●アシスト

1	橋本 啓吾	9
2	阿野 真拓	6
3	井上　怜	4

●ドリブル

1	井上　怜	101
2	阿野 真拓	76
3	楠　大樹	36

●タックル

1	安田 虎士朗	94
2	辻岡 佑真	58
3	黒木 謙吾	47

▶出場選手

平均年齢 25.2　カード 56 1

10代	20代	30代	40代
0人	33人	3人	0人

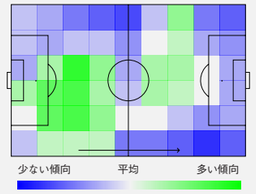
▶キースタッツ

69.5%	DTでのタックル奪取率 1位
13	PA外得点数 1位 ※
60.0%	自陣PA内での空中戦勝率 1位

FC RYUKYU FC琉球

▶成績
順位 14 位　勝点 47
12勝11分15敗 45得点 54失点

▶攻撃プレー



●パス距離別比率

ショート	ミディアム	ロング
61.0%	31.0%	8.0%

▶選手ランキング

●ゴール（シュート）

1	富所　悠	12（50）
2	白井 陽斗	10（36）
3	幸喜 祐心	2（10）

●アシスト

1	上原 牧人	4
2	富所　悠	3
3	吉本　武	2

●ドリブル

1	高安 孝幸	41
2	上原 牧人	36
3	平松 昇	29

●タックル

1	岡澤 昂星	82
2	佐藤 祐太	68
3	鈴木 順也	66

▶出場選手

平均年齢 26.6　カード 52 2

10代	20代	30代	40代
2人	21人	8人	0人

▶キースタッツ

7	PK得点数 1位
6604	DTからのパス数 1位
67.8%	ATへのパス成功率 1位

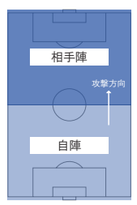
※:セットプレーを除く　※※:選手ランキングで同数の場合は、出場時間が少ない選手を優先的に掲載

GLOSSARY 用語集

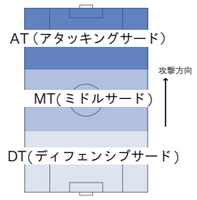
▶ アウトオブプレータイム	ファウルやボールアウトから再開プレーまでの、実際にプレーされていない時間。
▶ アクチュアルプレーイングタイム	試合開始から終了までに実際にプレーされた時間。ファウルやボールアウトから再開プレーまでの時間は含まない。
▶ アシスト	ゴールを決めた味方選手へのパス。ボールコントロール後に味方選手に譲った場合やシュートミス以外のシュートなどパス以外の攻撃的なプレーも含む。ゴール選手がボールをドリブルなどで運んだ場合もその距離を問わずアシストとする。パスの後にDFなどに当たって軌道が変わっている場合はアシストとならない。
▶ インターセプト	相手のパスに対して能動的に動いてそのパスをカットし、自ら保持もしくは味方につないだプレー。インターセプトを試みたがマイボールとならなかった場合はカウントされない。
▶ 裏抜け	守備側の選手の位置から最終ラインを設定し、最終ラインを一瞬でも超えた時速14km以上のランを裏抜けとする。ペナルティーエリアに選手が密集するようなセットプレー攻撃時は対象外。オフザボールに限定しており、自分でボールを運びながらラインを越えようとする場合も含まない。
▶ カウンタープレス	ボールロスト直後に開始したプレスをカウンタープレスとする。相手ゴールキーパーがキャッチした場合やセットプレーなどで密集した場合でのロストは対象外。
▶ カウンタープレッシング	カウンタープレスから始まり、連続したプレスをかけた場合をカウンタープレッシングとする。相手ゴールキーパーがキャッチした場合やセットプレーなどで密集した場合でのロストは対象外。
▶ 加速、急加速	1秒後の時速との差分から加速度を算出し、2.5m/ss以上を加速、4m/ss以上を急加速とする。
▶ キャリー	ボールをコントロールした地点から次のプレー地点までの直線距離で20m以上ボールと共に移動したプレー。相手に奪われても、奪われた位置までが直線距離で20m以上ならカウント。ドリブルは含まない。
▶ 空中戦	浮いているボールに対し、両チームの選手が空中で競り合うプレー。
▶ 空中戦勝利	空中戦で先にボールに触った選手を勝利とし、触れなかった選手を負けとする。
▶ クロス	相手陣ペナルティーエリア内の味方選手にシュートを打たせる狙いがあり、オープンプレーにおいてキックによりサイドから送られたパス。
▶ ゲイン(ボールゲイン)	インプレーにおいて相手チームの攻撃から自チームの攻撃に切り替わった最初のプレー。タックルなど意図的なプレーもあれば相手のパス失敗を拾うプレーもある。
▶ ゲインエリア	ピッチを6x9に分割し、エリアごとにゲイン比率を算出後、各エリアのリーグ平均との差分から色付けした図。
▶ 攻撃エリア	ピッチを6x9に分割し、エリアごとに守備アクションを除いたプレー比率を算出後、各エリアのリーグ平均との差分から色付けした図。
▶ ゴール期待値	過去のゴールに関連するデータ(ゴールまでの距離、シュート角度、シュート部位や空中戦の有無、シュートパターン、直前のプレーの種類、守備側の選手位置など)から算出したシュート1本ごとの成功確率。
▶ こぼれ球奪取	味方もしくは相手のクリア、ブロック、ポスト・バーのはね返りなどのボールに触れたプレー。
▶ 最終ライン	相手選手の配置において、相手側ゴールから数えて2番目の選手位置の横幅一直線を最終ラインとする。
▶ 試合時間	前半開始から前半終了までと、後半開始から後半終了までの時間の合計。アクチュアルプレーイングタイムとアウトオブプレータイムの合計と等しい。
▶ シュート	攻撃側選手による直接得点することを目的とした意図的なプレー。ただし、ボールがゴールから大きく外れた場合や、プレーしたボールが一定の距離以下にいる守備側チームの選手に防がれた場合を除く。
▶ シュートパターン	シュート前のプレー情報から以下のとおりに分類。ただし複数のプレー情報を含む場合は、セットプレーを最優先として、以下の順で優先度の高いプレー情報のみでカウント。 1. セットプレー … セットプレーから10秒以内にシュートした場合 2. ドリブル …シュートした選手がシュート前にドリブルを行った場合 3. クロス …シュート前のプレーがクロスだった場合 4. パス…シュート前のプレーがパスだった場合
▶ 出場選手	出場選手は該当チームにおいて1試合以上出場した場合のみ掲載される。シーズン中に移籍した場合、それぞれのチームでの出場試合データを掲載。
▶ スプリント回数	時速25km以上で1秒以上走った回数。
▶ スルーパス	味方が相手最終ラインの裏に走り込むスペースを狙ったパス。パスの高さは一度も身長を超えないことが条件。守備側の選手の間を通したものだけでなく、サイドのスペースを狙ったものも含む。セットプレーは含まず、キックによるパスに限定。
▶ セーブ	相手の枠内シュートをゴールキーパーが防いだプレー。
▶ セーブ率	セーブ数÷(セーブ数+失点)の数値。
▶ セットプレー	フリーキック、コーナーキック、ゴールキック、ペナルティーキック、スローイン、キックオフによるプレー。

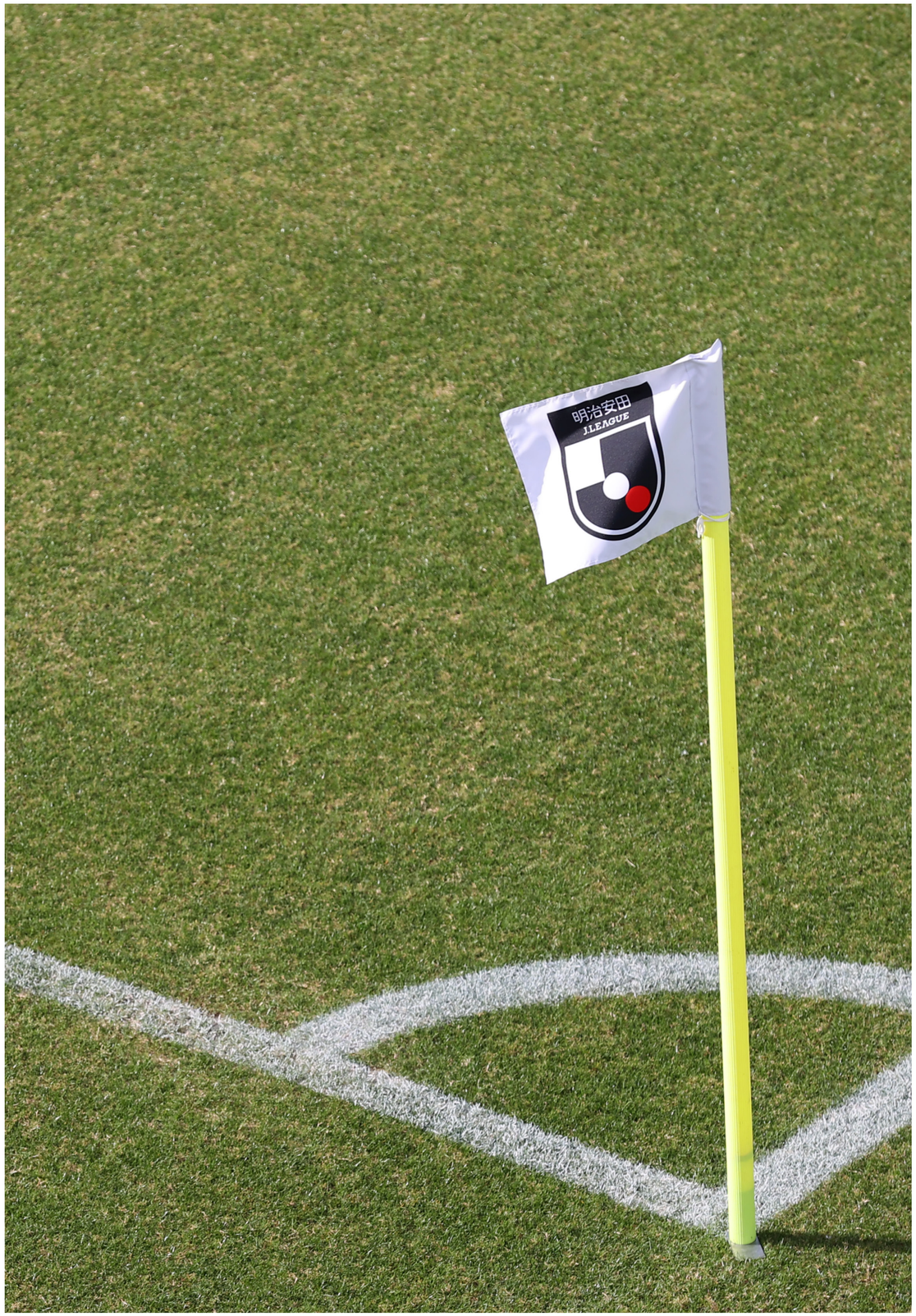
▶ 走行距離	試合中における移動距離の合計。アウトプレー時のデータも含まれる。
▶ タックル	相手選手がコントロールしているボールを、体あるいはボールへの接触によって足元から離すプレー。
▶ タックル奪取	タックル後のボールが自チームのプレーとなったタックルや、タックル後にファウルやボールアウトにより自チームのセットプレーとなった場合をタックル奪取とする。
▶ タックルライン	タックルの縦方向の位置(m)を平均化した数値。0が味方ゴールライン、105が相手ゴールライン。
▶ チャンスクリエイト	ペナルティーエリア内へのスルーパス成功、ペナルティーエリア内からのクロス成功、ラストパスの総称。
▶ デュエル勝利	空中戦を除く1対1での勝利総数で、ドリブルで相手選手を抜いた回数と、タックルで相手選手からボールを失わせた回数をカウント。
▶ ドリブル	守備側選手を抜こうとする、横にかわしてシュートを打とうとするなどの仕掛けるプレー。守備側選手と対峙せずに、単にボールを運んだ場合は含まない。
▶ ハイインテンシティ走行距離	時速20km以上での走行距離。
▶ HIRR(High Intensity Running Ratio)	フィールドプレーヤーの走行距離のうち時速 20km 以上の割合。
▶ パイパス	前方180度への成功したパスで飛ばした相手選手の人数。パスを出す瞬間の前方相手選手の人数から、味方がパスを受けた瞬間の前方相手選手の人数を引いた数値。パイパス数はパスを出した選手に、パイパス受け数はパスを受けた選手に加算。
▶ ハイプレス	相手陣内にボールがある状況で、守備側チームのミッドフィルダーラインとフォワードラインの中間ラインより相手ゴール側でプレーする攻撃側チームの選手に対してプレスをかけた場合をハイプレスとする。
▶ ハイプレッシング	ハイプレスから始まり、連続したプレスをかけた場合をハイプレッシングとする。
▶ パス	味方選手につなぐ意図があるプレー。パス数として利用する場合、クロスやスルーパスも数に含めるが、セットプレーによるパスは除外する。パスの距離区分はショート=15m未満、ミディアム=15m以上30m未満、ロング=30m以上と定義。パス方向は相手ゴール方向90度が前方、他の方向も90度ごとに設定。
▶ フィード	ゴールキーパーがキャッチした後のパス。セットプレーとキャッチをしていない流れの中でのパスは含まない。フィードはキックとスローに分類される。
▶ プレー	ボールを受けてからリリースするまでの一連の流れを1回としてカウント。クリアなどの守備プレーやワンタッチによるシュート、パスも1回としてカウント。一連の流れの中でボールに触れた回数は問わない。
▶ プレス	ボールを保持している選手に対して一定以上のスピードで接近した場合をプレスとする。
▶ ブロック	自分でボールをコントロールできない状態で、相手のシュートやパスなどを体に当てて受動的に防いだプレー。守備をする意図がない場合は該当しない。
▶ 平均ポジション	各ポジションで起用された選手のオフザボールも含めた位置を、ボール保持時とボール被保持時それぞれで平均化してマッピングした図。シーズン中に該当チームが最も利用したフォーメーション時の状況に限定。
▶ ペナルティーエリア進入(PA進入)	ペナルティーエリア外から相手ペナルティーエリアにボールが入り、そのエリア内で味方選手がプレーした場合、パスの出し手やドリブルなどエリア外からプレーを行った選手に対してカウント。相手ペナルティーエリア内にボールが入っても、そのパスやドリブルなどが失敗した場合は含まない。
▶ ボール保持率	アクチュアルプレーイングタイムに対する、自チームがボールを保持していた時間の割合。
▶ マーキング(マーク)	守備側チームの選手が攻撃側チームの選手に対して2m未満の距離を3秒間以上継続した場合に、1回のマークとしてカウント。
▶ ラストパス	シュートの一つ前のパス。シュートがゴールとなった場合のパス(アシスト)も含む。アシスト同様、シュート選手がボールをドリブルなどで運んだ場合もその距離を問わずラストパスとする。
▶ リゲイン	ボールロスト後に相手の攻撃をゲインしたプレー。ただし相手の攻撃がシュートに至った場合は含まない。
▶ ロスト(ボールロスト)	インプレーにおいて自チームの攻撃から相手チームの攻撃に切り替わったプレー。ファウルやボールアウトはボールロストに含まない。
▶ ロングスロー	スローインのうち、相手陣ペナルティーエリアの中央(ゴールライン延長線上の四角形)にノーバウンドで到達したスローイン。

▶ 自陣、相手陣



▶ アタッキングサード、ミドルサード、ディフェンシブサード





J.LEAGUE J STATS REPORT 2024

発行日	2025年1月27日　初版発行
発行所	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ（Jリーグ） 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル8階 https://www.jleague.jp
制作・編集	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
協力	データスタジアム株式会社 株式会社ソル・メディア（footballista編集部）
デザイン	種市一寛（PANTS）
写真提供	公益社団法人日本プロサッカーリーグ ヴィッセル神戸
データ提供	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ データスタジアム株式会社 SkillCorner SAS Stats Perform

本書の無断複写複製（コピー）は、特定の場合を除き、著作権の侵害となります。

STATs